

第7節 動物

実施区域及びその周辺には重要な動物種及び注目すべき生息地が存在し、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る重要な種及び注目すべき生息地への影響が考えられるため、調査、予測及び評価を行いました。

1. 調査結果の概要

1.1 調査の手法

(1) 調査項目

1) 動物相の状況

動物相（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類、底生動物、その他の動物：クモ類・ヤスデ類等・陸産貝類）の状況

2) 重要な種等の状況

- ・重要な種等の生態
- ・重要な種等の分布
- ・重要な種等の生息の状況
- ・重要な種等の生息環境の状況

(2) 調査手法

1) 動物相の状況

動物相の状況については、既存資料調査及び現地調査により把握しました。
現地調査は、表 11-7-1 に示す手法により行いました。

表 11-7-1 (1) 現地調査の手法

項目	調査手法	調査手法の解説
哺乳類	フィールドサイン法	調査地域内を任意に踏査し、糞、足跡、食痕、爪痕、営巣の跡等を目視で確認することにより生息種の記録を行った。
	トラップによる捕獲	調査地域内に、主にネズミ・モグラ等の小型哺乳類を対象に、生け捕り用罠（ネズミ類：シャーマントラップ、モグラ類：モールトラップ、カワネズミ：カゴ罠、コウモリ類：カスミ網・ハーブトラップ）等を設置し、捕獲することにより生息種の確認・記録を行った。
	直接観察 （夜間調査を含む）	調査地域内を任意に踏査し、目視等により生息種の確認・記録を行った。 コウモリ類については、夜間に直接観察及びバットディテクター（コウモリ探知機）により生息種の確認・記録を行った。
	カメラトラップ法	調査地域内に、主に中大型哺乳類を対象に、赤外線センサーによる自動撮影装置を設置し、撮影することにより生息種の確認・記録を行った。
鳥 類	ラインセンサス法	調査地域内に調査ルートを設定し、一定速度で歩きながら、一定範囲内において目視や鳴き声などにより確認された鳥類の種類及び個体数の記録を行った。
	定点観察法	調査地域内の見通しがきく場所等に観察地点を定め、そこから目視や鳴き声等により確認される鳥類の種類及び個体数等の記録を行った。
	任意観察 （夜間調査を含む）	調査地域内を任意に踏査し、目視や鳴き声等により確認される生息種の確認・記録を行った。
	猛禽類 定点観察法	調査地域内に観察地点（定点）を設置し、各地点の可視範囲内に出現する猛禽類を識別し、生息種の確認・記録を行った。各地点間は無線機により連携を図り、出現した猛禽類の飛翔の経路を記録した。また、必要に応じて幼鳥等の確認による営巣場所の特定を目的とした移動定点調査や、営巣木の位置を特定するための林内調査を実施した。
両生類	直接観察 （夜間調査を含む）	調査地域内を任意に踏査し、目視又は鳴き声により生息種の確認・記録を行った。
爬虫類	直接観察 （夜間調査を含む）	調査地域内を任意に踏査し、目視等により生息種の確認・記録を行った。
	トラップによる捕獲	調査地域内の主要な河川及び池において、主にカメ類を対象にかご罠を設置し、捕獲することにより生息種の確認・記録を行った。

表 11-7-1 (2) 現地調査の手法

項目		調査手法	調査手法の解説
魚 類		直接観察及び採取	調査地域内の主要な河川及び池において、投網、タモ網等を用いて採取することにより生息種の確認・記録を行った。
		トラップ等による採取	調査地域内の主要な河川及び池において、セルビ ん、刺し網、かご罟等を用いて捕獲することにより生 息種の確認・記録を行った。
昆虫類		直接観察及び採取	調査地域内を任意に踏査し、見つけ採り、スウィーピ ング、ビーティング等による任意採集により生息種の 確認・記録を行った。
		ライトトラップ法 (ボックス法)	調査地域内に設定した地点において、夜間に光源を 置き、これに集まった種（主にガ類、コウチュウ類等の 走光性昆虫）が大型ロート部に落ちたものを採集する ことにより生息種の確認・記録を行った。
		ベイトトラップ法	調査地域内に設定した地点において、誘因餌（バイ ト）を入れたプラスチックカップを地中に埋めて一晩 放置し、翌日誘引された種（主にオサムシ類、ゴミムシ 類、アリ類等の地表徘徊性昆虫）を採集することにより 生息種の確認・記録を行った。
底生動物		直接観察及び採取	調査地域内の主要な河川及び池において、タモ網等 を用いて採取することにより生息種の確認・記録を行 った。
		コドラート法	調査地域内の主要な河川及び池において、サーバー ネット、D フレームネット等を用いた定量採取を行い、 分析室に持ち帰り、分析することにより、生息種の確 認・記録を行った。
そ の 他 の 動 物	クモ類	直接観察及び採取	調査地域内を任意に踏査し、見つけ採り、スウィーピ ング、ビーティング等による任意採集により生息種の 確認・記録を行った。
	ヤスデ類等	直接観察及び採取	調査地域内を任意に踏査し、目視等により生息種の 確認・記録を行った。
	陸産貝類	直接観察及び採取	調査地域内を任意に踏査し、目視等により生息種の 確認・記録を行った。

2) 重要な種等の状況

① 重要な種等の生態

重要な種等の生態については、表 11-7-2 に示す図鑑、研究論文、その他の資料の収集により整理しました。

表 11-7-2 既存資料一覧

資料名	発行者	発行年月
日本の哺乳類〔改訂版〕	東海大学出版会	平成 6 年 12 月
原色日本野鳥生態図鑑＜陸鳥編＞	(株)保育社	平成 7 年 2 月
原色日本野鳥生態図鑑＜水鳥編＞	(株)保育社	平成 7 年 3 月
決定版 日本の野鳥 650	(株)平凡社	平成 26 年 1 月
日本の爬虫両生類 157	(株)文一総合出版	平成 21 年 4 月
山溪ハンディ図鑑 15 日本の淡水魚	(株)山と溪谷社	平成 27 年 12 月
新訂 原色昆虫大図鑑 第 I 巻（蝶・蛾篇）	(株)北隆館	平成 19 年 1 月
レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 5 昆虫	環境省	平成 27 年 2 月
レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 7 その他無脊椎動物（クモ形類・甲殻類等）	環境省	平成 26 年 10 月
彦根市で大切にすべき野生動物 -レッドデータブックひこね-	彦根市	平成 17 年 3 月
京都府レッドデータブック 2015※	京都府環境部 自然環境保全課	平成 27 年 4 月
兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2014（貝類・その他無脊椎動物）※	兵庫県農政環境部 環境創造局自然環境課	平成 26 年 3 月
改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物※	福井県安全環境部 自然環境課	平成 28 年 3 月
埼玉県レッドデータブック動物編 2018 （第 4 版）※	埼玉県環境部 みどり自然課	平成 30 年 3 月
岡山県版レッドデータブック 2020 動物編※	岡山県環境文化部 自然環境課	令和 2 年 3 月
滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版	滋賀県生き物総合 調査委員会	令和 3 年 3 月

※）重要な種の一般生態を部分的に引用した。

② 重要な種等の分布、生息の状況及び生息環境の状況

重要な種等の分布、生息の状況及び生息環境の状況については、表 11-7-3 に示す選定基準に該当する種を対象に、「1) 動物相の状況」の調査と併せて行いました。

表 11-7-3(1) 重要な種等の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
	「滋賀県文化財保護条例」(昭和 31 年 12 月 25 日滋賀県条例第 57 号)	県天：県指定天然記念物
	対象市町(彦根市、近江八幡市、東近江市、米原市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町)の定める文化財保護条例	市天：市指定天然記念物 町天：町指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年6月5日法律第75号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 特定一種：特定第一種国内希少野生動植物種 特定二種：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」 (平成18年3月30日滋賀県条例第4号)	指定：指定希少野生動植物種 希少：希少野生動植物種 ※指定希少野生動植物種及び希少野生動植物種の両方に該当する種は、指定希少野生動植物種の凡例を示した。
④	「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省報道発表資料)	EX：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅(飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種) CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種) CR：絶滅危惧ⅠA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種) EN：絶滅危惧ⅠB類(ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種) VU：絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種) NT：準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) DD：情報不足(評価するだけの情報が不足している種) LP：絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群)

表 11-7-3(2) 重要な種等の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
⑤	「滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版」(令和 3 年 3 月、滋賀県生き物総合調査委員会)	絶滅：絶滅種（県内において野生で絶滅したと判断される種） 絶危：絶滅危惧種（県内において絶滅の危機に瀕している種（亜種・変種を含む）） 絶増：絶滅危機増大種（県内において絶滅の危機が増大している種） 希少：希少種（県内において存続基盤がぜい弱な種） 要注：要注目種（県内において評価するだけの情報が不足しているため注目することが必要な種） 分布：分布上重要種（県内において分布上重要な種） その他：その他重要種（全国及び近隣府県の状況から県内において注意が必要な種）
⑥	「彦根市で大切にすべき野生生物 -レッドデータブックひこね-」 (平成 17 年 3 月、彦根市)	絶滅：絶滅種（彦根市内ではすでに絶滅したと考えられる種） 絶危：絶滅危惧種（彦根市内において絶滅の危機に瀕している種） 危急：危急種（彦根市内において絶滅の危機が増大している種） 希少：希少種（彦根市内において存続基盤が脆弱な種） 要注：要注目種（彦根市内の生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種及び情報が不足している種） ※哺乳類及び魚類では、以下の通り分けて記載した。 要注Ⅰ：今後の動向を注目すべき種 要注Ⅱ：情報が不足している種
⑦	「近畿地区鳥類レッドデータブックー絶滅危惧種判定システムの開発ー」(平成 14 年 3 月、京都大学学術出版会)	繁：繁殖個体群 冬：越冬個体群 夏：夏季滞在個体群 通：通過個体群 ランク 1：危機的絶滅危惧種 ランク 2：絶滅危惧種 ランク 3：準絶滅危惧種 ※滋賀県での判定結果

③ 注目すべき生息地の状況

注目すべき生息地の状況については、表 11-7-4 に示す選定基準に該当する生息地を把握しました。

表 11-7-4 注目すべき生息地の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号) 「滋賀県文化財保護条例」 (昭和 31 年 12 月 25 日滋賀県条例第 57 号) 及び対象市町(彦根市、近江八幡市、東近江市、米原市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町)の定める文化財保護条例	国指定特別天然記念物 国指定天然記念物 県指定天然記念物 市指定天然記念物 町指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日法律第75号)	生息地等保護区(動物に係るもの)
③	「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」(平成18年3月30日滋賀県条例第4号)	希少野生動植物種の生息・生育保護区
④	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」 (昭和55年10月17日条約第28号)	条約湿地
⑤	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(平成4年9月28日条約第7号)	自然遺産の登録基準に該当するもの
⑥	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」 (令和5年4月現在、環境省HP)	指定湿地
⑦	「滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック2005年版」(平成18年6月、滋賀県生き物総合調査委員会)	保全すべき群集・群落・個体群

(3) 調査地域

調査地域は、方法書段階の実施区域及びその端部から概ね 250m の範囲を目安とし、動物の特性及び地形や植生の連続性を考慮しながら適宜拡大・縮小しました。特に、行動圏の広い猛禽類については、確認状況に応じて調査範囲を適宜拡大しました。

なお、調査にあたっては、調査地域の地形、水系、植生等を踏まえて、調査地域を A～E の 5 ブロックに区分し、ブロックごとに調査結果を整理しました。

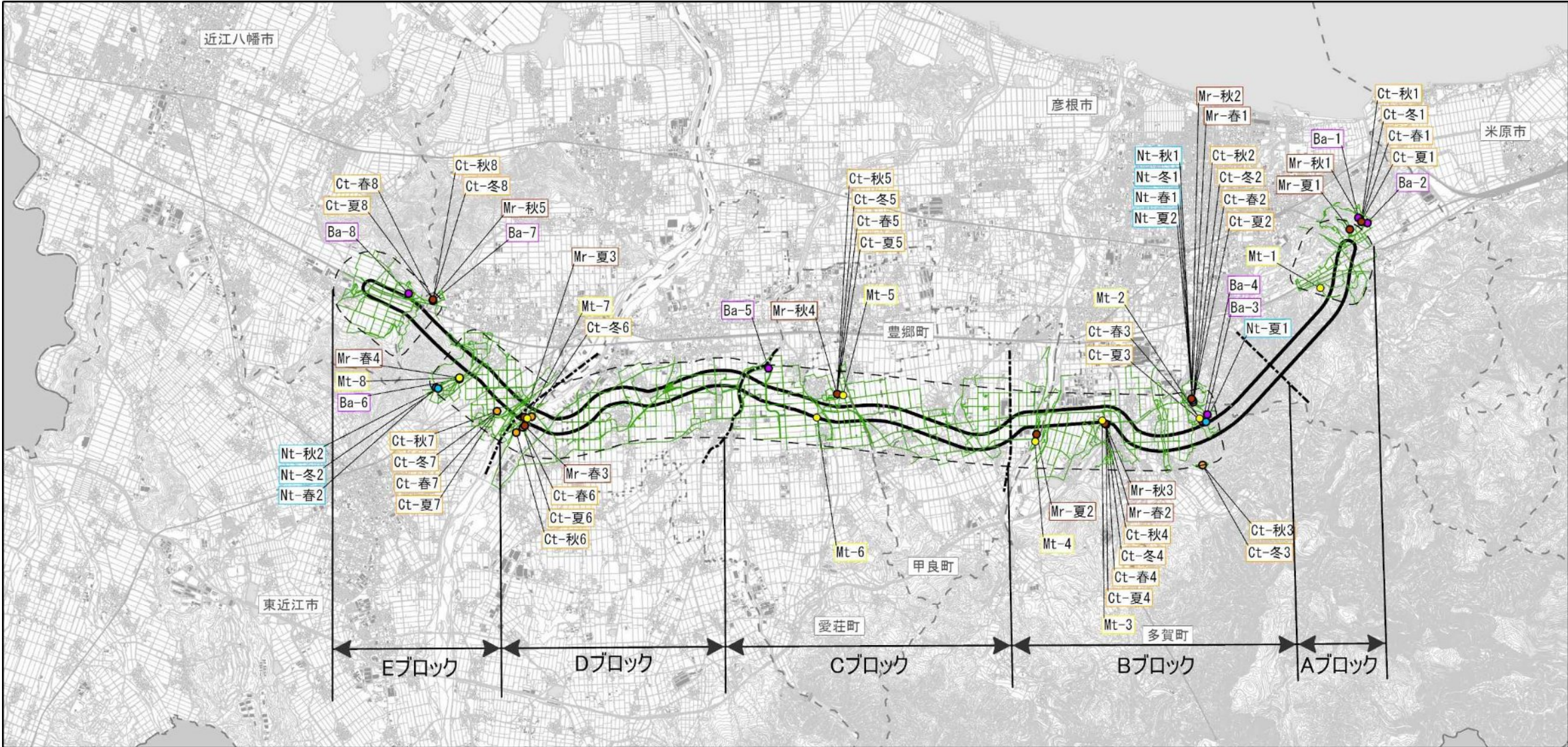
各ブロックの概要は以下に示すとおりです。

- ・ブロック A：丘陵地に二次林や植林が広がり、低地に田園が広がる範囲
- ・ブロック B：丘陵地から低地にかけて植林や田園が広がり、芹川、犬上川を含む範囲
- ・ブロック C：低地に田園が広がり、宇曽川を含む範囲
- ・ブロック D：低地に田園が広がり、宇曽川、愛知川を含む範囲
- ・ブロック E：丘陵地から低地にかけて植林や田園が広がり、愛知川を含む範囲

(4) 調査地点

調査地点及び調査ルートは、調査地域に生息する動物の生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域に生息する動物を確認しやすい場所に設定しました。

調査地点及び調査ルートは、図 11-7-1～図 11-7-7 に示すとおりです。



凡 例

記 号	名 称
●	シャーメントラップ設置地点 (Mt)
●	モールトラップ設置地点 (Mr)
●	カゴ罠設置地点 (Nt)
●	カスミ網・ハーブトラップ設置地点 (Ba)
●	カメラトラップ設置地点 (Ct)
—	踏査ルート

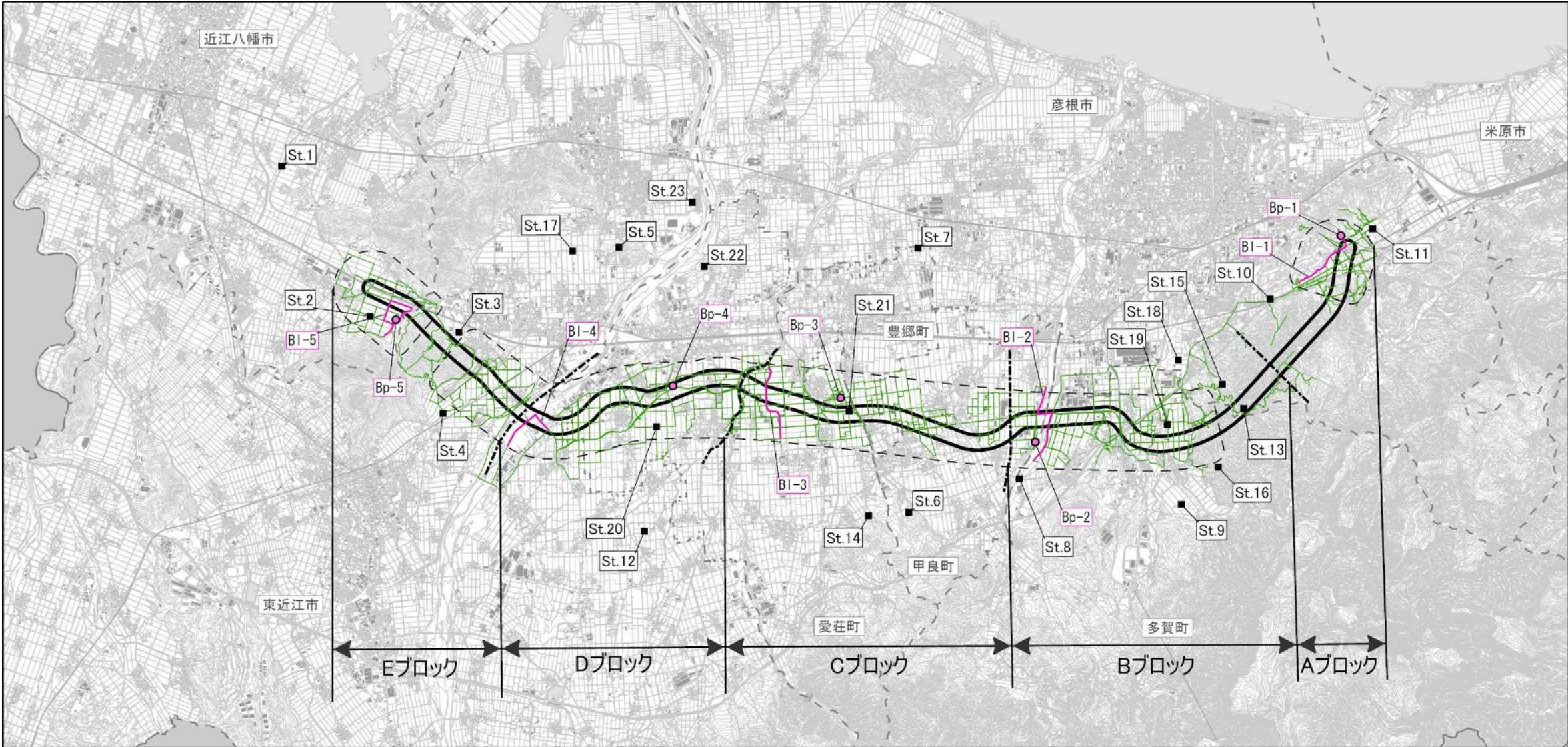
凡 例	
○	都市計画対象道路事業実施区域
<--->	調査地域

S = 1 : 100,000

0.5 1 2 3 km



図 11-7-1 哺乳類調査位置図



凡 例

記 号	名 称
■	猛禽類調査定点 (St)
●	鳥類調査定点 (Bp)
—	鳥類ラインセンサスルート (BI)
—	踏査ルート

凡 例

—	都市計画対象道路事業実施区域
—	調査地域

S = 1 : 100,000

0 0.5 1 2 3 km



図 11-7-2 鳥類調査位置図

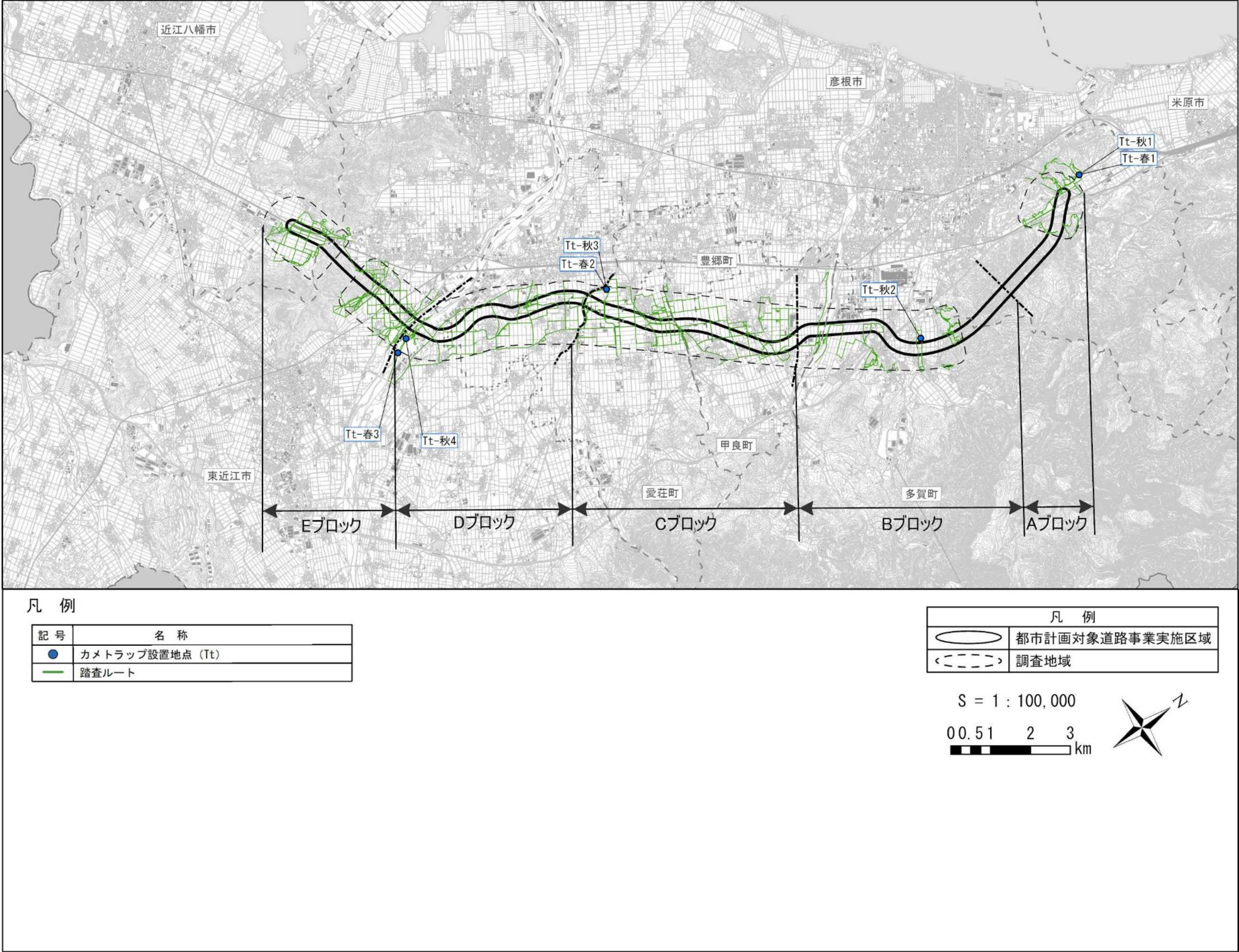
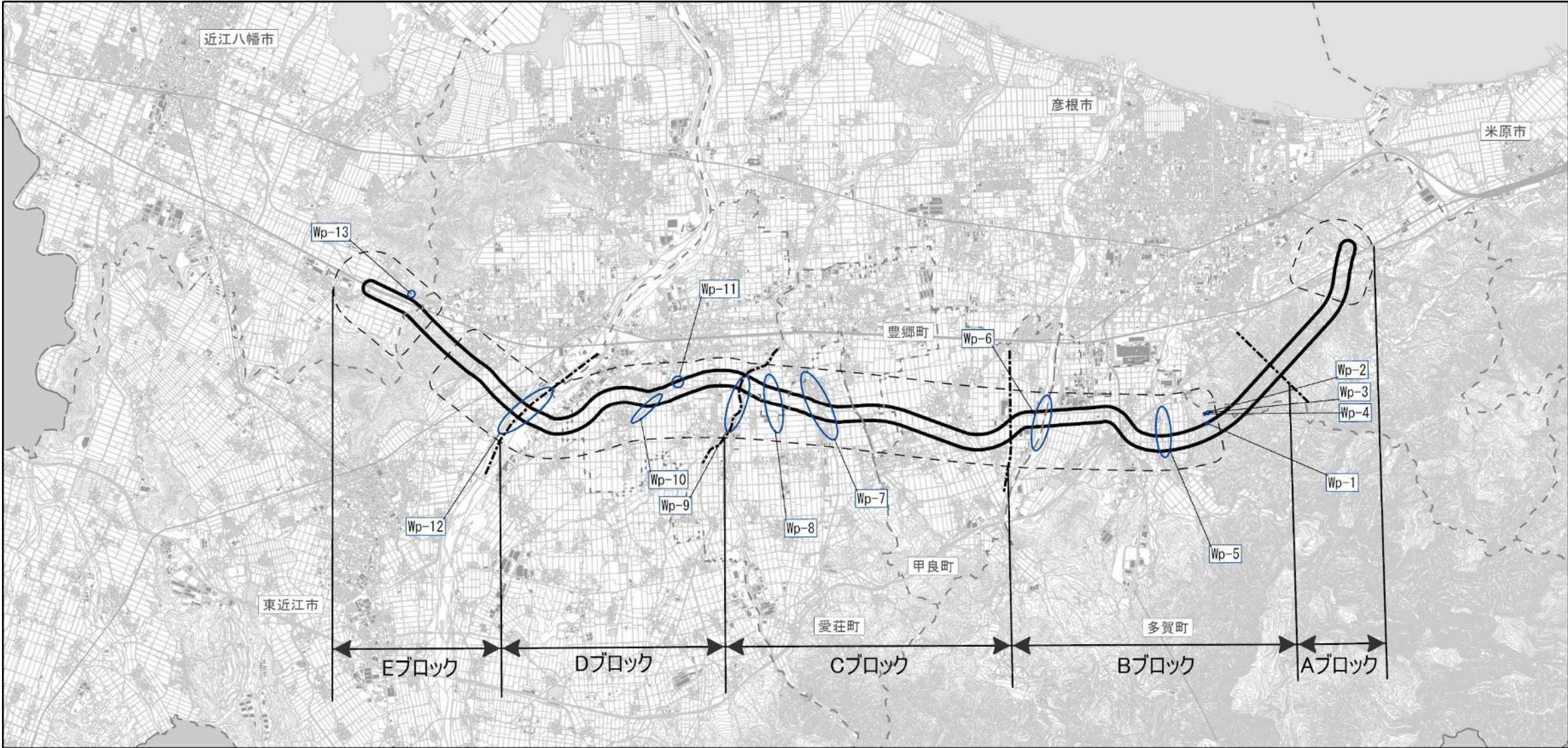


図 11-7-3 両生類・爬虫類調査位置図



凡 例

記 号	名 称
	魚類・底生動物調査地点 (Wp)

凡 例

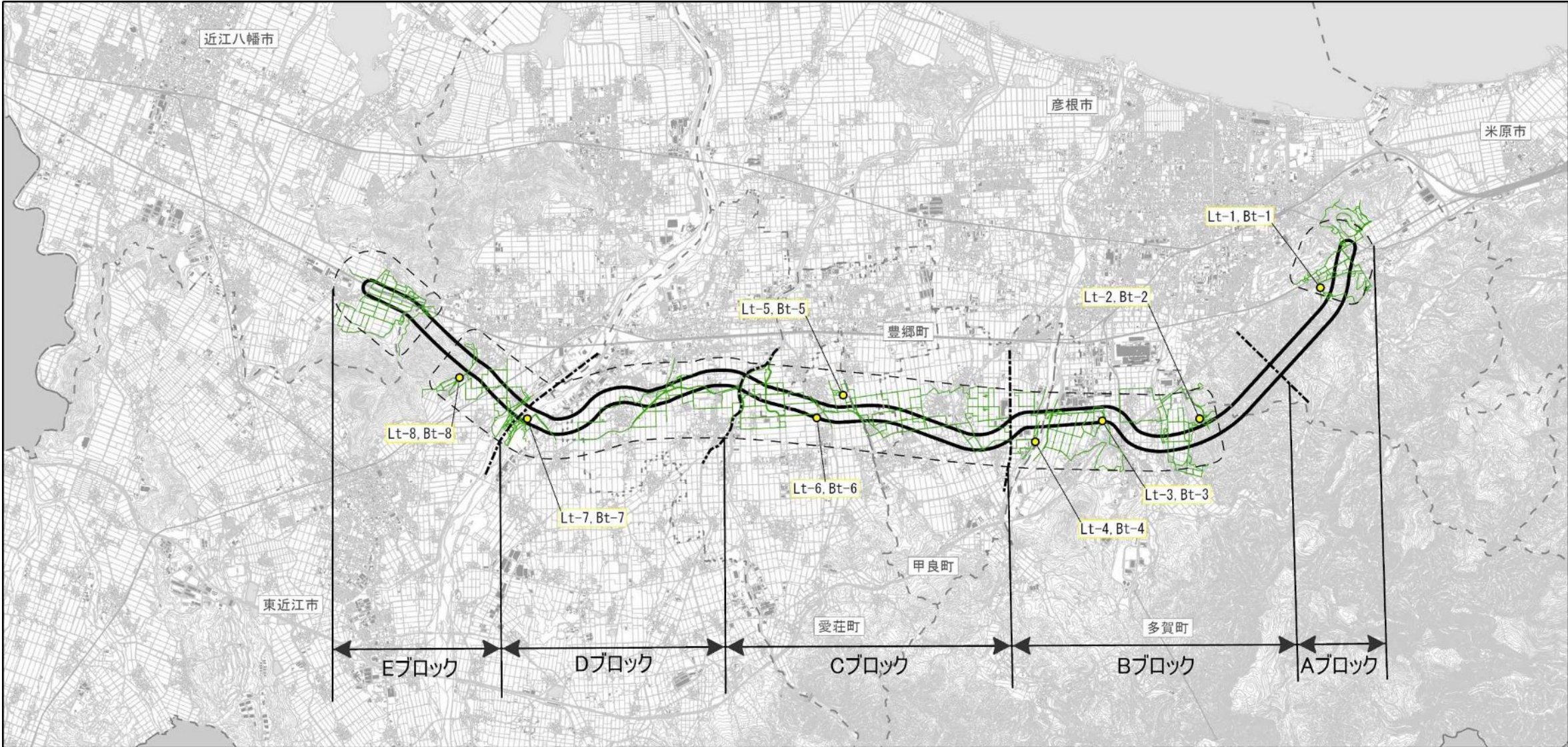
	都市計画対象道路事業実施区域
	調査地域

S = 1 : 100,000

0 0.5 1 2 3 km



図 11-7-4 魚類・底生動物調査位置図



凡 例

記 号	名 称
●	ライトトラップ・ペイトトラップ設置地点 (Lt・Bt)
—	踏査ルート

凡 例

○	都市計画対象道路事業実施区域
⋯	調査地域

S = 1 : 100,000

0 0.5 1 2 3 km



図 11-7-5 昆虫類・その他の動物（クモ類）調査位置図

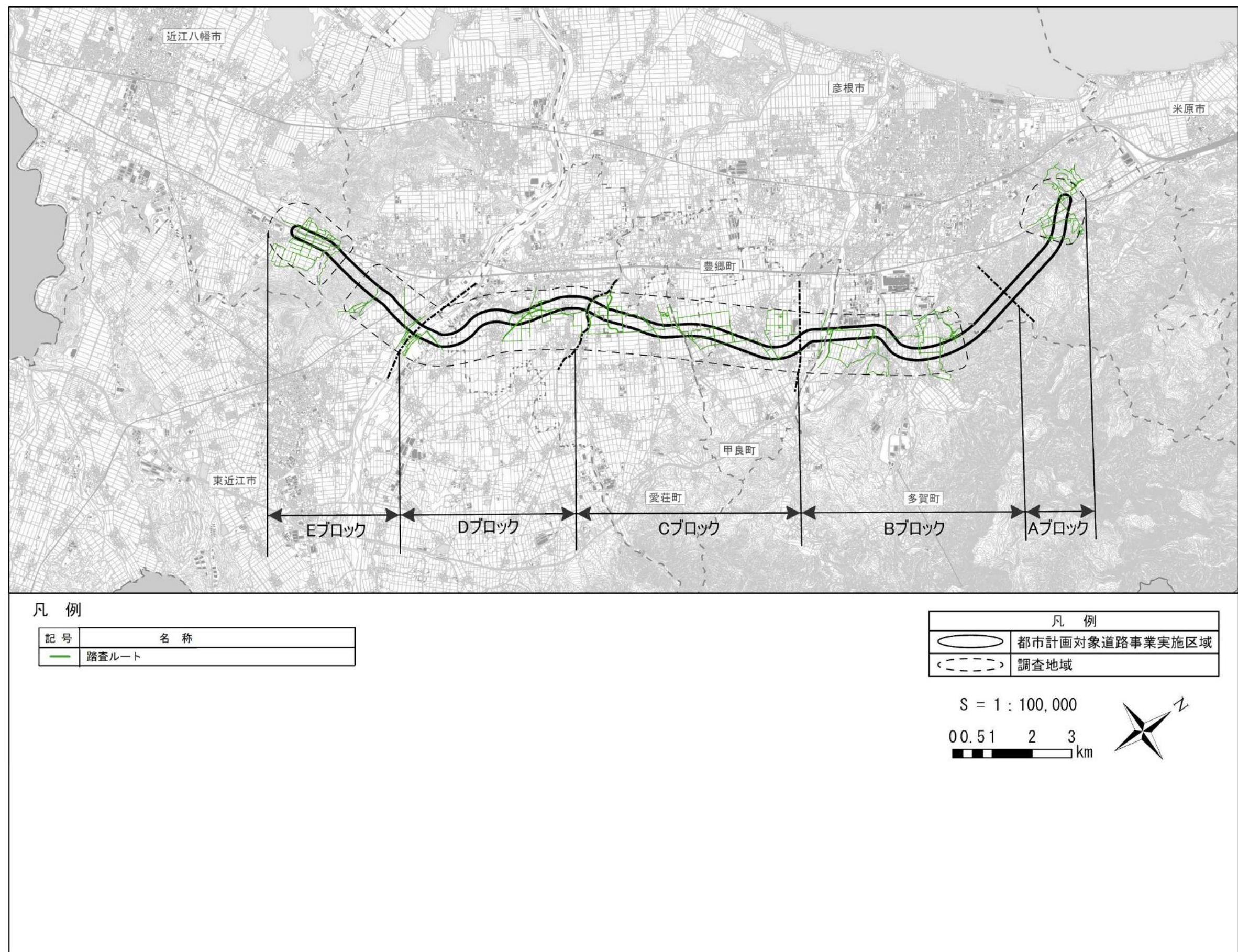


図 11-7-6 その他の動物（ヤスデ類等）調査位置図

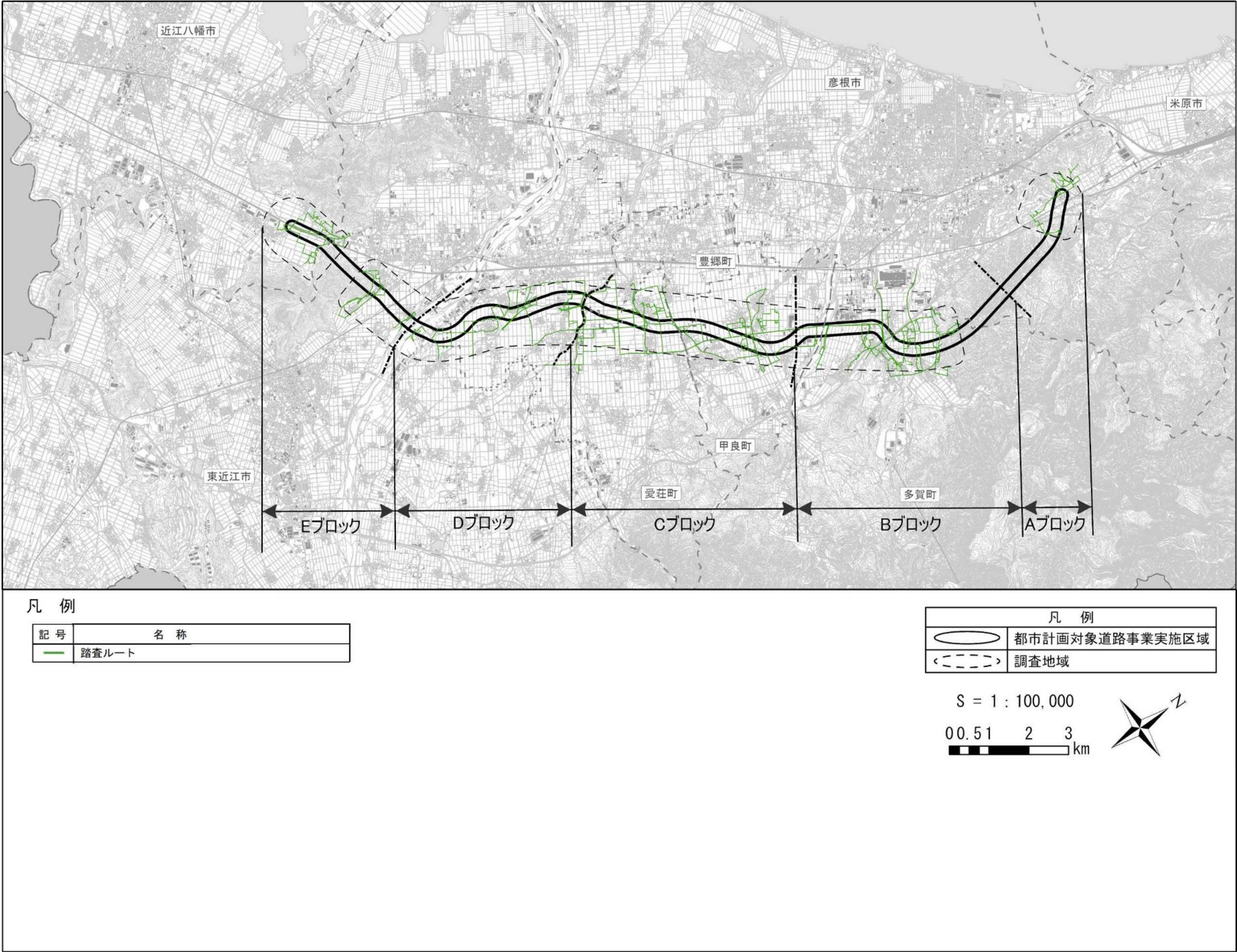


図 11-7-7 その他の動物（陸産貝類）調査位置図

(5) 調査期間等

調査時期は、春季・夏季・秋季・冬季の4季実施を基本とし、調査地域に生息する動物の生態的な特性を考慮し、確認しやすい時期及び時間帯としました。猛禽類については、生態的特性から、より詳細な調査が必要であることを考慮し、2 営巣期の調査を実施しました。

また、上記に加え、「滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版」(令和3年3月、滋賀県生き物総合調査委員会)の公表に伴い、新たに重要な種となった種(昆虫類及び底生動物)を対象とした補足調査を実施しました。

各項目の調査期間等は、表 11-7-5 に示すとおりです。

表 11-7-5(1) 調査期間等

項目	調査手法	調査実施日
哺乳類	フィールドサイン法	秋季：令和元年10月28日～31日
	トラップによる捕獲	冬季：令和2年1月20日～23日
	直接観察(夜間調査を含む)	春季：令和2年5月19日～23日
	カメラトラップ法	夏季：令和2年7月20日～23日
鳥類	ラインセンサス法	秋季：令和元年10月21日～23日
	定点観察法	冬季：令和2年1月20日～22日
	任意観察(夜間調査を含む)	春季：令和2年5月19日～23日
		夏季：令和2年7月20日～23日
猛禽類	定点観察法	【1 営巣期目】 平成29年2月14日～16日 平成29年3月7日～9日 平成29年5月29日～31日 平成29年6月21日～23日 平成29年7月19日～21日 平成29年8月2日～4日 【2 営巣期目】 平成30年1月10日～12日 平成30年2月14日～16日 平成30年3月5日～7日 平成30年4月30日～5月2日 平成30年5月28日～30日 平成30年6月25日～27日 平成30年7月18日～20日 平成30年8月8日～10日

表 11-7-5(2) 調査期間等

項目		調査手法	調査実施日
両生類		直接観察 (夜間調査を含む)	秋 季：令和元年 10 月 28 日～31 日 早春季：令和 2 年 3 月 20 日～21 日 春 季：令和 2 年 5 月 19 日～23 日
爬虫類		直接観察 (夜間調査を含む)	秋 季：令和元年 10 月 28 日～31 日 春 季：令和 2 年 5 月 19 日～23 日
		トラップによる捕獲	
魚類		直接観察及び採取	秋 季：令和元年 10 月 29 日～31 日
		トラップ等による採取	春 季：令和 2 年 6 月 22 日～25 日
昆虫類		直接観察及び採取	秋 季：令和元年 10 月 21 日～23 日 春 季：令和 2 年 5 月 19 日～24 日
		ライトトラップ法 (ボックス法)	夏 季：令和 2 年 7 月 20 日～23 日 【補足調査（直接観察及び採取）】※
		ベイトトラップ法	秋 季：令和 3 年 11 月 1 日～2 日 春 季：令和 4 年 6 月 2 日～3 日
底生動物		直接観察及び採取	冬 季：令和 2 年 2 月 5 日～7 日 夏 季：令和 2 年 6 月 22 日～25 日 【補足調査（直接観察及び採取）】※
		コドラート法	冬 季：令和 4 年 2 月 15 日 春 季：令和 4 年 6 月 2 日～3 日
その他の動物	クモ類	直接観察及び採取	秋 季：令和元年 10 月 21 日～23 日 春 季：令和 2 年 5 月 19 日～24 日 夏 季：令和 2 年 7 月 20 日～23 日
	ヤスデ類等	直接観察及び採取	春 季：令和 2 年 5 月 19 日～24 日 夏 季：令和 2 年 7 月 20 日～23 日
	陸産貝類	直接観察及び採取	秋 季：令和元年 10 月 28 日～31 日 夏 季：令和 2 年 6 月 15 日～18 日

※) 補足調査は、「滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020 年版」(令和 3 年 3 月、滋賀県生き物総合調査委員会)の公表に伴い、新たに重要な種となった種を対象とした。

1.2 調査の結果

(1) 既存資料調査結果

既存資料調査における動物相の状況及び重要な種等の状況の調査結果は、「第4章 第1節 5. 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況」に示すとおりです。

(2) 現地調査結果

現地調査結果の概要は、表 11-7-6 に示すとおりです。

表 11-7-6 (1) 現地調査結果の概要

項目	確認種数	重要な種
哺乳類	7 目 14 科 24 種	ジネズミ、ヒミズ、モグラ属 ^{*1} 、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ヒナコウモリ科 ^{*2} 、コウモリ目 ^{*3} 、ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、ムササビ、カヤネズミ、ホンドテン、ニホンイタチ、イタチ属 ^{*4} 、アナグマの 13 種
鳥類 (猛禽類含む)	15 目 41 科 107 種	オシドリ、ヨシガモ、カイツブリ、アオバト、ゴイサギ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、コサギ、ホトトギス、ケリ、イカルチドリ、コチドリ、タシギ、クサシギ、キアシシギ、イソシギ、ミサゴ、ハチクマ、オオワシ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、クマタカ、フクロウ、カワセミ、オオアカゲラ、アオゲラ、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウ、ハヤブサ、ヤイロチョウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、キクイタダキ、コガラ、ヤブサメ、メボソムシクイ上種 ^{*5} 、オオムシクイ、オオヨシキリ、セッカ、ミソサザイ、トラツグミ、クロツグミ、ルリビタキ、イソヒヨドリ、キビタキ、オオルリ、カヤクグリ、ハクセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、ベニマシコ、ウソ、シメ、ホオアカ、クロジの 60 種
両生類	2 目 7 科 14 種	ヤマトサンショウウオ、アカハライモリ、ヒキガエル属 ^{*6} 、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、アカガエル属 ^{*7} 、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、ツチガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエルの 12 種
爬虫類	2 目 8 科 12 種	ニホンイシガメ、ニホンスッポン、ニホントカゲ、トカゲ属 ^{*8} 、シロマダラ、ヒバカリ、ニホンマムシの 6 種
魚類	6 目 16 科 38 種	スナヤツメ類 ^{*9} 、フナ属 ^{*10} 、ヤリタナゴ、アブラボテ、ハス、ヌマムツ、アブラハヤ、タカハヤ、モツゴ、ビワヒガイ、ムギツク、ホンモロコ、スゴモロコ類 ^{*11} 、ドジョウ、シマドジョウ種群 ^{*12} 、アジメドジョウ、ホトケドジョウ、ギギ、ナマズ、アカザ、アユ、ビワマス、ミナミメダカ、カジカ、ドンコ、シマヒレヨシノボリの 26 種

表 11-7-6 (2) 現地調査結果の概要

項目		確認種数	重要な種
昆虫類		22 目 240 科 1,185 種	モートンイトトンボ、タベサナエ、フタスジサナエ、ナツアカネ、カワラバタ、ハルゼミ、エノキカイガラキジラミ、ハラグロコミズムシ、コオイムシ、カクレクロスジヘビトンボ、ミドリシジミ、ジャコウアゲハ本土亜種、マドガ、コキベリアオゴミムシ、シマゲンゴロウ、マルケシゲンゴロウ、ヒメシマチビゲンゴロウ、ゴマダラチビゲンゴロウ、マダラコガシラミズムシ、エグリゴミムシ、スジヒラタガムシ、コガムシ、ガムシ、オオセンチコガネ、コケシマグソコガネ、セマルケシマグソコガネ、マクガタテントウ、ムナグロチャイロテントウ、トゲアリ、ヤマトアシナガバチ、モンズズメバチ、チャイロスズメバチ、アオスジクモバチの 33 種
底生動物		24 目 102 科 261 種	マルタニシ、オオタニシ、モノアラガイ、ヒラマキガイモドキ、ドブシジミ、ミドリビル、イボビル、サワガニ、アオイトトンボ、アオサナエ、タベサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、トラフトンボ、コオイムシ、ミズカマキリ、ヒメシマチビゲンゴロウ、ゴマダラチビゲンゴロウ、コクロマメゲンゴロウ、コミズスマシ、ミズスマシ、コオナガミズスマシ、オナガミズスマシ、ヒメコガシラミズムシ、マダラコガシラミズムシ、コガムシ、ヨコミゾドロムシの 27 種
その他の動物	クモ類	1 目 26 科 139 種	キノボリトタテグモ、ヒメヤマヤチグモの 2 種
	ヤスデ類等	14 目 25 科 35 種	アカサビザトウムシの 1 種
	陸産貝類	2 目 12 科 45 種	ナガオカモノアラガイ、ヒラベッコウ、ウメムラシタラガイ、ヒメカサキビ、エチゼンビロウドマイマイ、ニッポンマイマイ、コベソマイマイ、オオミケマイマイ、ギューリキマイマイ（イセノナマイマイ）、イブキクロイワマイマイ、カタマメマイマイ、マメマイマイ、タワラガイの 13 種

注) 「〇〇属」や「〇〇科」等、種を同定できなかったものについては、同属、同科に所属する種が確認されている場合、種数に含めなかった。

- ※1) アズマモグラの場合に該当する。
- ※2) ユビナガコウモリの場合に該当する。
- ※3) ヒナコウモリ、オヒキコウモリの場合に該当する。
- ※4) ニホンイタチの場合に該当する。
- ※5) メボソムシクイ、オオムシクイの場合に該当する。
- ※6) ニホンヒキガエル、アズマヒキガエルの場合に該当する。
- ※7) ニホンアカガエル、ヤマアカガエルの場合に該当する。
- ※8) ニホントカゲ、ヒガシニホントカゲの場合に該当する。
- ※9) スナヤツメ北方種、スナヤツメ南方種の場合に該当する。
- ※10) ニゴロブナ、ギンブナの場合に該当する。
- ※11) スゴモロコの場合に該当する。
- ※12) オオシマドジョウ、ニシシマドジョウの場合に該当する。

1) 哺乳類

① 哺乳類の生息状況

現地調査の結果、表 11-7-7 に示すとおり、7 目 14 科 24 種の哺乳類が確認されました。

現地調査で確認された哺乳類は、ニホンザル、アカネズミ、タヌキ、ホンドテン、ニホンジカ等でした。

表 11-7-7 現地調査による確認種一覧（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	調査時期				
				秋季	冬季	早春季	春季	夏季
1	モグラ（食虫）	トガリネズミ	ジネズミ	○				
2		モグラ	ヒミズ				○	
3			モグラ属 ^{※1}	○	○		○	○
4	コウモリ（翼手）	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	○				
5		ヒナコウモリ	モモジロコウモリ					○
6			アブラコウモリ				○	○
-			ヒナコウモリ科 ^{※2}	○			○	○
-		-	コウモリ目（翼手目） ^{※3}	○			○	
7	サル（霊長）	オナガザル	ニホンザル	○	○	○	○	○
8	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	○	○			○
9	ネズミ（齧歯）	リス	ニホンリス	○				
10			ムササビ	○				○
11		ネズミ	アカネズミ	○	○		○	○
12			カヤネズミ	○	○		○	○
13			ハツカネズミ		○			
14			クマネズミ属 ^{※4}				○	
15	ネコ（食肉）	アライグマ	アライグマ	○	○		○	○
16		イヌ	タヌキ	○	○		○	○
17			キツネ	○	○		○	○
18		イタチ	ホンドテン	○	○		○	○
19			シベリアイタチ	○	○		○	
20			ニホンイタチ	○				○
-			イタチ属 ^{※5}	○	○		○	○
21			アナグマ	○	○		○	○
22		ジャコウネコ	ハクビシン	○	○		○	○
23	ウシ（偶蹄）	イノシシ	イノシシ	○	○		○	○
24		シカ	ニホンジカ	○	○		○	○
計	7 目	14 科	24 種	20 種	15 種	1 種	16 種	17 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」

（令和 4 年 11 月、国土交通省）に従った。

注 2) 早春季は、他項目調査時に確認した種である。

※1) 固い地面を掘っていることから前肢が頑強なコウベモグラ又はアズマモグラとして扱った。

※2) バットディテクターによる 40～50kHz の周波数帯の鳴き声の確認であり、開放的な空間で確認されたため、アブラコウモリ又はユビナガコウモリとして扱った。

※3) バットディテクターによる約 20kHz の周波数帯の鳴き声の確認であり、文献調査により確認されたヒナコウモリ、オヒキコウモリとして扱った。

※4) 本州に生息するクマネズミ属のうち、クマネズミ、ドブネズミとして扱った。

※5) 顔の模様、尾の長さ、体色等がよく確認できなかった個体について、シベリアイタチとニホンイタチの判断ができないため、イタチ属として扱った。

② 重要な哺乳類

現地調査で確認された重要な哺乳類は、表 11-7-8 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な哺乳類はコキクガシラコウモリ、ムササビ、カヤネズミ等 13 種でした。

表 11-7-8 現地調査により確認された重要な哺乳類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	モグラ (食虫)	トガリネズミ	ジネズミ					要注	要注Ⅱ
2		モグラ	ヒミズ						要注Ⅱ
3			モグラ属 ^{※1}			希少 ^{※5}		希少 ^{※5}	希少 ^{※5}
4	コウモリ (翼手)	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ			希少		絶危	絶危
5		ヒナコウモリ	モモジロコウモリ			希少		絶危	
-			ヒナコウモリ科 ^{※2}			希少 ^{※6}		絶危 ^{※6}	
-		-	コウモリ目(翼手目) ^{※3}			指定 ^{※7}	VU ^{※8}	絶危 ^{※7} 要注 ^{※8}	
6	サル (霊長)	オナガザル	ニホンザル					要注	要注Ⅰ
7	ウサギ	ウサギ	ノウサギ						要注Ⅰ
8	ネズミ (齧歯)	リス	ニホンリス						危急
9			ムササビ			希少		希少	危急
10		ネズミ	カヤネズミ			希少		希少	希少
11	ネコ (食肉)	イタチ	ホンドテン						要注Ⅰ
12			ニホンイタチ						要注Ⅰ
-			イタチ属 ^{※4}						要注Ⅰ ^{※9}
13			アナグマ						要注Ⅱ
計	6 目	9 科	13 種	0 種	0 種	5 種	1 種	7 種	12 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」(令和 4 年 11 月、国土交通省)に従った。

注 2) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-7-3 に示すとおりである。

注 3) ハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミ、シベリアイタチ及びハクビシンは、「彦根市で大切にすべき野生生物 - レッドデータブックひこね -」で重要種に指定されているが、侵入生物データベース((国研) 国立環境研究所)で国外外来種に指定されているため、除外した。

※1) 固い地面を掘っていることから前肢が頑強なコウベモグラ又はアズマモグラとして扱った。

※2) バットディテクターによる 40~50kHz の周波数帯の鳴き声の確認であり、開放的な空間で確認されたため、アブラコウモリ又はユビナガコウモリとして扱った。

※3) バットディテクターによる約 20kHz の周波数帯の鳴き声の確認であり、文献調査により確認されたヒナコウモリ、オヒキコウモリのいずれかとして扱った。

※4) 顔の模様、尾の長さ、体色等がよく確認できなかった個体について、シベリアイタチとニホンイタチの判断ができないため、イタチ属として扱った。

※5) アズマモグラの場合に該当するランクを示す。

※6) ユビナガコウモリの場合に該当するランクを示す。

※7) ヒナコウモリの場合に該当するランクを示す。

※8) オヒキコウモリの場合に該当するランクを示す。

※9) ニホンイタチの場合に該当するランクを示す。

2) 鳥類

① 鳥類の生息状況

現地調査の結果、表 11-7-9 に示すとおり、15 目 41 科 107 種の鳥類が確認されました。

現地調査で確認された鳥類は、カワウ、アオサギ、モズ、ヤマガラ、ハクセキレイ等でした。

表 11-7-9(1) 現地調査による確認種一覧（鳥類）

No.	目名	科名	種名	調査時期				猛禽類 ※1 調査
				秋季	冬季	春季	夏季	
1	キジ	キジ	キジ		○	○	○	
2	カモ	カモ	オンドリ	○	○		○	
3			オカヨシガモ	○	○			
4			ヨシガモ		○			
5			ヒドリガモ	○	○			
6			マガモ	○	○			
7			カルガモ	○	○	○	○	
8			ハシビロガモ	○				
9			オナガガモ	○				
10			コガモ	○	○			
11			キンクロハジロ		○			
12	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○	○	○	○	
13	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	○	○	○		
14			キジバト	○	○	○	○	
15			アオバト	○	○	○		
16	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○	○	○	
17	ペリカン	サギ	ゴイサギ				○	
18			ササゴイ				○	
19			アマサギ			○	○	
20			アオサギ	○	○	○	○	
21			ダイサギ	○	○	○	○	
22			チュウサギ			○	○	
23			コサギ			○	○	
24	ツル	クイナ	オオバン		○	○		
25	カッコウ	カッコウ	ホトトギス			○	○	
26	チドリ	チドリ	ケリ	○	○	○	○	
27			イカルチドリ		○	○	○	
28			コチドリ			○		
29		シギ	タシギ	○	○			
30			クサシギ	○	○	○		
31			キアシシギ			○		
32			イソシギ				○	
33	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○		○	○	○
34		タカ	ハチクマ					○
35			トビ	○	○	○	○	
36			オオワシ					○
37			チュウヒ		○			○
38			ハイイロチュウヒ					○
39			ツミ	○				○
40			ハイタカ		○	○		○
41			オオタカ		○		○	○
42			サシバ			○		○
43			ノスリ	○	○			○
44			クマタカ	○				○

表 11-7-9(2) 現地調査による確認種一覧（鳥類）

No.	目名	科名	種名	調査時期				猛禽類 調査※ 1
				秋季	冬季	春季	夏季	
45	フクロウ	フクロウ	フクロウ		○	○	○	
46	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○	○	○	○	
47	キツツキ	キツツキ	コゲラ	○	○	○	○	
48			オオアカゲラ				○	
49			アオゲラ	○	○		○	
50	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	○	○		○	○
51			コチョウゲンボウ		○			
52			ハヤブサ	○	○			
53	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ			○		
54		サンショウクイ	サンショウクイ			○	○	
55		カササギヒタキ	サンコウチョウ			○	○	
56		モズ	モズ	○	○	○	○	
57		カラス	カケス	○	○	○	○	
58			ハシボソガラス	○	○	○	○	
59			ハシブトガラス	○	○	○	○	
60		キクイタダキ	キクイタダキ		○			
61		シジュウカラ	コガラ	○	○	○	○	
62			ヤマガラ	○	○	○	○	
63			ヒガラ	○	○	○	○	
64			シジュウカラ	○	○	○	○	
65		ヒバリ	ヒバリ	○	○	○	○	
66		ツバメ	ツバメ			○	○	
67			イワツバメ	○		○		
68		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	
69		ウグイス	ウグイス	○	○	○	○	
70			ヤブサメ			○		
71		エナガ	エナガ	○	○	○	○	
-		ムシクイ	メボソムシクイ上種※2	○				
72			オオムシクイ			○		
73		チメドリ	ソウシチョウ		○			
74		メジロ	メジロ	○	○	○	○	
75		ヨシキリ	オオヨシキリ			○	○	
76		セッカ			○	○	○	
77		ミソサザイ	ミソサザイ		○			
78		ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	
79		ヒタキ	トラツグミ		○	○	○	
80			クロツグミ	○			○	
81			シロハラ	○	○			
82			ツグミ		○			
83			ルリビタキ	○	○			
84			ジョウビタキ	○	○			
85			ノビタキ	○				
86			イソヒヨドリ			○		
87			キビタキ	○		○	○	
88			オオルリ			○		
89		イワヒバリ	カヤクグリ		○			
90		スズメ	スズメ	○	○	○	○	
91		セキレイ	キセキレイ	○	○	○		
92			ハクセキレイ	○	○	○	○	
93			セグロセキレイ	○	○	○	○	
94			ビンズイ	○				
95			タヒバリ	○	○			

表 11-7-9(3) 現地調査による確認種一覧（鳥類）

No.	目名	科名	種名	調査時期				猛禽類 調査※ 1
				秋季	冬季	春季	夏季	
96	スズメ	アトリ	アトリ		○			
97			カワラヒワ	○	○	○	○	
98			マヒワ		○			
99			ベニマシコ		○			
100			ウソ		○			
101			シメ	○	○			
102			イカル	○	○	○	○	
103		ホオジロ	ホオジロ	○	○	○	○	
104			ホオアカ		○			
105			カシラダカ		○			
106			アオジ		○	○		
107			クロジ		○			
計	15 目	41 科	107 種	60 種	74 種	61 種	54 種	13 種

注) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト」

(令和4年11月、国土交通省)に従った。

※1) 猛禽類調査時に確認された。

※2) メボソムシクイ上種は形態での識別は困難なため、コムシクイ、オオムシクイ、メボソムシクイのいずれかとして扱った。

② 重要な鳥類

現地調査で確認された重要な鳥類は、表 11-7-10 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な鳥類はチュウサギ、オオワシ、ヤイロチョウ等 60 種でした。

表 11-7-10(1) 現地調査により確認された重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	カモ	カモ	オシドリ			希少	DD	希少	希少	繁 3
2			ヨシガモ			希少		希少	希少	冬 3
3	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ			希少		希少	要注	
4	ハト	ハト	アオバト			希少		希少	希少	
5	ペリカン	サギ	ゴイサギ			希少		希少		
6			ササゴイ			希少		希少	希少	
7			アマサギ					要注		
8			チュウサギ			希少	NT	希少	希少	繁 2
9			コサギ					要注		
10	カッコウ	カッコウ	ホトトギス			希少		希少	希少	繁 3
11	チドリ	チドリ	ケリ				DD			
12			イカルチドリ			希少		希少	希少	繁+冬 3
13			コチドリ			希少		希少	要注	繁+冬 3
14		シギ	タシギ			希少		希少	希少	冬 3
15			クサシギ			希少		希少	希少	通 2
16			キアシシギ			希少		希少	希少	通 3
17			イソシギ			希少		希少	希少	夏+冬 3
18	タカ	ミサゴ	ミサゴ			希少	NT	希少	危急	繁+冬 3
19		タカ	ハチクマ			希少	NT	絶増	危急	
20			オオワシ	国天	国内	希少	VU	絶増		冬 3
21			チュウヒ		国内	希少	EN	絶増	危急	繁 1 冬 2
22			ハイイロチュウヒ			希少		希少	危急	冬 1
23			ツミ			希少		希少	希少	
24			ハイタカ			希少	NT	希少	希少	
25			オオタカ			希少	NT	希少	危急	繁 3
26			サシバ			希少	VU	希少	危急	繁 2
27			ノスリ			希少		希少	希少	冬 2
28			クマタカ		国内	希少	EN	絶危	絶危	繁+冬 2
29	フクロウ	フクロウ	フクロウ			希少		希少	希少	繁+冬 2
30	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ			希少		希少	希少	繁+冬 2
31	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ			希少		希少		
32			アオゲラ						希少	
33	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ			希少		希少	希少	冬 3
34			コチョウゲンボウ			希少		希少	危急	冬 3
35			ハヤブサ		国内	希少	VU	希少	危急	繁 2 冬 3
36	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ		国内	希少	EN	希少		夏 3
37		サンショウクイ	サンショウクイ			希少	VU	希少	希少	繁 3
38		カササギヒタキ	サンコウチョウ			希少		希少	希少	
39		キクイタダキ	キクイタダキ			希少		希少		冬 3
40		シジュウカラ	コガラ						希少	
41		ウグイス	ヤブサメ			希少		希少	希少	
42	-	ムシクイ	メボソムシクイ上種 ^{※1}			希少 ^{※2}	DD ^{※3}	希少 ^{※2}	希少 ^{※2}	
43			オオムシクイ				DD			繁 3
44		ヨシキリ	オオヨシキリ			希少		希少	希少	冬 3
45		セッカ	セッカ			希少		希少	希少	
		ミソサザイ	ミソサザイ			希少		希少	希少	

表 11-7-10 (2) 現地調査により確認された重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
46	スズメ	ヒタキ	トラツグミ			希少		希少	危急	
47			クロツグミ			希少		希少	希少	
48			ルリビタキ			希少		希少	希少	
49			イソヒヨドリ						希少	
50			キビタキ			希少		希少	希少	
51			オオルリ			希少		希少	希少	
52		イワヒバリ	カヤクグリ			希少		希少		
53		セキレイ	ハクセキレイ						要注	
54			ビンズイ						希少	冬3
55			タヒバリ			希少		希少	希少	
56		アトリ	ベニマシコ			希少		希少	希少	冬3
57			ウソ			希少		希少	希少	
58			シメ						希少	冬3
59		ホオジロ	ホオアカ			希少		希少		冬3
60			クロジ			希少		希少		
計	12 目	28 科	60 種	1 種	5 種	51 種	15 種	53 種	49 種	32 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」

(令和 4 年 11 月、国土交通省) に従った

注 2) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-7-3 に示すとおりである。

※1) メボソムシクイ上種は形態での識別は困難なため、コムシクイ、オオムシクイ、メボソムシクイのいずれかとして扱った。

※2) メボソムシクイの場合に該当するランクを示す。

※3) オオムシクイの場合に該当するランクを示す。

3) 両生類

① 両生類の生息状況

現地調査の結果、表 11-7-11 に示すとおり、2 目 7 科 14 種の両生類が確認されました。

現地調査で確認された両生類は、アカハライモリ、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル等でした。

表 11-7-11 現地調査による確認種一覧（両生類）

No.	目名	科名	種名	調査時期				
				秋季	冬季	早春季	春季	夏季
1	有尾	サンショウウオ	ヤマトサンショウウオ	○	○	○	○	
2		イモリ	アカハライモリ			○	○	
3	無尾	ヒキガエル	ヒキガエル属 ^{※1}			○		
4		アマガエル	ニホンアマガエル	○		○	○	○
5		アカガエル	タゴガエル	○				
6			ニホンアカガエル			○	○	○
7			ヤマアカガエル			○	○	○
－			アカガエル属 ^{※2}			○		
8			トノサマガエル	○			○	○
9			ナゴヤダルマガエル	○			○	○
10			ウシガエル	○		○	○	○
11			ツチガエル	○			○	○
12		ヌマガエル	ヌマガエル				○	○
13		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	○		○	○	○
14			モリアオガエル				○	○
計	2 目	7 科	14 種	8 種	1 種	8 種	12 種	10 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」

(令和 4 年 11 月、国土交通省) に従った。

注 2) 冬季、夏季は、他項目調査時に確認した種である。

※1) 滋賀県では止水性のヒキガエル属はニホンヒキガエルとアズマヒキガエルが生息しているが、幼生での区別は困難なため、ヒキガエル属として扱った。

※2) 早春季にため池や湿地で確認された卵塊で、ニホンアカガエル又はヤマアカガエルの判別がつかないためアカガエル属として扱った。

② 重要な両生類

現地調査で確認された重要な両生類は、表 11-7-12 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な両生類はヤマトサンショウウオ、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル等 12 種でした。

表 11-7-12 現地調査により確認された重要な両生類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	有尾	サンショウウオ	ヤマトサンショウウオ		特定二種	希少	VU	希少	
2			アカハライモリ				NT	要注	
3	無尾	ヒキガエル	ヒキガエル属 ^{※1}			希少 ^{※3}		希少 ^{※3}	
4			タゴガエル					要注	
5			ニホンアカガエル					要注	
6			ヤマアカガエル			希少		希少	
-			アカガエル属 ^{※2}			希少 ^{※5}		要注 ^{※4} 希少 ^{※5}	
7			トノサマガエル				NT	要注	
8			ナゴヤダルマガエル			指定	EN	絶増	
9			ツチガエル					要注	
10			ヌマガエル					要注	
11			アオガエル					要注	
12			モリアオガエル					要注	
計	2 目	6 科	12 種	0 種	1 種	4 種	4 種	12 種	0 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」（令和 4 年 11 月、国土交通省）に従った。

注 2) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-7-3 に示すとおりである。

※1) 滋賀県では止水性のヒキガエル属はニホンヒキガエルとアズマヒキガエルが生息しているが、幼生での区別は困難なため、ヒキガエル属として扱った。

※2) 春に確認された卵塊で、ニホンアカガエルかヤマアカガエルの区別は困難なため、アカガエル属として扱った。

※3) ニホンヒキガエル又はアズマヒキガエルの場合に該当するランクを示す。

※4) ニホンアカガエルの場合に該当するランクを示す。

※5) ヤマアカガエルの場合に該当するランクを示す。

4) 爬虫類

① 爬虫類の生息状況

現地調査の結果、表 11-7-13 に示すとおり、2 目 8 科 12 種の爬虫類が確認されました。

現地調査で確認された爬虫類は、クサガメ、ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ等でした。

表 11-7-13 現地調査による確認種一覧（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	調査時期				
				秋季	冬季	早春季	春季	夏季
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	○		○	○	○
2			クサガメ	○			○	○
3		ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ	○		○	○	○
4			スッポン		○		○	○
5	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	○				○
6			ニホントカゲ					○
-			トカゲ属*				○	○
7		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○			○	○
8			ナミヘビ	○				○
9			アオダイショウ				○	
10			シロマダラ					○
11			ヒバカリ	○			○	○
12		クサリヘビ	ニホンマムシ				○	○
計	2 目	8 科	12 種	7 種	1 種	2 種	9 種	11 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」

(令和 4 年 11 月、国土交通省)に従った。

注 2) 冬季、早春季、夏季は、他項目調査時に確認した種である。

※) 滋賀県はニホントカゲとヒガシニホントカゲの生息分布の境界であり、鮮明な確認ができなかったものをトカゲ属として扱った。

② 重要な爬虫類

現地調査で確認された重要な爬虫類は、表 11-7-14 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な爬虫類はニホンイシガメ、ニホントカゲ、シロマダラ等の 6 種でした。

表 11-7-14 現地調査により確認された重要な爬虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ			希少	NT	希少	
2			スッポン				DD	要注	
3	有鱗	トカゲ	ニホントカゲ					要注	
-			トカゲ属※1					要注※2	
4		ナミヘビ	シロマダラ					要注	
5			ヒバカリ					要注	
6		クサリヘビ	ニホンマムシ					要注	
計	2 目	5 科	6 種	0 種	0 種	1 種	2 種	6 種	0 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」

(令和 4 年 11 月、国土交通省)に従った。

注 2) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-7-3 に示すとおりである。

※1) 滋賀県はニホントカゲとヒガシニホントカゲの生息分布の境界であり、鮮明な確認ができなかったものをトカゲ属として扱った。

※2) ニホントカゲ、ヒガシニホントカゲの場合に該当するランクを示す。

5) 魚類

① 魚類の生息状況

現地調査の結果、表 11-7-15 に示すとおり、6 目 16 科 38 種の魚類が確認されました。

現地調査で確認された魚類は、アブラハヤ、アユ、オヤニラミ、ドンコ、オウミヨシノボリ等でした。

表 11-7-15 現地調査による確認種一覧（魚類）

No.	目名	科名	種名	調査時期	
				秋季	夏季
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類 ^{※1}		○
2	コイ	コイ	コイ（型不明）	○	○
3			フナ属 ^{※2}	○	○
4			ヤリタナゴ	○	
5			アブラボテ	○	○
6			ハス		○
7			オイカワ	○	○
8			カワムツ	○	○
9			ヌマムツ	○	○
10			アブラハヤ	○	○
11			タカハヤ		○
12			モツゴ	○	○
13			ビワヒガイ	○	
14			ムギツク		○
15			タモロコ	○	○
16			ホンモロコ		○
17			カマツカ	○	○
18			スゴモロコ類 ^{※3}		○
19		ドジョウ	ドジョウ		○
20			シマドジョウ種群 ^{※4}	○	○
21			アジメドジョウ	○	
22		フクドジョウ	ホトケドジョウ		○
23	ナマズ	ギギ	ギギ		○
24		ナマズ	ナマズ	○	
25		アカザ	アカザ	○	○
26	サケ	キュウリウオ	ワカサギ		○
27		アユ	アユ	○	○
28		サケ	ビワマス	○	○
29	ダツ	メダカ	ミナミメダカ		○
30	スズキ	ケツギョ	オヤニラミ	○	○
31		サンフィッシュ	ブルーギル		○
32			オオクチバス	○	○
33		カジカ	カジカ	○	○
34		ドンコ	ドンコ	○	○
35		ハゼ	ヌマチチブ	○	○
36			シマヒレヨシノボリ		○
37			オウミヨシノボリ	○	○
38			ウキゴリ	○	○
計	6 目	16 科	38 種	25 種	34 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」

（令和 4 年 11 月、国土交通省）に従った。

※1) 分布状況からスナヤツメ北方種、スナヤツメ南方種が考えられるが、外部形態から同定するのは困難であるため、スナヤツメ類として扱った。

※2) 分布状況からニゴロブナ、ギンブナ、オオキンブナの 3 種が考えられるが、外部形態から同定するのは困難であるため、フナ属として扱った。

※3) 分布状況からスゴモロコ又はコウライモロコが考えられるが、外部形態から同定するのは困難であるため、スゴモロコ属として扱った。

※4) 分布状況からニシシマドジョウ又はオオシマドジョウが考えられるが、外部形態から同定するのは困難であるため、シマドジョウ種群として扱った。

② 重要な魚類

現地調査で確認された重要な魚類は、表 11-7-16 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な魚類はホトケドジョウ、アカザ、ミナミメダカ等 26 種でした。

表 11-7-16 現地調査により確認された重要な魚類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類 ^{※1}			希少 ^{※5}	VU ^{※5}	絶増 ^{※5}	絶危 ^{※5}
2	コイ	コイ	フナ属 ^{※2}			希少 ^{※6}	EN ^{※6}	希少 ^{※6} 要注 ^{※7}	危急 ^{※6}
3			ヤリタナゴ			希少	NT	絶増	絶危
4			アブラボテ			希少	NT	絶増	危急
5			ハス			希少	VU	希少	要注 I
6			スラムツ					分布	
7			アブラハヤ					要注	要注 I
8			タカハヤ					要注	要注 I
9			モツゴ			希少		希少	希少
10			ビワヒガイ			希少		希少	希少
11			ムギツク			希少		希少	危急
12			ホンモロコ			希少	CR	絶増	絶危
13			スゴモロコ類 ^{※3}			希少 ^{※8}	VU ^{※8}	希少 ^{※8}	希少 ^{※8}
14		ドジョウ	ドジョウ				NT	要注	
15			シマドジョウ種群 ^{※4}					要注 ^{※9}	
16			アジメドジョウ			希少	VU	希少	
17		フクドジョウ	ホトケドジョウ			希少	EN	絶増	絶危
18	ナマズ	ギギ	ギギ			希少		絶危	絶危
19		ナマズ	ナマズ					要注	
20		アカザ	アカザ			希少	VU	希少	絶危
21	サケ	アユ	アユ					分布	要注 I
22		サケ	ビワマス				NT	要注	危急
23	ダツ	メダカ	ミナミメダカ			希少	VU	絶増	希少
24	スズキ	カジカ	カジカ			希少	NT	希少	
25		ドンコ	ドンコ					その他	
26		ハゼ	シマヒレヨシノボリ				NT		
計	6 目	13 科	26 種	0 種	0 種	16 種	15 種	25 種	18 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」(令和 4 年 11 月、国土交通省)に従った。

注 2) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-7-3 に示すとおりである。

注 3) オヤニラミは「環境省レッドリスト 2020」で絶滅危惧種Ⅱ類に選定されているが、「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」で国内外来種に指定されているため、除外した。

※1) 分布状況からスナヤツメ北方種又はスナヤツメ南方種が考えられるが、外部形態から同定するのは困難であるため、スナヤツメ類として扱った。

※2) 分布状況からニゴロブナ、ギンブナ、オオキンブナの 3 種が考えられるが、外部形態から同定するのは困難であるため、フナ属として扱った。

※3) 分布状況からスゴモロコ又はコウライモロコが考えられるが、外部形態から同定するのは困難であるため、スゴモロコ属として扱った。

※4) 分布状況からニシシマドジョウ又はオオシマドジョウが考えられるが、外部形態から同定するのは困難であるため、シマドジョウ種群として扱った。

※5) スナヤツメ北方種又はスナヤツメ南方種の場合に該当するランクを示す。

※6) ニゴロブナの場合に該当するランクを示す。

※7) ギンブナの場合に該当するランクを示す。

※8) スゴモロコの場合に該当するランクを示す。

※9) オオシマドジョウ又はニシシマドジョウの場合に該当するランクを示す。

6) 昆虫類

① 昆虫類の生息状況

現地調査の結果、表 11-7-17 に示すとおり、22 目 240 科 1,185 種の昆虫類が確認されました。

現地調査で確認された昆虫類は、ホソミオツネントンボ、コオイムシ、ホソチビゴミムシ、コガムシ、アメイロアリ等でした。

表 11-7-17 現地調査による確認種数一覧（昆虫類）

No.	目名	科数	種数	調査時期			
				秋季	春季	夏季	補足調査
1	トビムシ	2	2	1		2	
2	イシノミ	1	1		1	1	
3	カゲロウ（蜉蝣）	5	7	2	1	5	
4	トンボ（蜻蛉）	9	33	10	17	20	1※1
5	ゴキブリ（網翅）	1	1	1		1	
6	カマキリ（蟷螂）	1	5	5		1	
7	シロアリ	1	1		1	1	
8	ハサミムシ（革翅）	2	4	4	3	4	
9	カワゲラ（セキ翅）	2	5	2	4	2	
10	バッタ（直翅）	11	42	35	8	20	
11	ナナフシ（竹節虫）	1	1			1	
12	カジリムシ	4	6	5	4	2	
13	カメムシ（半翅）	38	143	75	79	78	
14	アザミウマ	1	1	1			
15	ヘビトンボ	1	2		1	1	1※2
16	アミメカゲロウ（脈翅）	5	11	3	6	4	
17	シリアゲムシ（長翅）	1	1	1	1		
18	トビケラ（毛翅）	13	27	15	11	18	
19	チョウ（鱗翅）	20	102	23	57	66	
20	ハエ（双翅）	35	153	69	82	63	
21	コウチュウ（鞘翅）	64	530	190	291	266	
22	ハチ（膜翅）	22	107	57	61	61	
計	22 目	240 科	1,185 種	144 科 499 種	175 科 629 種	182 科 615 種	2 科 2 種

注 1) 目名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」（令和 4 年 11 月、国土交通省）に従った。

注 2) 調査時期の数値は、種数を示している。

※1) 令和 3 年秋季調査時に確認された。

※2) 令和 4 年春季調査時に確認された。

② 重要な昆虫類

現地調査で確認された重要な昆虫類は、表 11-7-18 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な昆虫類はモートンイトトンボ、マダラコガシラミズムシ、チャイロスズメバチ等 33 種でした。

表 11-7-18 現地調査により確認された重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	トンボ（蜻蛉）	イトトンボ	モートンイトトンボ			希少	NT	希少	
2		サナエトンボ	タベサナエ			希少	NT	希少	
3			フタスジサナエ			希少	NT	希少	
4			ナツアカネ					その他	
5	バッタ（直翅）	バッタ	カワラバッタ			希少		希少	
6	カメムシ（半翅）	セミ	ハルゼミ					その他	
7		キジラミ	エノキカイガラキジラミ				NT	分布	
8		ミズムシ	ハラグロコミズムシ					分布	
9		コオイムシ	コオイムシ				NT		
10	ヘビトンボ	ヘビトンボ	カクレクロスジヘビトンボ					要注	
11	チョウ（鱗翅）	シジミチョウ	ミドリシジミ						希少
12		アゲハチョウ	ジャコウアゲハ本土亜種						希少
13		マドガ	マドガ					要注	
14	コウチュウ（鞘翅）	オサムシ	コキベリアオゴミムシ					要注	
15		ゲンゴロウ	シマゲンゴロウ				NT	その他	
16			マルケシゲンゴロウ			希少	NT	希少	
17			ヒメシマチビゲンゴロウ			希少		希少	
18			ゴマダラチビゲンゴロウ			希少		希少	
19		コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ			希少	VU	希少	
20		ヒゲブトオサムシ	エグリゴミムシ					要注	
21		ガムシ	スジヒラタガムシ				NT		
22			コガムシ				DD		
23			ガムシ			希少	NT	希少	
24		センチコガネ	オオセンチコガネ					分布	
25		コガネムシ	コケシマグソコガネ					要注	
26			セマルケシマグソコガネ					分布	
27		テントウムシ	マクガタテントウ					要注	
28			ムナグロチャイロテントウ					要注	
29	ハチ（膜翅）	アリ	トゲアリ				VU		
30		スズメバチ	ヤマトアシナガバチ				DD		
31			モンズズメバチ				DD		
32			チャイロスズメバチ			希少		希少	
33		クモバチ	アオスジクモバチ				DD		
計	7 目	22 科	33 種	0 種	0 種	10 種	15 種	24 種	2 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」

（令和 4 年 11 月、国土交通省）に従った。

注 2) 一部の種名は「滋賀県昆虫目録」（平成 29 年 8 月、滋賀県）を参考にした。

注 3) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-7-3 に示すとおりである。

7) 底生動物

① 底生動物の生息状況

現地調査の結果、表 11-7-19 に示すとおり、24 目 102 科 261 種の底生動物が確認されました。

現地調査で確認された底生動物は、エラミミズ、シロハラコカゲロウ、ヒゲナガカワトビケラ、キザキユスリカ、モンキマメゲンゴロウ等でした。

表 11-7-19 現地調査による確認種一覧（底生動物）

No.	門名	目名	科数	種数	調査時期		
					冬季	夏季	補足調査
1	扁形動物	三岐腸	1	1	1	1	
2	類線形動物	ハリガネムシ	1	1	1		
3	軟体動物	新生腹足	3	6	6	6	
4		汎有肺	4	6	3	6	
5		イシガイ	1	1		1	
6		マルスダレガイ	2	2	1	2	
7	環形動物	ナガミミズ	1	1	1	1	
8		オヨギミミズ	1	1	1	1	
9		イトミミズ	1	8	7	6	
10		ツリミミズ	1	1	1	1	
11		吻蛭	1	3	3	3	
12		吻無蛭	3	3	2	3	
13	節足動物	カイエビ	1	1		1	
14		ヨコエビ	3	3	2	2	
15		ワラジムシ	1	1	1	1	
16		エビ	4	4	4	4	
17		カゲロウ（蜉蝣）	10	40	32	26	
18		トンボ（蜻蛉）	9	29	23	23	1※
19		カワゲラ（セキ翅）	5	12	12	7	
20		カメムシ（半翅）	9	18	7	17	
21		ヘビトンボ	2	3	3	3	
22		トビケラ（毛翅）	16	28	23	17	
23		ハエ（双翅）	14	56	43	39	
24		コウチュウ（鞘翅）	8	32	11	29	
計	5 門	24 目	102 科	261 種	78 科 188 種	92 科 200 種	1 科 1 種

注 1) 目名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」（令和 4 年 11 月、国土交通省）に従った。

注 2) 調査時期の数値は、種数を示している。

※) 令和 4 年春季調査時に確認された。

② 重要な底生動物

現地調査で確認された重要な底生動物は、表 11-7-20 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な底生動物はマルタニシ、タベサナエ、コミズスマシ等 27 種でした。

表 11-7-20 現地調査により確認された重要な底生動物

No.	門名	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー					
					①	②	③	④	⑤	⑥
1	軟体動物	新生腹足	タニシ	マルタニシ			希少	VU	希少	
2				オオタニシ				NT	要注	
3		汎有肺	モノアラガイ	モノアラガイ				NT		
4			ヒラマキガイ	ヒラマキガイモドキ				NT	要注	
5		マルスダレガイ	ドブシジミ	ドブシジミ					要注	
6	環形動物	吻蛭	ヒラタビル	ミドリビル				DD		
7				イボビル				DD		
8	節足動物	エビ	サワガニ	サワガニ					要注	
9		トンボ (蜻蛉)	アオイトトンボ	アオイトトンボ					その他	
10			サナエトンボ	アオサナエ					その他	
11				タベサナエ			希少	NT	希少	
12				フタスジサナエ			希少	NT	希少	
13				オグマサナエ			希少	NT	希少	
14			エゾトンボ	トラフトンボ					要注	
15		カメムシ (半翅)	コオイムシ	コオイムシ				NT		
16			タイコウチ	ミズカマキリ			希少		希少	
17		コウチュウ (鞘翅)	ゲンゴロウ	ヒメシマチビゲンゴロウ			希少		希少	
18				ゴマダラチビゲンゴロウ			希少		希少	
19				コクロマメゲンゴロウ					要注	
20			ミズスマシ	コミズスマシ			希少	EN	希少	
21				ミズスマシ			希少	VU	希少	
22				コオナガミズスマシ			希少	VU	希少	
23				オナガミズスマシ					要注	
24			コガシラミズムシ	ヒメコガシラミズムシ			希少		希少	
25				マダラコガシラミズムシ			希少	VU	希少	
26			ガムシ	コガムシ				DD		
27			ヒメドロムシ	ヨコミゾドロムシ			希少	VU	希少	
計	3 門	8 目	16 科	27 種	0 種	0 種	13 種	16 種	22 種	0 種

注 1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 4 年度生物リスト」(令和 4 年 11 月、国土交通省)に従った。

注 2) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-7-3 に示すとおりである。

8) その他の動物（クモ類）

① クモ類の生息状況

現地調査の結果、表 11-7-21 に示すとおり、1 目 26 科 139 種のクモ類が確認されました。

現地調査で確認されたクモ類は、トガリアシナガグモ、オニグモ、キクヅキコモリグモ、ハナグモ、オスクロハエトリ等でした。

表 11-7-21 (1) 現地調査による確認種一覧（クモ類）

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				秋季	春季	夏季
1	クモ	トタテグモ	キノボリトタテグモ			○
2		ユウレイグモ	イエユウレイグモ			○
3		チリグモ	ヒラタグモ			○
4		ウズグモ	カタハリウズグモ			○
-			<i>Octonoba</i> 属			○
-			ウズグモ科	○		
5		ヒメグモ	アシプトヒメグモ		○	
6			シロカネイソウロウグモ	○		○
7			トビジロイソウロウグモ			○
8			オナガグモ	○	○	○
9			ヨツコブヒメグモ			○
10			<i>Dipoena</i> 属	○		
11			<i>Enoplognatha</i> 属			○
12			オダカグモ			○
13			ツリガネヒメグモ			○
14			カグヤヒメグモ			○
15			ニホンヒメグモ			○
16			ハモンヒメグモ			○
17			オオヒメグモ			○
18			カニミジグモ	○		
19			ヤリグモ			○
20			ハンゲツオスナキグモ			○
21			ボカシミジグモ	○		○
-			ヒメグモ科	○		
22		コツブグモ	<i>Mysmenella</i> 属			○
23		サラグモ	ハラジロムナキグモ		○	
24			コデーニツサラグモ	○		
25			マルムネヒザグモ	○		
26			クロナンキングモ	○	○	○
27			ヘリジロサラグモ		○	
28			ユノハマサラグモ		○	
29			アシヨレグモ			○
-			サラグモ科	○	○	○
30		アシナガグモ	オオシロカネグモ	○		○
31			コシロカネグモ			○
-			<i>Leucauge</i> 属	○	○	○
32			ジョロウグモ	○		○
33			ヨツボシヒメアシナガグモ		○	
-			<i>Pachygnatha</i> 属			○
34			トガリアシナガグモ	○	○	○
35			ハラヒロアシナガグモ	○		
36			ヤサガタアシナガグモ	○	○	○
37			アシナガグモ		○	○
38			シナノアシナガグモ	○		

表 11-7-21(2) 現地調査による確認種一覧（クモ類）

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				秋季	春季	夏季
39	クモ	アシナガグモ	ウロコアシナガグモ		○	
40			エゾアシナガグモ		○	
-			<i>Tetragnatha</i> 属	○	○	○
41		コガネグモ	ビジョオニグモ	○		
42			アオオニグモ	○		○
43			オニグモ	○	○	○
-			<i>Araneus</i> 属	○	○	○
44			<i>Araniella</i> 属	○		○
45			コガネグモ			○
46			ナガコガネグモ	○		○
-			<i>Argiope</i> 属	○		○
47			ギンメッキゴミグモ			○
48			カラスゴミグモ			○
49			ギンナガゴミグモ		○	
50			ゴミグモ	○	○	○
51			ヨツデゴミグモ	○		
-			<i>Cyclosa</i> 属	○		○
52			スズミグモ			○
53			ヨツボシシヨウジョウグモ	○		
54			ナカムラオニグモ	○	○	○
55			ドヨウオニグモ	○	○	
56			ワキグロサツマノミダマシ	○		○
57			コゲチャオニグモ	○		○
58			ヤマシロオニグモ	○	○	○
59			サツマノミダマシ	○		○
-			<i>Neoscona</i> 属		○	○
60			ズグロオニグモ		○	
-			コガネグモ科		○	
61		コモリグモ	エビチャコモリグモ	○		
62			フジイコモリグモ		○	○
63			カワベコモリグモ	○		
64			クロココモリグモ			○
-			<i>Arctosa</i> 属	○	○	○
65			ハラクロコモリグモ		○	
66			イナダハリゲコモリグモ		○	○
67			ウツキコモリグモ			○
68			イサゴコモリグモ			○
69			キクヅキコモリグモ	○	○	○
70			キシベコモリグモ			○
-			<i>Pardosa</i> 属	○	○	○
71			クラークコモリグモ			○
72			カイゾクコモリグモ			○
73			イモコモリグモ			○
74			チビコモリグモ			○
75			キバラコモリグモ			○
76			コガタコモリグモ			○
77			ナミコモリグモ		○	○
-			<i>Pirata</i> 属	○	○	○
78			ヒノマルコモリグモ	○	○	
-			コモリグモ科	○		○
79		キシダグモ	スジプトハシリグモ			○
80			イオウヒロハシリグモ	○		○
-			<i>Dolomedes</i> 属	○	○	
81		ササグモ	アズマキシダグモ	○	○	
82			ササグモ			○
-			<i>Oxyopes</i> 属	○	○	○

表 11-7-21(3) 現地調査による確認種一覧（クモ類）

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				秋季	春季	夏季
83	クモ	シボグモ	シボグモ	○	○	○
84		タナグモ	クサグモ	○		○
85			コクサグモ	○		○
-			タナグモ科		○	○
86		ウシオグモ	クロガケジグモ			○
87		ハグモ	ネコハグモ	○		
88			ヒナハグモ			○
89		ガケジグモ	クロヤチグモ	○		
90			カミガタヤチグモ	○		
91			デベソヤチグモ	○		
92			シモフリヤチグモ			○
93			ヒメヤマヤチグモ		○	
-			ガケジグモ科	○		○
94		ヤマトガケジグモ	ヤマトガケジグモ			○
95		ウエムラグモ	イタチグモ	○	○	○
96			ヤバネウラシマグモ			○
97		フクログモ	カバキコマチグモ			○
-			<i>Chiracanthium</i> 属	○		
98			マダラフクログモ	○		
99			ヤマトフクログモ	○		
100			ヤハズフクログモ		○	
101			ヒメフクログモ	○		○
102			マイコフクログモ		○	
-			<i>Clubiona</i> 属	○	○	○
103		ネコグモ	ネコグモ	○		
104		ワシグモ	エビチャヨリメケムリグモ		○	○
105			ヒメヨリメケムリグモ		○	○
106			カワラメキリグモ	○		○
107			メキリグモ		○	○
-			<i>Gnaphosa</i> 属	○	○	○
108			ヒロズケムリグモ			○
-			<i>Zelotes</i> 属	○		○
109		アシダカグモ	ツユグモ	○		
110			コアシダカグモ			○
111		エビグモ	<i>Philodromus</i> 属	○	○	○
112			シャコグモ		○	
113		カニグモ	コハナグモ			○
-			<i>Diaea</i> 属		○	○
114			ハナグモ	○	○	○
-			<i>Ebrechtella</i> 属		○	○
115			ワカバグモ	○	○	
116			マツモトオチバカニグモ			○
117			ガザミグモ	○	○	
118			アズチグモ			○
119			セマルトラフカニグモ			○
120			ヤミイロカニグモ		○	
121			チシマカニグモ			○
122			ゾウシキカニグモ			○
-			<i>Xysticus</i> 属	○	○	○
-			カニグモ科	○		

表 11-7-21(4) 現地調査による確認種一覧（クモ類）

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				秋季	春季	夏季
123	クモ	ハエトリグモ	ネコハエトリ		○	○
124			シロスジカノコハエトリ			○
125			マミジロハエトリ	○	○	○
126			マミクロハエトリ	○		
-			<i>Evarcha</i> 属	○		○
127			タカノハエトリ	○		
-			<i>Heliophanus</i> 属	○		○
128			オスクロハエトリ	○	○	○
129			ヤハズハエトリ	○		○
-			<i>Mendoza</i> 属	○	○	○
130			ヤガタアリグモ		○	
131			アリグモ		○	
-			<i>Myrmarachne</i> 属	○		
132			メガネアサヒハエトリ	○		○
-			<i>Phintella</i> 属	○	○	○
133			デーニッツハエトリ	○		○
-			<i>Plexippoides</i> 属			○
134			ミスジハエトリ	○		
135			カラスハエトリ	○	○	○
-			<i>Rhene</i> 属			○
136			アオオビハエトリ			○
137			シラホシコゲチャハエトリ			○
-			<i>Sitticus</i> 属			○
138			ウススジハエトリ	○		
139			ムツバハエトリ			○
-			<i>Yaginumanis</i> 属			○
-			ハエトリグモ科		○	○
計	1 目	26 科	139 種	69 種	52 種	97 種

注) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト」(令和4年11月、国土交通省)に従った。

② 重要なクモ類

現地調査で確認された重要なクモ類は、表 11-7-22 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要なクモ類はキノボリトタテグモ、ヒメヤマヤチグモの2種でした。

表 11-7-22 現地調査により確認された重要なクモ類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	クモ	トタテグモ	キノボリトタテグモ			希少	NT	絶増	
2		ガケジグモ	ヒメヤマヤチグモ			希少		希少	
計	1 目	2 科	2 種	0 種	0 種	2 種	1 種	2 種	0 種

注1) 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト」(令和4年11月、国土交通省)に従った。

注2) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-7-3 に示すとおりである。

9) その他の動物（ヤスデ類等）

① ヤスデ類等の生息状況

現地調査の結果、表 11-7-23 に示すとおり、14 目 25 科 35 種のヤスデ類等が確認された。

現地調査で確認されたヤスデ類等は、オオミスジコウガイビル、ヨコハラトガリミミズ、フタコブザトウムシ、オカダンゴムシ、マクラギヤスデ等でした。

表 11-7-23 現地調査による確認種一覧（ヤスデ類等）

No.	門	綱名	目名	科名	種名	調査時期	
						春季	夏季
1	扁形動物	ウズムシ	サンキチョウウズムシ	リクウズムシ	オオミスジコウガイビル	○	
-					<i>Bipalium</i> 属		○
2	環形動物	ミミズ	ナガミミズ	フトミミズ	ヨコハラトガリミミズ		○
3					ノラクラミミズ	○	
-					<i>Pheretima</i> 属	○	○
4					ヒメミミズ科		○
5		ヒル	アゴヒル	ヤマビル	ヤマビル	○	
6	節足動物	クモガタ	ダニ	マダニ	タカサゴキラマダニ	○	
7					ヤマトチマダニ		○
8				タカラダニ	アリマキタカラダニ		○
9				イレコダニ	シャモジイレコダニ		○
-				-	ダニ目		○
10			ザトウムシ	アカザトウムシ	ニホンアカザトウムシ	○	
11				マザトウムシ	モエギザトウムシ	○	
12					アカサビザトウムシ		○
13					フタコブザトウムシ	○	○
-					マザトウムシ科	○	○
14		甲殻	ワラジムシ（等脚）	フナムシ	ニホンヒメフナムシ		○
15				ナガワラジムシ	ナガワラジムシ		○
16				ハヤシワラジムシ	<i>Mongoloniscus</i> 属	○	○
17					ヤマトサトワラジムシ		○
18				オカダンゴムシ	オカダンゴムシ	○	○
19				コシビロダンゴムシ	シッコクコシビロダンゴムシ	○	○
20			ヨコエビ（端脚）	ハマトビムシ	ニホンオカトビムシ		○
21		ヤスデ	フサヤスデ	フサヤスデ	ニホンフサヤスデ		○
22			ツムギヤスデ	ミコシヤスデ	ミコシヤスデ科		○
23			オビヤスデ	ババヤスデ	ミドリババヤスデ	○	
24				ヤケヤスデ	<i>Oxidus</i> 属		○
25					<i>Nedyopus</i> 属	○	
26				タメトモヤスデ	ウチカケヤスデ		○
27			シロハダヤスデ	マクラギヤスデ	マクラギヤスデ	○	○
28		ムカデ	ゲジ	ゲジ	ゲジ	○	○
29					オオゲジ		○
30			イシムカデ	イシムカデ	<i>Bothropolys</i> 属	○	○
31					<i>Monotarsobius</i> 属	○	○
32			オオムカデ	オオムカデ	トビズムカデ	○	
33					アオズムカデ	○	○
34				アカムカデ	セスジアカムカデ	○	○
35					アカムカデ	○	
計	3 門	7 綱	14 目	25 科	35 種	19 種	26 種

注) 種の配列は、原則として「日本産野生生物目録－本邦産野生動植物の種の現状－無脊椎動物編Ⅰ」（平成 5 年、環境庁自然保護局）及び「日本産野生生物目録－本邦産野生動植物の種の現状－無脊椎動物編Ⅲ」（平成 10 年、環境庁自然保護局）に従った。種の分類は、原則として「日本産土壌動物 分類のための図解検索【第二版】」（平成 27 年、青木）に従った。

② 重要なヤスデ類等

現地調査で確認された重要なヤスデ類等は、表 11-7-24 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要なヤスデ類等はアカサビザトウムシの 1 種でした。

表 11-7-24 現地調査により確認された重要なヤスデ類等

No.	門	綱名	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー					
						①	②	③	④	⑤	⑥
1	節足動物	クモガタ	ザトウムシ	マザトウムシ	アカサビザトウムシ					分布	
計	1 門	1 綱	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種

注 1) 種の配列は、原則として「日本産野生生物目録－本邦産野生動植物の種の現状－無脊椎動物編Ⅰ」（平成 5 年、環境庁自然保護局）及び「日本産野生生物目録－本邦産野生動植物の種の現状－無脊椎動物編Ⅲ」（平成 10 年、環境庁自然保護局）に従った。種の分類は、原則として「日本産土壌動物 分類のための図解検索【第二版】」（平成 27 年、青木）に従った。

注 2) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-7-3 に示すとおりである。

10) その他の動物（陸産貝類）

① 陸産貝類の生息状況

現地調査の結果、表 11-7-25 に示すとおり、2 目 12 科 45 種の陸産貝類が確認されました。

現地調査で確認された陸産貝類は、ヒダリマキゴマガイ、ナミギセル、チャコウラナメクジ、マルシラタガイ、ウスカワマイマイ等でした。

表 11-7-25 現地調査による確認種一覧（陸産貝類）

No.	目名	科名	種名	調査時期	
				秋季	夏季
1	新生腹足	ヤマタニシ	ミジンヤマタニシ	○	○
2		ゴマガイ	ヒダリマキゴマガイ	○	○
3	有肺	オカモノアラガイ	ヒメオカモノアラガイ	○	○
4			ナガオカモノアラガイ	○	○
5		キセルガイ	ナミコギセル	○	○
6			ナミギセル	○	○
7		オカチョウジガイ	オカチョウジガイ	○	
8			トクサオカチョウジガイ	○	○
9			ホソオカチョウジガイ	○	○
10		ナタネガイ	ハリマナタネ		○
ー			<i>Punctum</i> 属	○	
11		ナメクジ	ナメクジ	○	
12			ヤマナメクジ	○	○
13		コウラナメクジ	<i>Deroceras</i> 属	○	
14			チャコウラナメクジ	○	○
15	ベッコウマイマイ		ヒラベッコウ		○
16			ヒメベッコウガイ	○	○
17			ヤクシマヒメベッコウ		○
18			キビガイ	○	○
19			ハリマキビ	○	○
20			マルシタラガイ	○	○
21			コシタカシタラガイ	○	○
22			ウメムラシタラガイ	○	○
23			カサキビ	○	○
24			ヒメカサキビ	○	○
25			ウラジロベッコウ	○	○
26			オオクラヒメベッコウ	○	○
27			ナミヒメベッコウ	○	
28			エチゼンビロウドマイマイ	○	
29			ニッポンマイマイ	○	○
30			コベソマイマイ	○	○
31	オナジマイマイ		ウスカワマイマイ	○	○
32			オオミケマイマイ		○
33			コオオベソマイマイ		○
34			オオケマイマイ	○	○
35			コハクオナジマイマイ	○	○
36			オナジマイマイ	○	○
37			クチベニマイマイ	○	○
38			ギューリキマイマイ（イセノナミマイマイ）	○	○
39			ナミマイマイ	○	○
40			イブキクロイワマイマイ		○
41			カタマメマイマイ		○
42			アワジオトメマイマイ	○	
43			マメマイマイ	○	
44			オトメマイマイ	○	○
45		タワラガイ	タワラガイ	○	○
計	2 目	12 科	45 種	39 種	38 種

注 1) 目名は、Bouchet & Rocroi (2005) に、種名及び配列は、原則として

「生物多様性調査 動物分布調査報告書(陸産及び淡水産貝類)」(平成 14 年 3 月、環境省) に従った。

注 2) 一部の種名は、「滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータ 2020 年版」(令和 3 年 3 月、滋賀県生き物総合調査委員会) を参考にした。

② 重要な陸産貝類

現地調査で確認された重要な陸産貝類は、表 11-7-26 に示すとおりです。

現地調査で確認された種のうち、重要な陸産貝類はナガオカモノアラガイ、ウメムラシタラガイ、カタマメマイマイ等 13 種でした。

表 11-7-26 現地調査により確認された重要な陸産貝類

No.	目名	科名	種名	選定基準及びカテゴリー					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	有肺	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ			希少	NT	希少	
2		ベッコウマイマイ	ヒラベッコウ				DD	要注	
3			ウメムラシタラガイ			希少	NT	希少	
4			ヒメカサキビ				NT		
5		ニッポンマイマイ (ナンバンマイマイ)	エチゼンビロウドマイマイ				DD	要注	
6			ニッポンマイマイ					要注	
7			コベソマイマイ					分布	
8		オナジマイマイ	オオミケマイマイ			希少	VU	希少	
9			ギューリキマイマイ (イセノナミマイマイ)					分布	
10			イブキクロイワマイマイ					要注	
11			カタマメマイマイ			希少	VU	絶増	
12			マメマイマイ					要注	
13		タワラガイ	タワラガイ					要注	
計	1 目	5 科	13 種	0 種	0 種	4 種	7 種	12 種	0 種

注 1) 目名は、Bouchet & Rocroi (2005) に、種名及び配列は、原則として

「生物多様性調査 動物分布調査報告書(陸産及び淡水産貝類)」(平成 14 年 3 月、環境省)に従った。

注 2) 一部の種名は、「滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータ 2020 年版」(令和 3 年 3 月、滋賀県生き物総合調査委員会)を参考にした。

注 3) 重要な種の選定基準及びカテゴリーは、表 11-7-3 に示すとおりである。

11) 注目すべき生息地

現地調査の結果、調査地域内において注目すべき生息地は確認されませんでした。

2. 工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る動物

2.1 予測

(1) 予測の手法

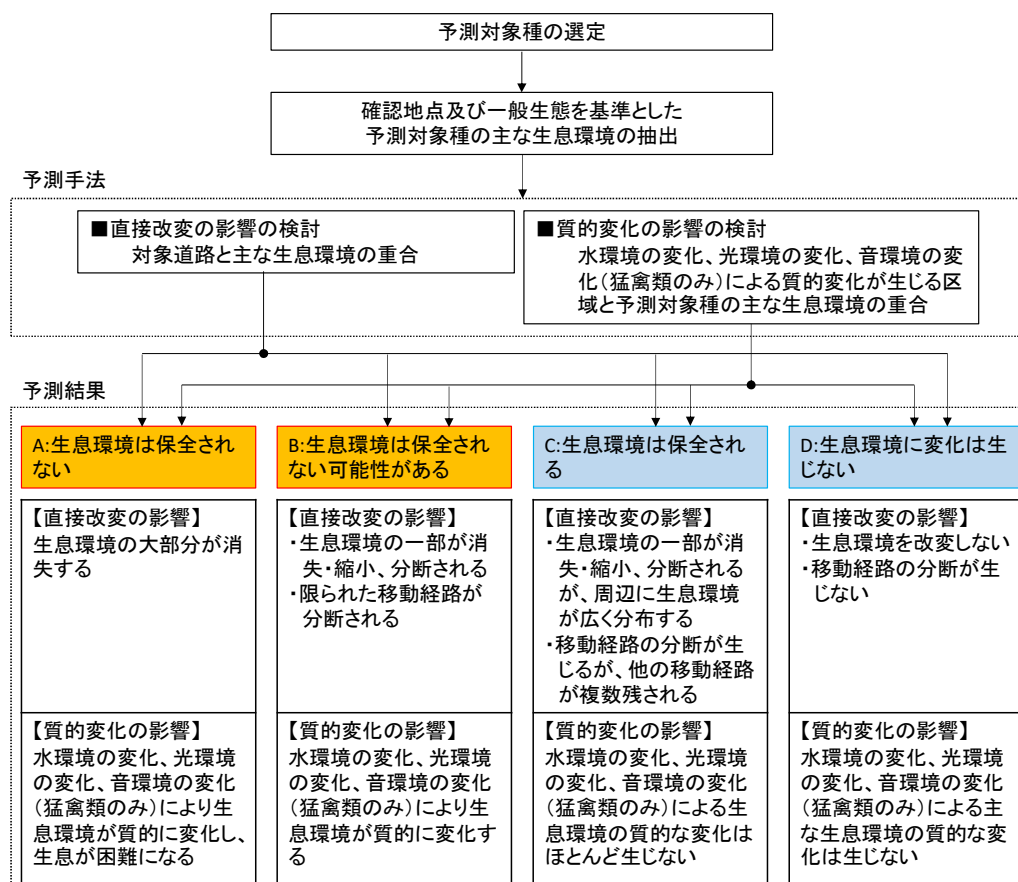
1) 予測手法

工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る動物への影響の予測は、「技術手法」（国総研資料第714号13.1、13.2、13.3）に基づき行いました。

事業実施に伴う土地の改変範囲と重要な種及び注目すべき生息地の分布範囲から、生息地が消失・縮小する区間及び重要な種等の移動経路が分断される区間並びにその程度を把握しました。

また、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在における対象種の一般生態を踏まえた生息環境の質的变化の程度（夜間照明、水の濁り等）を把握しました。加えて、重要な猛禽類の営巣地が実施区域の近傍にあったため、建設機械の稼働による猛禽類への繁殖活動への影響の程度を把握しました。

次に、それらが重要な種等の生息に及ぼす影響の程度を、科学的な知見や類似事例を参考に予測しました。



注1) 直接改変の影響、質的变化の影響をそれぞれ検討し、より影響の大きい環境影響の程度(A～D)を採用する。
 注2) 本フローは予測の考え方を分かりやすく表現するために作成したものである。予測は個別の種ごとに行っており、詳細は個別の予測結果に示している。

図 11-7-8 予測手順

2) 予測地域

予測地域は、調査地域としました。

3) 予測対象時期等

予測対象時期は、事業特性及び重要な種等の一般生態を踏まえ、影響が最大になるおそれのある時期としました。

4) 予測対象種等の選定

予測対象種等の選定結果は、表 11-7-27 に示すとおりです。

予測対象種等は、現地調査で確認された重要な種及び注目すべき生息地としました。

なお、注目すべき生息地は現地調査において確認されませんでした。

現地調査における予測対象種等の確認状況については、調査区域を 5 つのブロックに区分してとりまとめました。ブロック区分は下記に示すとおりです。

- ・ブロック A：丘陵地に二次林や植林が広がり、低地に田園が広がる範囲
- ・ブロック B：丘陵地から低地にかけて植林や田園が広がり、芹川、犬上川を含む範囲
- ・ブロック C：低地に田園が広がり、宇曽川を含む範囲
- ・ブロック D：低地に田園が広がり、宇曽川、愛知川を含む範囲
- ・ブロック E：丘陵地から低地にかけて植林や田園が広がり、愛知川を含む範囲

表 11-7-27(1) 予測対象種等の選定結果（重要な種）

No.	分類群	種名	確認ブロック区分					猛禽類 調査
			A	B	C	D	E	
1	哺乳類	ジネズミ					●	
2		ヒミズ		●				
3		モグラ属 ^{※1}	●	●	●	●	●	
4		コキクガシラコウモリ		●				
5		モモジロコウモリ		●				
6		ヒナコウモリ科 ^{※2}	●	●	●	●	●	
7		コウモリ目 ^{※3}		●		●		
8		ニホンザル	●	●				
9		ノウサギ	●	●		●	●	
10		ニホンリス		●				
11		ムササビ		●	●			
12		カヤネズミ	●	●	●	●	●	
13		ホンドテン	●	●	●	●	●	
14		ニホンイタチ				●	●	
15		イタチ属 ^{※4}	●	●	●	●	●	
16		アナグマ	●	●		●	●	
17	鳥類	オンドリ		●				
18		ヨシガモ				●		
19		カイツブリ		●		●		
20		アオバト		●				
21		ゴイサギ			●			
22		ササゴイ		●				
23		アマサギ			●	●		
24		チュウサギ	●		●	●		
25		コサギ	●	●	●	●		
26		ホトトギス	●				●	

表 11-7-27(2) 予測対象種等の選定結果（重要な種）

No.	分類群	種名	確認ブロック区分					猛禽類 調査
			A	B	C	D	E	
27	鳥類	ケリ	●	●	●	●	●	
28		イカルチドリ		●		●	●	
29		コチドリ		●		●		
30		タシギ			●	●	●	
31		クサシギ		●	●	●	●	
32		キアシシギ		●				
33		イソシギ			●			
34		ミサゴ	●	●			●	●
35		ハチクマ						●
36		オオワシ						●
37		チュウヒ				●		●
38		ハイイロチュウヒ						●
39		ツミ		●				●
40		ハイタカ	●		●	●	●	●
41		オオタカ			●	●	●	●
42		サシバ		●				●
43		ノスリ	●	●		●	●	●
44		クマタカ		●				●
45		フクロウ		●			●	
46		カワセミ		●	●	●	●	
47		オオアカゲラ		●				
48		アオゲラ	●	●			●	
49		チョウゲンボウ	●	●	●	●	●	●
50		コチョウゲンボウ		●				
51		ハヤブサ			●	●		
52		ヤイロチョウ		●				
53		サンショウクイ	●	●				
54		サンコウチョウ	●	●				
55		キクイタダキ		●				
56		コガラ		●				
57		ヤブサメ		●				
58		メボソムシクイ上種 ^{※5}	●	●		●	●	
59		オオムシクイ		●		●		
60		オオヨシキリ	●	●	●	●		
61		セッカ		●	●	●	●	
62		ミソサザイ		●				
63		トラツグミ		●				
64		クロツグミ		●				
65		ルリビタキ		●			●	
66		イソヒヨドリ	●					
67		キビタキ	●	●		●	●	
68		オオルリ		●				
69		カヤクグリ		●				
70		ハクセキレイ	●	●	●	●	●	
71		ビンズイ	●	●	●			
72		タヒバリ	●	●				
73		ベニマシコ	●			●		
74		ウソ		●				
75		シメ	●		●	●		
76		ホオアカ			●	●		
77		クロジ	●	●				
78	両生類	ヤマトサンショウウオ	●	●				
79		アカハライモリ			●		●	
80		ヒキガエル属 ^{※6}	●					
81		タゴガエル		●				
82		ニホンアカガエル	●	●				
83		ヤマアカガエル	●	●				
84		アカガエル属 ^{※7}	●	●				
85		トノサマガエル	●	●	●	●	●	

表 11-7-27(3) 予測対象種等の選定結果（重要な種）

No.	分類群	種名	確認ブロック区分					猛禽類 調査
			A	B	C	D	E	
86	両生類	ナゴヤダルマガエル	●		●	●		
87		ツチガエル	●	●	●	●	●	
88		ヌマガエル			●		●	
89		シュレーゲルアオガエル	●	●			●	
90		モリアオガエル	●	●			●	
91	爬虫類	ニホンイシガメ	●	●	●	●	●	
92		ニホンスッポン	●		●	●	●	
93		ニホントカゲ		●				
94		トカゲ属 ^{*8}		●			●	
95		シロマダラ	●					
96		ヒバカリ	●		●	●		
97		ニホンマムシ			●		●	
98	魚類	スナヤツメ類 ^{*9}		●				
99		フナ属 ^{*10}		●	●	●		
100		ヤリタナゴ			●			
101		アブラボテ			●	●		
102		ハス		●				
103		ヌマムツ		●	●	●		
104		アブラハヤ		●	●	●	●	
105		タカハヤ		●				
106		モツゴ			●	●	●	
107		ビワヒガイ		●				
108		ムギツク			●	●		
109		ホンモロコ				●		
110		スゴモロコ類 ^{*11}				●		
111		ドジョウ		●	●	●	●	
112		シマドジョウ種群 ^{*12}		●		●	●	
113		アジメドジョウ		●				
114		ホトケドジョウ		●				
115		ギギ			●	●		
116		ナマズ			●	●	●	
117		アカザ		●				
118		アユ		●	●	●	●	
119		ビワマス		●	●	●		
120		ミナミメダカ			●	●		
121		カジカ		●				
122		ドンコ		●	●	●		
123		シマヒレヨシノボリ				●		
124	昆虫類	モートンイトトンボ	●					
125		タベササエ	●	●				
126		フタスジササエ		●				
127		ナツアカネ	●	●		●	●	
128		カワラバタ				●		
129		ハルゼミ	●	●				
130		エノキカイガラキジラミ				●	●	
131		ハラグロコムズムシ	●					
132		コオイムシ	●	●	●	●	●	
133		カクレクロスジヘビトンボ					●	
134		ミドリシジミ		●				
135		ジャコウアゲハ本土亜種	●					
136		マドガ					●	
137		コキベリアオゴミムシ		●				
138		シマゲンゴロウ	●					
139		マルケシゲンゴロウ		●				
140		ヒメシマチビゲンゴロウ				●	●	
141		ゴマダラチビゲンゴロウ		●			●	

表 11-7-27(4) 予測対象種等の選定結果（重要な種）

No.	分類群	種名	確認ブロック区分					猛禽類 調査
			A	B	C	D	E	
142	昆虫類	マダラコガシラミズムシ			●	●	●	
143		エグリゴミムシ					●	
144		スジヒラタガムシ	●	●				
145		コガムシ	●	●	●	●	●	
146		ガムシ		●	●			
147		オオセンチコガネ	●	●				
148		コケシマグソコガネ		●				
149		セマルケシマグソコガネ		●				
150		マクガタテントウ	●	●		●	●	
151		ムナグロチャイロテントウ	●					
152		トゲアリ	●	●				
153		ヤマトアシナガバチ		●	●			
154		モンズズメバチ	●		●	●		
155		チャイロスズメバチ	●					
156		アオスジクモバチ			●		●	
157	底生動物	マルタニシ			●	●		
158		オオタニシ		●				
159		モノアラガイ		●				
160		ヒラマキガイモドキ			●	●	●	
161		ドブシジミ			●			
162		ミドリビル			●	●		
163		イボビル		●				
164		サワガニ		●		●	●	
165		アオイトトンボ					●	
166		アオサナエ		●	●	●		
-		タベサナエ※13		●				
-		フタスジサナエ※13		●				
167		オグマサナエ		●				
168		トラフトンボ		●				
-		コオイムシ※13			●	●	●	
169		ミズカマキリ		●				
-		ヒメシマチビゲンゴロウ※13				●	●	
-		ゴマダラチビゲンゴロウ※13		●				
170		コクロマメゲンゴロウ		●				
171		コミズスマシ				●		
172		ミズスマシ		●				
173		コオナガミズスマシ		●				
174		オナガミズスマシ		●				
175		ヒメコガシラミズムシ		●				
-		マダラコガシラミズムシ※13				●	●	
-		コガムシ※13		●				
176		ヨコミゾドロムシ				●		
177	クモ類	キノボリトタテグモ	●				●	
178		ヒメヤマヤチグモ		●				
179	ヤスデ類等	アカサビザトウムシ	●	●				
180	陸産貝類	ナガオカモノアラガイ		●	●		●	
181		ヒラベッコウ	●					
182		ウメムラシタラガイ		●	●	●		
183		ヒメカサキビ		●				
184		エチゼンビロウドマイマイ	●					
185		ニッポンマイマイ	●	●		●	●	
186		コベソマイマイ		●		●		
187		オオミケマイマイ	●					
188		ギューリキマイマイ (イセノナミマイマイ)		●	●		●	
189		イブキクロイワマイマイ					●	
190		カタマメマイマイ		●				
191		マメマイマイ	●					
192		タワラガイ		●			●	

- ※1) アズマモグラの場合に該当する。
- ※2) ユビナガコウモリの場合に該当する。
- ※3) ヒナコウモリ、オヒキコウモリの場合に該当する。
- ※4) ニホンイタチの場合に該当する。
- ※5) メボソムシクイ、オオムシクイの場合に該当する。
- ※6) ニホンヒキガエル、アズマヒキガエルの場合に該当する。
- ※7) ニホンアカガエル、ヤマアカガエルの場合に該当する。
- ※8) ニホントカゲ、ヒガシニホントカゲの場合に該当する。
- ※9) スナヤツメ北方種、スナヤツメ南方種の場合に該当する。
- ※10) ギンブナ、ニゴロブナの場合に該当する。
- ※11) スゴモロコの場合に該当する。
- ※12) オオシマドジョウ、ニシシマドジョウの場合に該当する。
- ※13) 昆虫類と底生動物の両方で確認されているが、予測対象種としては昆虫類に区分する。

(2) 予測の結果

1) 予測結果の概要

重要な種の予測結果の概要は、表 11-7-28 に示すとおりです。

生息環境への影響の程度は以下のとおりです。

- A：生息環境は保全されない
- B：生息環境は保全されない可能性がある
- C：生息環境は保全される
- D：生息環境に変化は生じない

表 11-7-28(1) 重要な種の予測結果概要

No.	分類群	種名	生息環境への影響	
			工事の実施	道路の存在
1	哺乳類	ジネズミ	C	C
2		ヒミズ	C	C
3		モグラ属 ^{※1}	C	C
4		コキクガシラコウモリ	C	C
5		モモジロコウモリ	C	C
6		ヒナコウモリ科 ^{※2}	C	C
7		コウモリ目 ^{※3}	C	C
8		ニホンザル	C	C
9		ノウサギ	C	C
10		ニホンリス	C	C
11		ムササビ	C	C
12		カヤネズミ	C	C
13		ホンドテン	C	C
14		ニホンイタチ	C	C
15		イタチ属	C	C
16		アナグマ	C	C
17	鳥類	オシドリ	C	C
18		ヨシガモ	C	C
19		カイツブリ	C	C
20		アオバト	C	C
21		ゴイサギ	C	C
22		ササゴイ	C	C
23		アマサギ	C	C
24		チュウサギ	C	C
25		コサギ	C	C
26		ホトトギス	C	C
27		ケリ	C	C
28		イカルチドリ	C	C
29		コチドリ	C	C
30		タシギ	C	C
31		クサシギ	C	C
32		キアシシギ	C	C
33		イソシギ	C	C
34		ミサゴ	C	C
35		ハチクマ	C	C
36		オオワシ	C	C
37		チュウヒ	C	C

表 11-7-28(2) 重要な種の予測結果概要

No.	分類群	種名	生息環境への影響	
			工事の実施	道路の存在
38	鳥類	ハイイロチュウヒ	C	C
39		ツミ	C	C
40		ハイタカ	C	C
41		オオタカ	C	C
42		サシバ	C	C
43		ノスリ	C	C
44		クマタカ	C	C
45		フクロウ	C	C
46		カワセミ	C	C
47		オオアカゲラ	C	C
48		アオゲラ	C	C
49		チョウゲンボウ	C	C
50		コチョウゲンボウ	C	C
51		ハヤブサ	C	C
52		ヤイロチョウ	C	C
53		サンショウクイ	C	C
54		サンコウチョウ	C	C
55		キクイタダキ	C	C
56		コガラ	C	C
57		ヤブサメ	C	C
58		メボソムシクイ上種 ^{※5}	C	C
59		オオムシクイ	C	C
60		オオヨシキリ	C	C
61		セッカ	C	C
62		ミソサザイ	C	C
63		トラツグミ	C	C
64		クロツグミ	C	C
65		ルリビタキ	C	C
66		イソヒヨドリ	C	C
67		キビタキ	C	C
68		オオルリ	C	C
69		カヤクグリ	C	C
70		ハクセキレイ	C	C
71		ビンズイ	C	C
72		タヒバリ	C	C
73		ベニマシコ	C	C
74		ウソ	C	C
75		シメ	C	C
76		ホオアカ	C	C
77		クロジ	C	C
78	両生類	ヤマトサンショウウオ	C	C
79		アカハライモリ	C	C
80		ヒキガエル属 ^{※6}	C	C
81		タゴガエル	C	C
82		ニホンアカガエル	C	C
83		ヤマアカガエル	C	C
84		アカガエル属 ^{※7}	C	C
85		トノサマガエル	C	C
86		ナゴヤダルマガエル	C	C
87		ツチガエル	C	C
88		ヌマガエル	C	C
89		シュレーゲルアオガエル	C	C
90		モリアオガエル	C	C
91	爬虫類	ニホンイシガメ	C	C
92		ニホンスッポン	C	C
93		ニホントカゲ	C	C
94		トカゲ属 ^{※8}	C	C
95		シロマダラ	C	C
96		ヒバカリ	C	C
97		ニホンマムシ	C	C

表 11-7-28(3) 重要な種の予測結果概要

No.	分類群	種名	生息環境への影響	
			工事の実施	道路の存在
98	魚類	スナヤツメ類 ^{※9}	C	C
99		フナ属 ^{※10}	C	C
100		ヤリタナゴ	C	C
101		アブラボテ	C	C
102		ハス	C	C
103		ヌマムツ	C	C
104		アブラハヤ	C	C
105		タカハヤ	C	C
106		モツゴ	C	C
107		ビワヒガイ	C	C
108		ムギツク	C	C
109		ホンモロコ	C	C
110		スゴモロコ類 ^{※11}	C	C
111		ドジョウ	C	C
112		シマドジョウ種群 ^{※12}	C	C
113		アジメドジョウ	C	C
114		ホトケドジョウ	C	C
115		ギギ	C	C
116		ナマズ	C	C
117		アカザ	C	C
118		アユ	C	C
119		ビワマス	C	C
120		ミナミメダカ	C	C
121		カジカ	C	C
122		ドンコ	C	C
123		シマヒレヨシノボリ	C	C
124	昆虫類	モートンイトトンボ	C	C
125		タベサナエ	C	C
126		フタスジサナエ	C	C
127		ナツアカネ	C	C
128		カワラバタ	C	C
129		ハルゼミ	C	C
130		エノキカイガラキジラミ	C	C
131		ハラグロコムズムシ	C	C
132		コオイムシ	C	C
133		カクレクロスジヘビトンボ	C	C
134		ミドリシジミ	C	C
135		ジャコウアゲハ本土亜種	C	C
136		マドガ	C	C
137		コキベリアオゴミムシ	C	C
138		シマゲンゴロウ	C	C
139		マルケシゲンゴロウ	C	C
140		ヒメシマチビゲンゴロウ	C	C
141		ゴマダラチビゲンゴロウ	C	C
142		マダラコガシラミズムシ	C	C
143		エグリゴミムシ	C	C
144		スジヒラタガムシ	C	C
145		コガムシ	C	C
146		ガムシ	C	C
147		オオセンチコガネ	C	C
148		コケシマグソコガネ	C	C
149		セマルケシマグソコガネ	C	C
150		マクガタテントウ	C	C
151		ムナグロチャイロテントウ	C	C
152		トゲアリ	C	C
153		ヤマトアシナガバチ	C	C
154		モンズズメバチ	C	C
155		チャイロスズメバチ	C	C
156		アオスジクモバチ	C	C

表 11-7-28(4) 重要な種の予測結果概要

No.	分類群	種名	生息環境への影響	
			工事の実施	道路の存在
157	底生動物	マルタニシ	C	C
158		オオタニシ	C	C
159		モノアラガイ	C	C
160		ヒラマキガイモドキ	C	C
161		ドブシジミ	C	C
162		ミドリビル	C	C
163		イボビル	C	C
164		サワガニ	C	C
165		アオイトトンボ	C	C
166		アオサナエ	C	C
167		オグマサナエ	C	C
168		トラフトンボ	C	C
169		ミズカマキリ	C	C
170		コクロマメゲンゴロウ	C	C
171		コミズスマシ	C	C
172		ミズスマシ	C	C
173		コオナガミズスマシ	C	C
174		オナガミズスマシ	C	C
175		ヒメコガシラミズムシ	C	C
176		ヨコモゾドロムシ	C	C
177	クモ類	キノボリトタテグモ	C	C
178		ヒメヤマヤチグモ	C	C
179	ヤスデ類等	アカサビザトウムシ	C	C
180	陸産貝類	ナガオカモノアラガイ	C	C
181		ヒラベッコウ	C	C
182		ウメムラシタラガイ	C	C
183		ヒメカサキビ	C	C
184		エチゼンビロウドマイマイ	C	C
185		ニッポンマイマイ	C	C
186		コベソマイマイ	C	C
187		オオミケマイマイ	C	C
188		ギューリキマイマイ (イセノナミマイマイ)	C	C
189		イブキクロイワマイマイ	C	C
190		カタマメマイマイ	C	C
191		マメマイマイ	C	C
192		タワラガイ	C	C

※1) アズマモグラの場合に該当する。

※2) ユビナガコウモリの場合に該当する。

※3) ヒナコウモリ、オヒキコウモリの場合に該当する。

※4) ニホンイタチの場合に該当する。

※5) メボソムシクイ、オオムシクイの場合に該当する。

※6) ニホンヒキガエル、アズマヒキガエルの場合に該当する。

※7) ニホンアカガエル、ヤマアカガエルの場合に該当する。

※8) ニホントカゲ、ヒガシニホントカゲの場合に該当する。

※9) スナヤツメ北方種、スナヤツメ南方種の場合に該当する。

※10) ギンブナ、ニゴロブナの場合に該当する。

※11) スゴモロコの場合に該当する。

※12) オオシマドジョウ、ニシシマドジョウの場合に該当する。

2) 予測結果

① 哺乳類

重要な哺乳類の予測結果は、表 11-7-29 に示すとおりです。

表 11-7-29 (1) 重要な哺乳類の予測結果（ジネズミ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、淡路、隠岐諸島、佐渡、伊豆諸島、種子島、屋久島、福岡県沖ノ島、トカラ列島（中之島）に分布します。 低地の河畔、水辺、農耕地周辺の藪、低山帯の低木林などに生息します。小型昆虫類やクモ類、ジムカデなどを捕食します。春に 3～4 頭の仔を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：1 箇所（秋季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域、草地／低地・台地の二次林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の二次林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の二次林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29(2) 重要な哺乳類の予測結果（ヒミズ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、淡路島、小豆島、隠岐諸島、対馬、五島列島、山口県見島、新潟県粟島などに分布します。 通常、低山帯の草原、低木林に多く、落葉、腐植層で半地化性の生活をしており、地表にもよく出現します。昆虫類、ミミズ類、ジムカデ類、クモ類、植物種子などを採食します。春に1回繁殖し、2～5頭の仔を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	市街地において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（春季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、草地／低地・台地の二次林、植林、草地		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29 (3) 重要な哺乳類の予測結果（モグラ属）

分布・一般生態	【アズマモグラ（モグラ属）】 国内では、本州（中部以北、京都府、紀伊半島、広島県）、四国（剣山）に分布します。 低地の草原から農耕地、森林まで分布します。ミミズ類、昆虫類を主に捕食しますがヒル類や植物種子なども採食します。主として春に、一部秋にも繁殖し、1 腹 2～6 頭の仔を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、市街地等において 192 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Bブロック：2 箇所（冬季 2 個体） ・Cブロック：2 箇所（秋季 1 個体、冬季 1 個体） ・Dブロック：1 箇所（冬季 1 個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：30 箇所（秋季 6 個体、冬季 20 個体、夏季 5 個体） ・Bブロック：65 箇所（冬季 58 個体、春季 5 個体、夏季 6 個体） ・Cブロック：39 箇所（秋季 23 個体、冬季 11 個体、春季 23 個体） ・Dブロック：29 箇所（秋季 11 個体、冬季 14 個体、春季 4 個体、夏季 1 個体） ・Eブロック：24 箇所（秋季 5 個体、冬季 9 個体、春季 75 個体、夏季 7 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29(4) 重要な哺乳類の予測結果（コキクガシラコウモリ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島、佐渡、八丈島、対馬、壱岐、福江島、屋久島、種子島、口永良部諸島、奄美諸島に分布します。 自然洞の他、廃坑、導排水路、ダム関連坑等人工洞をねぐらとし、昼間は 100 頭を超える集団で休息し、日没後に出洞し採餌を行います。食物は主に小型の飛翔昆虫であり、ガ類などの柔らかな体をもった昆虫が多いです。秋の交尾期を除き、雌雄それぞれに分かれる傾向が強いです。夏季に妊娠雌が限られた洞穴に集合して出産・育児集団を形成し、1 頭の仔を産みます。雄は集団を形成して冬眠しますが、多くの雌は単独で冬眠します。		
予測地域における確認状況	確認状況	1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・B ブロック：1 箇所（秋季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して、突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 また、本種は夜行性ですが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29(5) 重要な哺乳類の予測結果（モモジロコウモリ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、佐渡、対馬、壱岐、福江島、種子島、徳之島に分布します。 自然洞の他、廃坑、導排水路、ダム関連抗等人工洞をねぐらとし、日没後、洞穴から出て活動します。飛翔する昆虫類を捕食します。採食場所は河川、丘陵地、森林ですが、とくに森林では樹幹の間や樹冠付近で多く観察されています。初夏から夏の出産期に特定のねぐらで雌雄集まって出産・育児集団を形成し、1頭の仔を産みます。洞内では集団を形成しますが、しばしば割れ目や裂け目等に潜り込みます。川原の石の下に潜り込んで休息している例も記録されています。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林等において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 なお、本種は夜行性ですが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29 (6) 重要な哺乳類の予測結果（ヒナコウモリ科）

分布・一般生態	【ユビナガコウモリ（ヒナコウモリ科）】 国内では、本州（愛知県を除く）、四国、九州、佐渡、対馬、隠岐、福江島、屋久島に分布します。 自然洞の他、廃坑、導排水路等人工洞をねぐらとします。飛翔する昆虫類を河川、丘陵地帯、森林地帯、時には草原で捕食します。初夏から夏の出産期に特定のねぐらで数万頭の出産・育児集団を形成し、1頭の仔を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、市街地等において53箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Bブロック：1箇所（春季3個体） ・Eブロック：1箇所（夏季1個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：6箇所（秋季3個体、春季1個体、夏季5個体） ・Bブロック：9箇所（秋季1個体、春季15個体、夏季6個体） ・Cブロック：17箇所（秋季4個体、春季12個体、夏季8個体） ・Dブロック：11箇所（秋季3個体、春季4個体、夏季9個体） ・Eブロック：8箇所（秋季1個体、春季10個体、夏季4個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用するため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 なお、本種は夜行性ですが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29 (7) 重要な哺乳類の予測結果（コウモリ目）

分布・一般生態	【ヒナコウモリ（コウモリ目）】 国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 本来は樹洞を昼間の隠れ家にしますが、大木が激減し、樹洞が消失したために、家屋を利用せざるをえなくなっていると思われます。飛翔する昆虫類を捕食します。初夏になると妊娠した雌が集まって、出産・育児集団を形成し、1～3頭の仔を産みます。 【オヒキコウモリ（コウモリ目）】 国内では、北海道、埼玉、神奈川、三重、京都、兵庫、広島、愛媛、熊本、福岡などに分布します。 昼間の隠れ家は岩の割れ目や家屋が知られています。夕方に隠れ家から飛び出して、飛翔する昆虫等を採餌します。深い森林よりもむしろ開けた空間を採餌空間として利用します。昆虫類が飛ばない冬季には冬眠します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林、低地・台地の田園域と、河川の水域において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（春季1個体） ・Dブロック：2箇所（秋季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水域、水辺植生／市街地他		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地、市街地他が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地、市街地他が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 なお、本種は夜行性ですが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29(8) 重要な哺乳類の予測結果（ニホンザル）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、屋久島に分布します。 常緑広葉樹林と落葉広葉樹林が重要な生息地であり、山地帯を中心に生息します。十数頭から百数十頭までの群れで一定の遊動域内を移動します。遊動域の面積は、個体群の大きさと餌資源量により変化します。昼行性で、樹上及び地上で活動します。雑食性で、果実、種子、葉、芽、昆虫その他の小動物を採食しますが、量的には植物が多いです。交尾期は秋から冬、出産期は春から初秋ですが、地域によって変異があります。二年に一度、1頭の仔を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林、二次林等において 35 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 早春季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Aブロック：1 箇所（冬季 1 個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：17 箇所（秋季 4 個体、冬季 10 個体、春季 19 個体、夏季 3 個体） ・Bブロック：17 箇所（秋季 1 個体、冬季 6 個体、早春季 30 個体、春季 8 個体、夏季 6 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29 (9) 重要な哺乳類の予測結果（ノウサギ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、佐渡、隠岐諸島（島後、西ノ島）、淡路島、小豆島、五島列島（福江島、中通島）などに分布します。 低地から高山帯までの森林や草原などの様々な環境に見られますが、低山から山地帯に多いです。植物食性で、多くの植物の葉、芽、枝、樹皮を採食します。早春から秋まで連続して数回の出産を繰り返します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の植林と、河川の水辺植生等において 14 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Dブロック：2 箇所（冬季 2 個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：2 箇所（夏季 4 個体） ・Bブロック：2 箇所（冬季 3 個体、夏季 3 個体） ・Dブロック：6 箇所（秋季 3 個体、冬季 3 個体） ・Eブロック：2 箇所（秋季 2 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29(10) 重要な哺乳類の予測結果（ニホンリス）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、淡路島に分布します。 平野部から亜高山帯までの森林に生息しますが、低山帯のマツ林に多いです。昼行性で、主に樹上で生活します。ほぼ植物食性で、花、芽、種子、果実、キノコ類、昆虫その他の節足動物も少し食べます。樹上の枝の間などに巣を作り、初春から秋まで繁殖します。出産回数は年 1～2 回、春から秋に 2～6 頭の仔を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1 箇所（秋季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-29(11) 重要な哺乳類の予測結果（ムササビ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 低地から亜高山帯までの常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、常緑針葉樹林などの天然林、発達した二次林に生息します。低地ではこれらの植生が発達した寺社林に多いです。夜間に樹間を滑空し、樹を移動しながらブナ科、マツ科などの樹の芽、葉、花、果実、種子などを食べます。日中は樹洞の巣などで休息します。雌はなわばりを持ち、交尾期は冬と 5～6 月の 2 回、妊娠期間は 74 日です。春と秋に 1～4 頭の仔を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域と、低地・台地の二次林において 2 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1 箇所（夏季 1 個体） ・Cブロック：1 箇所（秋季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29(12) 重要な哺乳類の予測結果（カヤネズミ）

分布・一般生態	国内では、本州（宮城県以南の太平洋側、石川県以南の日本海側）、四国、九州に分布します。 主に平野の河川敷、農耕地に分布しますが、山でも高茎の草本があれば約 1,000 mまでは生息することもあります。食性は昆虫や草本の種子等雑食性です。5～11月頃、繁殖のために、オギ、チガヤ、ススキ、ヨシなどの高茎草本の葉を編んで、地上巣を作り中で繁殖するという特異な習性をもっています。冬は地上に降りて地下で巣を作り生活します。繁殖期は大部分の地域では春と秋の年 2 山型ですが、まれに夏も繁殖します。2～8 頭の仔を産みます。親は繁殖期間中複数の巣を利用して巣間を移動します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、河川の水辺植生等において 20 箇所を確認しました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Cブロック：1 箇所（秋季 1 個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：7 箇所（秋季 1 個体、冬季 3 個体、春季 4 個体） ・Bブロック：2 箇所（冬季 1 個体、夏季 1 個体） ・Cブロック：6 箇所（秋季 6 個体） ・Dブロック：1 箇所（夏季 1 個体） ・Eブロック：3 箇所（秋季 1 個体、冬季 2 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29(13) 重要な哺乳類の予測結果（ホンドテン）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、淡路島、対馬に分布します。 樹上空間を多く利用するため、森林を生息地としますが、樹木があれば人家周辺にも見られます。齧歯類、鳥類、両生爬虫類などの小型脊椎動物、昆虫類、ムカデなどの土壌動物、ヤマグワ、マタタビなどの果実類と、多様なものを採食します。交尾は夏に行われますが、出産は翌年春になります。4～5月に2～4頭の仔を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と、低地・台地の二次林等において45箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：14箇所（秋季6個体、冬季7個体、夏季1個体） ・Bブロック：13箇所（秋季1個体、冬季7個体、春季4個体、夏季2個体） ・Cブロック：2箇所（秋季2個体） ・Dブロック：2箇所（冬季1個体、春季1個体） ・Eブロック：14箇所（秋季6個体、冬季7個体、春季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29(14) 重要な哺乳類の予測結果（ニホンイタチ）

分布・一般生態	国内では、本州、九州、四国、佐渡、隠岐諸島、伊豆大島、淡路島、小豆島、奄岐、五島列島、屋久島、種子島などに分布します。 カエル、ネズミ類、鳥類、昆虫類など陸上小動物の他、水に入りザリガニなどの甲殻類や魚を捕食することもあります。九州では年2回繁殖し、1～8頭の仔を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林、田園域において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Dブロック：1箇所（夏季1箇所）
		対象道路周辺	・Eブロック：1箇所（秋季1箇所）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29(15) 重要な哺乳類の予測結果（イタチ属）

分布・一般生態	【ニホンイタチ（イタチ属）】 国内では、本州、九州、四国、佐渡、隠岐諸島、伊豆大島、淡路島、小豆島、壱岐、五島列島、屋久島、種子島などに分布します。 カエル、ネズミ類、鳥類、昆虫類など陸上小動物の他、水に入りザリガニなどの甲殻類や魚を捕食することもあります。九州では年2回繁殖し、1～8頭の仔を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域、植林等において44箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Dブロック：1箇所（冬季1個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：9箇所（秋季4個体、冬季3個体、春季1個体、夏季2個体） ・Bブロック：6箇所（秋季1個体、冬季1個体、夏季4個体） ・Cブロック：9箇所（秋季4個体、冬季3個体、夏季2個体） ・Dブロック：4箇所（冬季3個体、夏季1個体） ・Eブロック：15箇所（秋季1個体、冬季9個体、春季2個体、夏季4個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-29(16) 重要な哺乳類の予測結果（アナグマ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、小豆島に分布し、山地帯下部から丘陵部の森林、灌木林に生息します。 トンネルを掘り雌を中心とする家族集団で生活します。土壌動物や小動物を主に捕食します。交尾は4～7月で翌年春に出産します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と、低地・台地の二次林等において16箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：4箇所（秋季1個体、春季1個体、夏季2個体） ・Bブロック：9箇所（秋季1個体、冬季5個体、春季8個体、夏季3個体） ・Dブロック：1箇所（夏季1個体） ・Eブロック：2箇所（秋季1個体、冬季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

② 鳥類

重要な鳥類の予測結果は、表 11-7-30 に示すとおりです。

表 11-7-30(1) 重要な鳥類の予測結果（オシドリ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 冬季は湖沼や河川などで越冬します。カモの仲間では珍しくドングリなどを主食とし、冬期は山地から平地の河川や小さなため池などにも飛来します。繁殖期は 4～7 月、一夫一妻で繁殖します。巣は平地から山地の森林の大木の樹洞内や地上につくります。1 巣卵数は 7～12 個。生まれた雛は巣から飛び降りて親とともに歩いて水辺に移動します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と、低地・台地の田園域等において 5 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・B ブロック：5 箇所（秋季 6 個体、冬季 14 個体、夏季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(2) 重要な鳥類の予測結果（ヨシガモ）

分布・一般生態	国内では夏鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州に分布します。 海岸や湖沼、河口などで、昼間、水草類を水面で採食又は逆立ちして採食する姿がよく観察されるカモの一種です。食物はイネ科植物の実や水草など植物質が主となります。繁殖期は6～7月、一夫一妻で繁殖します。巣は、水辺の木株や土くれの上の草に覆われたところに、草の葉や茎で皿形につくり、産座に綿毛を敷きます。1巣卵数は6～9個です。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 冬季		
	確認位置	対象道路内	—	
対象道路周辺		・Dブロック：1箇所（冬季1個体）		
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域			
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C

表 11-7-30 (3) 重要な鳥類の予測結果（カイツブリ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 湖沼や河川に周年生息し、潜水して魚や水生動物を採って食べます。3～10 月ごろヨシ原や抽水植物の群落に水草類を積み上げた浮巣をつくり、年に 2～3 回、一夫一妻で繁殖します。1 巣卵数は 4～6 個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、河川の水辺植生等において 6 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：3 箇所（秋季 1 個体、春季 1 個体、夏季 5 個体） ・Dブロック：3 箇所（秋季 1 個体、冬季 1 個体、春季 1 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(4) 重要な鳥類の予測結果（アオバト）

分布・一般生態	国内では留鳥、漂鳥又は夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州に分布します。 山地の森林、特に広葉樹林に周年生息しています。冬季には平地でも見られます。樹上で採餌し、ドングリ類や液果を好んで食べます。つがいか小群で行動することが多いです。海のそばでは、海岸の岩場に出て海水を飲むことが知られています。繁殖についてはほとんどわかっていませんが、おそらく一夫一妻で繁殖します。巣が見つかっているのは6月です。地上1～6m ぐらいの樹木の枝の上に、小枝を集めて粗雑な巣をつくります。1 巣卵数は2 個です。もともと密度が高くなく、森林内に生息し目立たないため、分布や一般生態は十分に分かっていない点が多いです。		
予測地域における確認状況	確認状況	3 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：3 箇所（秋季2 個体、冬季5 個体、春季1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(5) 重要な鳥類の予測結果（ゴイサギ）

分布・一般生態	国内では留鳥、夏鳥又は冬鳥であり、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 夜行性のサギ類で昼間は湖岸や河畔林、社寺林、竹林等の茂った林に棲みます。 夕方から活発に飛び回り、湖沼、河川、水田などで魚、カエルなどを採食します。 繁殖期は4～8月です。平野部の林や河畔林、社寺林等で、他のサギ類とともに集団で営巣します。ごく小規模なゴイサギ単独の繁殖地もあります。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 夏季		
	確認位置	対象道路内	－	
対象道路周辺		・Cブロック：1箇所（夏季1個体）		
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生			
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C

表 11-7-30(6) 重要な鳥類の予測結果（ササゴイ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 河川中流域や池沼の水際に単独あるいはつがいで生息します。開けた水域の浅瀬で待ち伏せして魚を捕食しますが、両生類や水生昆虫なども食べます。夕方から夜間に行動しますが、繁殖期には昼間も魚捕りの姿が見られます。繁殖期は 5～7 月で、平野部の社寺林や公園などの茂った大木の梢に単独又は小集団で営巣し、雛を育てます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1 箇所（夏季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(7) 重要な鳥類の予測結果（アマサギ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 水田や草地などで昆虫類、両生類、爬虫類を捕食します。繁殖期は5～7月です。 平地から山麓にかけての林、河畔林、社寺林などでアオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ゴイサギとともに集団で営巣します。茂った森の樹上に皿型の巣をつくり、3～4卵を産みます。抱卵は23日、孵化から巣立ちは28日くらいです。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
対象道路周辺		・Cブロック：2箇所（春季2個体） ・Dブロック：1箇所（夏季3個体）	
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(8) 重要な鳥類の予測結果（チュウサギ）

分布・一般生態	国内では留鳥または夏鳥であり、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 水田などで魚類、昆虫類、ザリガニ、カエルなどを捕食します。繁殖期は4～7月です。山麓の林や河畔林、社寺林などでダイサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギとともに集団で営巣します。樹上に皿型の巣をつくり、青緑色の卵を3～5個産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において16箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Cブロック：1箇所（夏季1個体） ・Aブロック：1箇所（春季1個体） ・Cブロック：10箇所（春季8個体、夏季6個体） ・Dブロック：4箇所（春季2個体、夏季8個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-30(9) 重要な鳥類の予測結果（コサギ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 湖岸、池沼、河川、水田などの水辺で魚類、昆虫類、両生類、爬虫類などを採食します。繁殖期は4～8月です。平地から山麓にかけての林、河畔林、社寺林などで他のサギ類と集団営巣します。よく茂った森や竹林に小枝を集めて巣をつくり、3～4個を産みます。抱卵から巣立ちまでは50日くらいです。秋～冬は分散して河畔林や竹林などをねぐらにします。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において6箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（春季1個体） ・Bブロック：1箇所（夏季1個体） ・Cブロック：2箇所（春季1個体、夏季1個体） ・Dブロック：2箇所（春季1個体、夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(10) 重要な鳥類の予測結果（ホトトギス）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、北海道（南部）、本州、四国、九州、沖縄に分布します。9月には越冬地の東南アジアに向け渡去します。 托卵習性があり、主な仮親であるウグイスの棲む低山から山地のササ藪のある自然林に生息します。餌は昆虫を主食とし、毛虫をよく食べます。産卵期は、仮親であるウグイスと一致する5～6月で、ウグイス以外の仮親としては、ミソサザイ、センダイムシクイ、クロツグミ、アオジ、ベニマシコの記録があります。雌はこれらの鳥の巣から1卵をくわえとると、ウグイスの卵によく似たチョコレート色の卵を産み込みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林、二次林等において4箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（春季1個体） ・Eブロック：3箇所（春季1個体、夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(11) 重要な鳥類の予測結果（ケリ）

分布・一般生態	国内では留鳥であり、近畿地方以北の本州に分布し、北海道や沖縄県では稀です。水田、畑、河原、草地に生息します。湿田、水田、砂泥地などで、地上を歩いたり走ったりして採食し、昆虫の成虫・幼虫、イネ科やタデ科などの草の種子などをついばみます。繁殖期は3～6月、一夫一妻で局地的に繁殖します。巢は地上の砂地に窪みを掘り、枯れ草、藓類、地衣類、木片などを敷きます。1 巣卵数は3～4 個で、ほとんどは4 個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、市街地等において 25 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Cブロック：1 箇所（秋季 11 個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：6 箇所（秋季 4 個体、冬季 2 個体、春季 5 個体） ・Bブロック：3 箇所（春季 4 個体） ・Cブロック：10 箇所（秋季 21 個体、春季 5 個体、夏季 8 個体） ・Dブロック：2 箇所（春季 2 個体） ・Eブロック：3 箇所（春季 3 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(12) 重要な鳥類の予測結果（イカルチドリ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。沖縄県では少数が越冬します。 砂礫地がある河川、湖沼、池、水田に生息します。干潟や海岸に出ることは少ないです。湖沼や河川の水辺の地上や浅い水域で採食します。甲虫など昆虫の成虫・幼虫を食べます。雪面で動けなくなっているユスリカの成虫を盛んについばみまです。繁殖期は3～7月、一夫一妻で繁殖します。巣は、礫の間の地上に雌雄で窪みをつくり、植物の破片を敷きます。1巣卵数は3～4個で、ほとんどは4個です。抱卵は雌雄交代で行い、雛は27日ぐらいで孵化します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水辺植生等において5箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2箇所（冬季2個体、夏季1個体） ・Dブロック：2箇所（春季2個体、夏季4個体） ・Eブロック：1箇所（冬季3個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(13) 重要な鳥類の予測結果（コチドリ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。九州以北に夏鳥として渡来し、本州中部以南では少数が越冬します。 河川の中下流や農耕地、干拓地などに生息します。砂泥地の表面から、昆虫の成虫・幼虫をくわえとります。繁殖期は4～7月、河原や埋め立て地、造成地などの砂礫地で一夫一妻で繁殖します。巣は小石などを集めて地上につくり、小石そっくりな卵を4個産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（春季1個体） ・Dブロック：1箇所（春季2個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(14) 重要な鳥類の予測結果（タシギ）

分布・一般生態	国内では旅鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 日本には秋に渡来し、湖沼、河川、湿地、水田などで越冬します。冬期、積雪の多い地方では南へ移動するものが多いです。長い嘴を泥の中に突き刺して小動物などを食べます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において9箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	・Cブロック：1箇所（冬季1個体）
		対象道路周辺	・Cブロック：3箇所（秋季5個体、冬季1個体） ・Dブロック：2箇所（冬季2個体） ・Eブロック：3箇所（冬季7個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(15) 重要な鳥類の予測結果（クサシギ）

分布・一般生態	国内では旅鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。水田、河川、湿地などに生息します。嘴で水面や水中をついばんだり泥の中を探ったりして、水生昆虫やクモ、甲殻類、貝類などを食べます。単独でいることが多く、群れても小群です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、河川の水域等において 11 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季	
	確認位置	対象道路内	・Dブロック：1 箇所（冬季 2 個体）
		対象道路周辺	・Bブロック：1 箇所（春季 1 個体） ・Cブロック：5 箇所（秋季 1 個体、冬季 4 個体） ・Dブロック：1 箇所（秋季 1 個体） ・Eブロック：3 箇所（秋季 1 個体、冬季 3 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(16) 重要な鳥類の予測結果（キアシシギ）

分布・一般生態	国内では旅鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。琉球諸島では一部が越冬します。 主に湖岸、河川、水田などに生息します。嘴を泥の中にさし込んだり水面をついばんだりして、カニやゴカイ、水生昆虫などを食べます。繁殖期や繁殖についてはあまりわかりません。1 巣卵数は 4 個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において 2 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2 箇所（春季 3 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(17) 重要な鳥類の予測結果（イソシギ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。本州中部以北のものは、冬期は南に移動します。 湖岸や河川の中・下流、池や水田などでみられ、河川の中・下流域の浅瀬で水生昆虫などを食べます。水辺近くの石やコンクリート護岸の上にいることが多いです。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖するものが多いですが、同時的な一夫二妻、継時的な一妻多夫の例があります。巣は砂地に浅い窪みを掘り、枯れ草を敷いて皿形につくります。1巣卵数は3～4個で、ほとんど4個ですが、稀に5～7個のことがあります。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Cブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(18) 重要な鳥類の予測結果（ミサゴ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 海岸地帯や大きな湖沼に生息し、水面上空で低空飛行を行いながら魚を探し、急降下して中型の魚を捕えます。海岸、湖岸の岩棚や大木に営巣することが多いですが、鉄塔などの人工物を利用することもあります。産卵は3月下旬～4月で、産卵数は1～4個です。抱卵期間は約37日間で、孵化後50～60日で巣立ちます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林、二次林等において14箇所を確認されました。 また、猛禽類調査時に244例確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季、猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	・Bブロック：1箇所（春季1個体） ・猛禽類調査時：4例
		対象道路周辺	・Aブロック：8箇所（秋季3個体、春季8個体、夏季1個体） ・Bブロック：4箇所（秋季3個体、春季2個体） ・Eブロック：1箇所（秋季1個体） ・猛禽類調査時：240例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造で通過するため、生息環境の消失・縮小はほとんど生じないと考えられます。 本種は調査地域内で繁殖が確認されましたが、繁殖つがいの営巣場所で改変はありません。また、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 各営巣場所の対象道路（明かり部）からの距離は最も近いもので約670mですが、地形等による遮蔽が見込まれるため、建設機械の稼働に伴う騒音・振動による繁殖活動への影響はほとんど生じないものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造で通過するため、生息環境の消失・縮小はほとんど生じないと考えられます。 本種は調査地域内で繁殖が確認されましたが、繁殖つがいの営巣場所で改変はありません。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(19) 重要な鳥類の予測結果（ハチクマ）

分布・一般生態	国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。滋賀県内では全域の丘陵地・山地に分布します。 産卵数は2～3個で、孵化後35～45日で巣立ちます。主な獲物は地中のハチですが、その他の昆虫、小型の両生類、爬虫類、ネズミ等も捕食します。9月中旬頃から10月初旬には、越冬地の東南アジアに渡る群が主に県北部の山間部を北東から南西に飛行しているのを観察できます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林、二次林等において猛禽調査時に110例確認されました。	
	確認時期	猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	・猛禽類調査時：1例
		対象道路周辺	・猛禽類調査時：109例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 本種は調査地域内で繁殖兆候が確認されましたが、繁殖つがいの推定営巣場所で改変はありません。 推定営巣場所の位置は、対象道路（明かり部）から約1,610m離れていることから、建設機械の稼働に伴う騒音・振動による繁殖活動への影響はほとんど生じないものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-30 (20) 重要な鳥類の予測結果（オオワシ）

分布・一般生態	国内では北海道、本州（中・北部）に分布します。 大型の海ワシ類で、日本には秋に渡来し、海岸や大きな河川下流部、島などで越冬します。滋賀県内では 11 月末から 2 月までの約 3 か月間、琵琶湖周辺に生息します。湖に面した山地を生息地とし、琵琶湖で主に大型の魚類を捕獲していますが、時にはカモ等も捕えます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において猛禽調査時に 1 例確認されました。	
	確認時期	猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・猛禽類調査時：1 例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境はされると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(21) 重要な鳥類の予測結果（チュウヒ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。一部は北海道と本州で繁殖します。 広いヨシ原や草原、湿地、水田などに生息し、翼をV字形に保って低空飛行しながら獲物を探し、鳥類や小動物、爬虫類、両生類、魚類などを捕食します。4～7月にヨシ原などの地上に枯れ草を高く積み重ねた巣をつくります。産卵数は4～6個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域等において1箇所を確認されました。 また、猛禽調査時に1例確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	—
対象道路周辺		・Dブロック：1箇所（冬季1個体） ・猛禽類調査時：1例	
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (22) 重要な鳥類の予測結果（ハイイロチュウヒ）

分布・一般生態	国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 ユーラシア大陸の亜寒帯や北アメリカで繁殖する個体が、冬季にごく少数が日本へ渡来し、広いヨシ原や草原、湿地、水田等に生息します。ヨシ原付近を低空でV字滑翔や旋回飛行をしながら、餌となる小型哺乳類、鳥類等をみつけて捕食します。他のタカ類のように樹木や構造物に止まることは多くありません。滋賀県内では、冬季に琵琶湖畔や内湖のヨシ原、農耕地等に生息しています。		
予測地域における確認状況	確認状況	猛禽調査時に5例確認されました。	
	確認時期	猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・猛禽類調査時：5例
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(23) 重要な鳥類の予測結果（ツミ）

分布・一般生態	国内では夏鳥又は留鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 獲物のほとんどは小鳥類ですが、小型哺乳類や昆虫なども捕食します。山間部の森林に生息し繁殖しますが、冬期には平地や河畔林にも出現します。産卵は4月下旬～5月上旬で、産卵数は2～5個です。抱卵期間は26～29日間で、孵化後約1か月で巣立ちます。		
予測地域における確認状況	確認状況	1箇所を確認されました。 また、猛禽類調査時に6例確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（秋季1個体） ・猛禽類調査時：6例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(24) 重要な鳥類の予測結果（ハイタカ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 丘陵地から山間部に生息し、林内や林縁部で主として飛行追跡によって小型の鳥類を捕食します。産卵時期は5月頃で、産卵数は4～5個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林、低地・台地の田園域と、市街地等において7箇所 で確認されました。 また、猛禽類調査時に92例確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 春季、猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	・Dブロック：1箇所（冬季1個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：2箇所（冬季2個体） ・Cブロック：2箇所（冬季1個体、春季1個体） ・Eブロック：2箇所（冬季2個体） ・猛禽類調査時：92例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(25) 重要な鳥類の予測結果（オオタカ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。北方で繁殖する個体は、冬季には本州以南に移動して越冬するものが多いです。 丘陵地から山間部に周年生息し、主に林縁部などで小型～中型の鳥類を捕食します。比較的大きな針葉樹のある混交林などで繁殖します。近年、繁殖地を拡大しており、山地だけではなく、平野部の森林（防風林・社寺林など）で繁殖していることもあります。産卵は4～5月です。産卵数は2～3個です。抱卵期間は35～38日間で、孵化後35～40日で巣立ちます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と、低地・台地の田園域等において4箇所を確認されました。 また、猛禽類調査時に373例確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 夏季、猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	・猛禽類調査時：7例
		対象道路周辺	・Cブロック：1箇所（冬季1個体） ・Dブロック：2箇所（冬季2個体） ・Eブロック：1箇所（夏季2個体） ・猛禽類調査時：366例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 本種は調査地域内で繁殖が確認されましたが、繁殖つがいの営巣場所で改変はありません。高利用域の一部が改変されるつがいがいます。 推定営巣場所の位置は、対象道路（明かり部）から約960～2,980m離れていることから、建設機械の稼働に伴う騒音・振動による繁殖活動への影響はほとんど生じないものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 本種は調査地域内で繁殖が確認されましたが、繁殖つがいの営巣場所で改変はありません。高利用域の一部が改変されるつがいがいます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (26) 重要な鳥類の予測結果（サシバ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、本州、四国、九州に分布し、南西諸島では一部が越冬します。 主に林縁部や水田の畔、湿地、草地などで、小型の両生類、爬虫類、昆虫などを捕食します。繁殖期は4～7月、丘陵地から標高800m付近の山地で繁殖することが多いです。一夫一妻で繁殖しますが、まれに一妻二夫の場合もあります。森林や丘陵地の奥まった谷のマツやスギの枝上に、枯れ枝を積み重ねて皿形の巣をつくります。1 巣卵数は平均 2.7 個です。秋には多くの個体が群れを成して北東から南西へ渡っていくのが山間～山麓部で観察されます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、植林等において3箇所を確認されました。 また、猛禽類調査時に121例確認されました。	
	確認時期	R2 春季、猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：3箇所（春季3個体） ・猛禽類調査時：121例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 本種は調査地域内で繁殖が確認されましたが、繁殖つがいの推定営巣場所及び高利用域で改変はありません。 推定営巣場所の位置は、対象道路（明かり部）から約1,360～2,170m離れていることから、建設機械の稼働に伴う騒音・振動による繁殖活動への影響はほとんど生じないものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 本種は調査地域内で繁殖が確認されましたが、繁殖つがいの推定営巣場所及び高利用域で改変はありません。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (27) 重要な鳥類の予測結果（ノスリ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。北方で繁殖する個体は、冬期に本州以南に移動して越冬するものが多いです。 草地、伐採地、農耕地などの開けた場所で、空中に停飛したり、電柱に止まったりして、地上のノネズミなどの小型の哺乳類や小鳥、爬虫類、昆虫を捕食します。主として本州中部以北の山麓部から山間部の森林で一夫一妻で繁殖します。番はなわばりをもって分散します。林内の大木の枝の叉に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣をつくります。雌は5～6月に、4～6日おきに1卵ずつ計2～3個産卵します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と、低地・台地の田園域等において17箇所を確認されました。 また、猛禽類調査時に107例確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：7箇所（秋季8個体、冬季1個体） ・Bブロック：4箇所（秋季3個体、冬季1個体） ・Dブロック：3箇所（冬季3個体） ・Eブロック：3箇所（秋季1個体、冬季3個体） ・猛禽類調査時：107例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(28) 重要な鳥類の予測結果（クマタカ）

分布・一般生態	国内では留鳥であり、北海道、本州、四国、九州に分布します。 山岳森林帯に周年生息し、小型～中型のさまざまな動物を捕食します。繁殖期は4～7月ごろ、一夫一妻で繁殖します。巣は大木の大枝の叉の上に枯れ枝を重ねてつくります。アカマツ、モミ、コメツガなどの針葉樹の中層から上層部の幹寄りを使うことが多いですが、枝先や樹頂につくこともあります。1 巣卵数は 1～2 個です。2～4 月頃に 1 卵を産卵し、巣立ちは 7～8 月です。幼鳥は巣立ち後、少なくとも翌年の 2 月頃までは巣の周囲 1 km 以内に留まることが多いです。		
予測地域における確認状況	確認状況	1 箇所を確認されました。 また、猛禽類調査時に 54 例確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1 箇所（秋季 1 個体） ・猛禽類調査時：54 例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(29) 重要な鳥類の予測結果（フクロウ）

分布・一般生態	国内では留鳥であり、北海道、本州、四国、九州に分布します。 平地から亜高山帯の大木のある森林に生息し、待ち伏せ型のハンティングを行い、主に小型の哺乳類を捕食します。2～3 月に枯れ木の洞に営巣し、3～4 個産卵します。石垣や家屋の屋根裏、巣箱などに営巣することもあります。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林等において7箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Eブロック：1箇所（冬季1個体）
対象道路周辺		・Bブロック：4箇所（春季3個体、夏季1個体） ・Eブロック：2箇所（冬季2個体）	
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域／市街地他		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、市街地他が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、市街地他が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(30) 重要な鳥類の予測結果（カワセミ）

分布・一般生態	国内では留鳥、漂鳥又は夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。北方のものは冬期南方に移動します。 河川やため池、湖岸などの水辺で生活し、杭や木、岩などにとまって水中の動物を探し、ダイビングして捕えます。ときには空中で止まる停空飛翔を行い、そこからダイビングします。4～8月にかけて崖など土が露出した所に穴を掘って巣をつくり、繁殖します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、河川の水辺植生等において19箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Cブロック：1箇所（冬季1個体）
		対象道路周辺	・Bブロック：6箇所（秋季3個体、冬季2個体、春季2個体、夏季1個体） ・Cブロック：1箇所（冬季1個体） ・Dブロック：5箇所（秋季1個体、冬季1個体、春季1個体、夏季2個体） ・Eブロック：6箇所（秋季2個体、冬季2個体、春季1個体、夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(31) 重要な鳥類の予測結果（オオアカゲラ）

分布・一般生態	国内では留鳥であり、北海道、本州、四国、九州に分布します。 周年生息し、落葉広葉樹林や針広混交林で、大木の枯れ木がある環境を好みます。枯れ木をつついてカミキリやその幼虫を捕食します。繁殖期は3～6月ごろまでで、一夫一妻で繁殖します。巣は枯死木に雌雄共同で掘る樹洞です。地上10mぐらいのところに、直径6.5～6.8cmぐらい、深さ40cmぐらいの巣穴を掘ります。1巣卵数は3～5個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(32) 重要な鳥類の予測結果（アオゲラ）

分布・一般生態	日本固有種で、留鳥であり、本州から九州、種子島、屋久島に分布します。 平地から山地の林に生息し、樹幹を下から上へよじ登りながら採食します。昆虫、甲虫の幼虫・成虫、クモ、ムカデなどを食べます。地上でアリを盛んに舐めとります。また小枝に止まって果実も食べます。繁殖期は 4～6 月、一夫一妻で繁殖します。巣は主に下枝のない生木の樹幹に樹洞を掘ってつくり高さは地上 2～5m です。1 巣卵数は 7～8 個、雌雄交代で抱卵し、育雛も雌雄共同で行います。詳しい一般生態はまだ分かっていません。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、植林等において 8 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：3 箇所（夏季 3 個体） ・Bブロック：4 箇所（秋季 1 個体、冬季 1 個体、夏季 2 個体） ・Eブロック：1 箇所（秋季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (33) 重要な鳥類の予測結果（チョウゲンボウ）

分布・一般生態	国内では主に冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 電柱や棒杭から飛び立ち、空中の一点でひらひらと停止飛翔を行い、餌にする小動物、小型鳥類、昆虫などに狙いを定めて急降下し捕食します。平地から山麓の崖や林で営巣しますが、近年都市部へ進出し、人口構造物での繁殖事例がでています。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖します。1 巣卵数は4～6 個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と市街地等において22 箇所を確認されました。 また、猛禽類調査時に77 例確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 夏季、猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	・Cブロック：3 箇所（秋季2 個体、夏季1 個体） ・猛禽類調査時：7 例
		対象道路周辺	・Aブロック：1 箇所（冬季1 個体） ・Bブロック：4 箇所（秋季3 個体、冬季1 個体、） ・Cブロック：7 箇所（秋季4 個体、冬季3 個体） ・Dブロック：4 箇所（秋季1 個体、冬季2 個体、夏季1 個体） ・Eブロック：3 箇所（秋季2 個体、冬季1 個体） ・猛禽類調査時：70 例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生／市街地他		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地、市街地他が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 本種は調査地域内で繁殖が確認されましたが、繁殖つがいの営巣場所で改変はありません。 推定営巣場所の位置は、対象道路（明かり部）から約1,730m 離れていることから、建設機械の稼働に伴う騒音・振動による繁殖活動への影響はほとんど生じないものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地、市街地他が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 本種は調査地域内で繁殖が確認されましたが、繁殖つがいの営巣場所で改変はありません。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (34) 重要な鳥類の予測結果（コチョウゲンボウ）

分布・一般生態	国内では冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州に分布します。南西諸島では稀です。 広い農耕地や河川敷、草原など、開けた広い場所で越冬しています。餌は主に小型の鳥類や昆虫類などで、飛んでいる小鳥を高速飛行で追い回して捕食します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（冬季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域、草地／低地・台地の田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (35) 重要な鳥類の予測結果（ハヤブサ）

分布・一般生態	国内では留鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 主に断崖絶壁が連なる海岸地帯に生息し、断崖や岩場のある海岸沿いや大きな河川、湖沼周辺で繁殖します。主に小型～中型の鳥類を猛烈なスピードで急襲して捕えます。産卵時期は3～4月で、産卵数は3～4個です。抱卵期間は24～34日間です。孵化後35～42日で巣立ちます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と低地・台地の田園域等において3箇所を確認されました。 また、猛禽類調査時に33例確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、猛禽類調査時	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Cブロック：1箇所（冬季1個体） ・Dブロック：2箇所（秋季1個体、冬季1個体） ・猛禽類調査時：33例
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(36) 重要な鳥類の予測結果（ヤイロチョウ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、本州中南部、四国、九州に分布します。 山地のよく茂った森林に生息します。地上でミミズや昆虫などを捕食します。繁殖期は 6～7 月、一夫一妻で繁殖します。巣はドーム状で、樹上のことありますが、大部分は地上に置きます。1 巣卵数は 4～6 個で、4～5 個が多いです。		
予測地域における確認状況	確認状況	1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・B ブロック：1 箇所（春季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-30(37) 重要な鳥類の予測結果（サンショウクイ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は夏鳥であり、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 山麓から山地の落葉広葉樹林に好んで生息します。樹齢が高い大径木の林を好み、山地に近い社寺林などで繁殖していることが多いです。餌は樹上で昆虫類やクモなどを捕食します。繁殖期は 5～7 月、高い木の横枝に一見こぶのように見える碗型の巣をつくり、4～5 卵を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、植林等において 12 箇所で確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	－
		対象道路周辺	・Aブロック：4 箇所（春季 3 個体、夏季 7 個体） ・Bブロック：8 箇所（春季 6 個体、夏季 5 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (38) 重要な鳥類の予測結果（サンコウチョウ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、本州、四国、九州に分布します。 低山地の落葉広葉樹林や常緑広葉樹林に生息します。餌は飛翔する昆虫類をフライングキャッチします。繁殖期は5～8月、年に1～2回、一夫一妻で繁殖します。巣は周りに葉のない枝の2又か3又の部分に、スギの皮やアカマツの葉やコケ類などをクモの糸で丹念にからませ、円錐を逆さにした形につくります。1 巣卵数は3～5個です。9月には越冬地の東南アジアに向けて渡去します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林等において4箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季1個体） ・Bブロック：3箇所（春季2個体、夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(39) 重要な鳥類の予測結果（キクイタダキ）

分布・一般生態	国内では留鳥または漂鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 亜高山帯の針葉樹林で繁殖し、冬は低地に移動して越冬します。針葉樹林の葉先で停止飛翔しながら虫を採食する行動は、本種独特のものです。繁殖期は 6 月～8 月、一夫一妻で繁殖します。巣は、針葉樹の樹冠部の小枝の間にハンモック状に吊るした碗形で、外装には地衣類や蘚類、ダケカンバの樹皮などを、内装には獣毛やシダ類の仮根を使います。1 巣卵数は 5 個～8 個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1 箇所（冬季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(40) 重要な鳥類の予測結果（コガラ）

分布・一般生態	国内では留鳥であり、九州以北に分布します。 低山から亜高山の林に、北海道では平地の林にも生息します。樹林内の中・下層部で採食します。枝の枯死部にしっかりつかまり、しばしば逆さに止まってくちばしを打ち込み、ノミで溝を掘るようにほじくり、甲虫の幼虫などをとり出します。秋には草や樹木の種子・小果実を食べますが、これらを大量に樹木の中・下層部の幹の割れ目に貯えます。アブラムシを数匹つぶした肉だんごも貯えます。繁殖期は5～7月頃、一夫一妻で繁殖します。巣は枯れ木や枯れ枝に樹洞を掘ってつくります。1巣卵数は5～9個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林、田園域等において6箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：6箇所（秋季4個体、冬季1個体、春季1個体、夏季6個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(41) 重要な鳥類の予測結果（ヤブサメ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 低山帯の下層林がよく繁った薄暗い林に潜って生活し、茂みの中を枝移りしながら昆虫などを採食します。繁殖期は 5～7 月で、木の根元や崖の凹みなどの地上に巣をつくり、5～7 卵を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	2 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2 箇所（春季 2 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (42) 重要な鳥類の予測結果（メボソムシクイ上種）

分布・一般生態	【メボソムシクイ（メボソムシクイ上種）】 国内では夏鳥であり、本州から九州に渡来します。 主に亜高山帯の針葉樹林に生息します。樹木の下枝から下枝へ移り伝わりながら葉や枝の下側に飛びついて、周辺を飛んでいる虫や止まっている虫を捕食します。繁殖期は6～8月。一夫一妻らしいですが、一夫多妻の疑いもあります。巣は地上につくることが多く、蘚類が茂る窪みや樹木の根の間、ササの根元、落ち枝の堆積の隙間など、うまく隠れた部分に置きます。1 巣卵数は 4～5 個です。 【オオムシクイ（メボソムシクイ上種）】 国内では旅鳥として渡来します。渡りの時期、春は 5 月中旬～6 月中旬、秋は 9 月中旬～10 月中旬です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林等において 13 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：3 箇所（秋季 3 個体） ・Bブロック：7 箇所（秋季 8 個体） ・Dブロック：2 箇所（秋季 2 個体） ・Eブロック：1 箇所（秋季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(43) 重要な鳥類の予測結果（オオムシクイ）

分布・一般生態	国内では旅鳥として渡来します。渡りの時期、春は5月中旬～6月中旬、秋は9月中旬～10月中旬です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の植林等において4箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：3箇所（春季4個体） ・Dブロック：1箇所（春季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(44) 重要な鳥類の予測結果（オオヨシキリ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 餌はヨシ原内で昆虫類を食べます。繁殖期は5～8月、年に1～2回繁殖しますが、本州中部以北では年に1回の繁殖がふつうです。一夫多妻で繁殖します。ヨシの茎にイネ科の葉や茎を用いて椀形の巣をつくります。1巣卵数は4～6個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において8箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：3箇所（春季3個体） ・Bブロック：2箇所（春季2個体） ・Cブロック：1箇所（夏季1個体） ・Dブロック：2箇所（春季2個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(45) 重要な鳥類の予測結果（セッカ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は漂鳥であり、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 平地から山地にかけての草原や河原、水田などでイネ科植物が生えた草原に生息します。植物の茎を移動しながら、昆虫、クモ類を食べます。繁殖期は4～9月で、チガヤなどの細長い葉をクモの糸でからめてトックリ型の巣をつくり、4～6卵を産みます。一夫多妻です。北日本の個体は冬になると暖地に移動します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、河川の水域において17箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Eブロック：1箇所（春季1個体）
		対象道路周辺	・Bブロック：2箇所（春季2個体） ・Cブロック：7箇所（冬季1個体、春季4個体、夏季2個体） ・Dブロック：4箇所（春季3個体、夏季1個体） ・Eブロック：3箇所（春季1個体、夏季2個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(46) 重要な鳥類の予測結果（ミソサザイ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は漂鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 山間部の溪谷や沢筋の広葉樹林、針広混交林、亜高山針葉樹林に周年生息し、苔のある岩が重なる斜面、倒木の多いところで繁殖します。甲虫などの昆虫やクモ類などを捕食します。複数の巣をつくり、1羽の雄が複数のメスを獲得することもあります。繁殖期は4～7月、産卵数は3～6個、抱卵期間は14～15日間です。孵化後16～17日程で巣立ちます。		
予測地域における確認状況	確認状況	2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2箇所（冬季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (47) 重要な鳥類の予測結果（トラツグミ）

分布・一般生態	国内では留鳥、漂鳥又は夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 地上付近で行動することが多く、落ち葉を跳ね除けてミミズを主に採食します。繁殖期は4～8月、この繁殖期に、主に夜間、口笛のような声でさえずります。木の枝の上にコケ類や枯れ枝で椀形の巣をつくります。1巣卵数は3～5個です。冬期は雪を避けて平地から山麓部に移動し、里山林、社寺林、公園などの常緑樹が茂る林の周辺で越冬します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、植林等において4箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：4箇所（冬季2個体、春季1個体、夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(48) 重要な鳥類の予測結果（クロツグミ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州に分布します。 山麓から山地の落葉広葉樹林に生息し、森林の地面でミミズや昆虫を採食します。繁殖期は5～7月で、雄は明るい大きな声でよくさえずります。落葉広葉樹の枝上にコケ類や枯れ草、土などを材料に椀形の巣をつくり、3～4卵を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	2箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2箇所（秋季1個体、夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-30(49) 重要な鳥類の予測結果（ルリビタキ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は漂鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 亜高山帯から高山帯で繁殖し、冬期は暖地の山麓や丘陵地へ移動します。針葉樹などの混じった暗い森を好む傾向があります。主として森林の下層で行動し、下枝にとまって昆虫やクモなどを捕えて食べます。繁殖期は 5～8 月、一夫一妻で繁殖します。巣は、岩の間や下、樹木の根の間や下などの、穴蔵のような隠れたところを選びます。巣は碗形で、外装は藓類、地衣類、草など、内装は落ち葉、シダ類の仮根、獣毛などでつくります。1 巣卵数は 3～6 個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、植林と、低地・台地の二次林等において 8 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：7 箇所（秋季 1 個体、冬季 6 個体） ・Eブロック：1 箇所（冬季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (50) 重要な鳥類の予測結果（イソヒヨドリ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は漂鳥であり、全国に分布します。 海岸、崖地、河口、港などに生息します。近年、海辺近くの都市部から内陸へかなり入った川沿いの集落、山間部の集落などまで進出し、周年見られる地域もあります。多様な餌種をもち、海岸に生息する昆虫やフナムシ、あるいは海岸沿いの林にすむムカデなどの多足類、ヤモリ、トカゲなどの両生・爬虫類を食べます。まれに小鳥の巣を襲い、雛を食べることもあります。市街地では、路上に捨てられたゴミを餌にします。繁殖期は2～8月、ほとんどの番が年に2回、一夫一妻で繁殖します。巣は海岸沿いの岩場や崖、人家の屋根の隙間につくりますが、市街地ではビルや工場などの建造物の隙間、信号機などにもつくります。1巣卵数は4～6個、最終卵を産んでから抱卵に入ります。		
予測地域における確認状況	確認状況	市街地において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（春季1個体）
本種の主な生息環境	河川の水辺植生／市街地他		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(51) 重要な鳥類の予測結果（キビタキ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 落葉広葉樹林や針広混交林で繁殖します。特にブナ林や山麓の社寺林など大木の林を好み、主に昆虫類をフライングキャッチで採食します。秋の渡り時には木の実なども食べます。繁殖期に雄は「ピッコロロ、ピッコロロ」などと美しい音色でさえずります。巣は樹洞や繁った葉の間などに碗型の巣をつくり、4～5 卵を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林、二次林等において 45 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：11 箇所（春季 9 個体、夏季 2 個体） ・Bブロック：16 箇所（秋季 5 個体、春季 11 個体、夏季 4 個体） ・Dブロック：2 箇所（秋季 2 個体） ・Eブロック：16 箇所（秋季 6 個体、春季 9 個体、夏季 3 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(52) 重要な鳥類の予測結果（オオルリ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 夏緑広葉樹林や針葉樹林に生息します。溪谷に沿った林を好みます。餌は主に昆虫類をフライングキャッチで採食します。繁殖期に雄は枝先にとまって大きな声でさえずります。巢は崖地の窪みに苔を集めて碗状の巣をつくり、4～5 卵を産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林等において 2 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2 箇所（春季 2 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (53) 重要な鳥類の予測結果（カヤクグリ）

分布・一般生態	日本固有種で、漂鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州に分布します。 亜高山帯から高山帯で 6～9 月に繁殖します。雌がハイマツ、オオシラビソの低木の枝上に苔などを用いて碗型の巣をつくります。1 妻 2 夫制で、産卵数は 2～4 個、抱卵期間は 13～14 日間です。繁殖期は主に昆虫類を捕食しますが、冬期には種子も食べます。		
予測地域における確認状況	確認状況	1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・B ブロック：1 箇所（冬季 2 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (54) 重要な鳥類の予測結果（ハクセキレイ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は漂鳥であり、北海道から九州に分布します。 平地から山地の海岸、河口、河川、農耕地、都市部の公園、人家周辺、山間部の集落などに生息します。水辺を歩きながらついで採食することが多いですが、フライングキャッチ法で空中に飛び出して飛んでいる虫も捕えます。主として昆虫食で、多種のカゲロウ類を捕えます。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖します。巣は人工の建造物の鉄骨の上、換気扇の中、軒下の窪みなどにつくります。1 巣卵数は4～5個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において 44 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Bブロック：1 箇所（春季 1 個体） ・Dブロック：1 箇所（春季 1 個体） ・Eブロック：1 箇所（冬季 1 個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：5 箇所（秋季 2 個体、冬季 1 個体、春季 2 個体） ・Bブロック：14 箇所（秋季 9 個体、冬季 15 個体、春季 4 個体、夏季 2 個体） ・Cブロック：12 箇所（秋季 4 個体、冬季 20 個体、春季 1 個体） ・Dブロック：8 箇所（秋季 8 個体、冬季 2 個体、春季 4 個体、夏季 2 個体） ・Eブロック：2 箇所（秋季 1 個体、夏季 2 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生／市街地他		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、市街地他が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、市街地他が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(55) 重要な鳥類の予測結果（ビンズイ）

分布・一般生態	国内では漂鳥、夏鳥又は冬鳥であり、北海道から四国に分布します。 平地から高山帯の草地や明るい林、針葉樹林帯、針広混交林、落葉広葉樹林など開けた環境に生息します。夏は動物質の昆虫を主要食にし、冬は主に植物の種子をついばみます。地上で両脚を交互にして、足早に歩行しながら採食することが多く、はね歩くことはありません。5～8月までに年に2回、一夫一妻で繁殖します。巣は林縁の草の根元、崖、土手の窪みなどにある例が多く、皿形か浅い碗形です。1巣卵数は3～5個で、平均4.2個です。しばしばカッコウに托卵されます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において9箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：4箇所（秋季5個体） ・Bブロック：2箇所（秋季2個体） ・Cブロック：3箇所（秋季3個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (56) 重要な鳥類の予測結果（タヒバリ）

分布・一般生態	国内では旅鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。地上を活発に歩き回りながら草の種子や昆虫などを採食します。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において6箇所を確認されました。		
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季		
	確認位置	対象道路内	・Aブロック：1箇所（秋季1個体）	
対象道路周辺		・Aブロック：2箇所（秋季4個体） ・Bブロック：3箇所（秋季3個体、冬季6個体）		
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水辺植生			
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C

表 11-7-30 (57) 重要な鳥類の予測結果（ベニマシコ）

分布・一般生態	国内では夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州に分布します。 広葉樹林や低木林、藪、草地、ヨシ原などに生息します。昆虫、果実、種子、木の芽などを食べます。小枝に止まって、体を伸ばしたり、逆さにしたりして小果実などをくわえとり、くちばしをモグモグと動かして食べます。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖します。巣は地上 80～170cm ぐらいの低木や藪の小枝に乘せるように、枯れ草、樹皮、細根などで椀形につくります。1 巣卵数は 3～6 個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において 4 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：3 箇所（冬季 10 個体） ・Dブロック：1 箇所（冬季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30(58) 重要な鳥類の予測結果（ウソ）

分布・一般生態	国内では漂鳥又は冬鳥であり、北海道、本州、四国、九州に分布します。 冬期に落葉広葉樹林や針広混交林などに生息します。樹上性で、小群で行動し、液果やカエデ類の乾果などの木の実、木の芽、花芽なども食べます。サクラやウメの花芽も食べるので、話題になることもあります。		
予測地域における確認状況	確認状況	1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（冬季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-30 (59) 重要な鳥類の予測結果（シメ）

分布・一般生態	国内では漂鳥又は冬鳥であり、全国各地に分布します。 平地から山地の針広混交林、落葉広葉樹林、市街地の公園の林などに生息します。ムクノキ、エノキ、ヤマハゼ、カエデなどの植物の種子を主食とし、太いくちばしで相当堅い種子でも割って食べます。繁殖期には鞘翅類などの昆虫もついでに食べます。繁殖期は 5～8 月、年に 2 回、一夫一妻で繁殖します。落葉広葉樹林の林縁や雑木林の中の灌木に、枯れ草、枯れ枝などを用いて碗形の巣をつくりまします。1 巣卵数は 3～6 個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において 4 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：2 箇所（秋季 1 個体、冬季 1 個体） ・Cブロック：1 箇所（秋季 1 個体） ・Dブロック：1 箇所（冬季 2 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-30 (60) 重要な鳥類の予測結果（ホオアカ）

分布・一般生態	国内では留鳥、漂鳥又は夏鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 草原で夏は昆虫類やクモなどを捕食し、冬は植物の種子など食べます。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖します。巣は草むらの間や草株の上、藪の枝の上などに置くようにつくり、草や葉の茂みにうまく隠されています。巣は碗形で、外装には枯れ草、細根を、内装には細い茎や根、シダ類の仮根、獣毛などを使います。1 巣卵数は3～6個です。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、河川の水域において3箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 冬季		
	確認位置	対象道路内	—	
対象道路周辺		・Cブロック：2箇所（冬季4個体） ・Dブロック：1箇所（冬季3個体）		
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域、草地／河川の水辺植生			
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C

表 11-7-30(61) 重要な鳥類の予測結果（クロジ）

分布・一般生態	国内では留鳥又は漂鳥であり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 林床植物がよく茂った森林に生息します。山地のササの多い林で繁殖し、この時期、雄は目立つ所に止まり「ホーイ、チョリチョリ」という特徴的なさえずりで鳴きます。地上でタデ科やイネ科植物の種子を食べます。繁殖期は5～8月、一夫一妻で繁殖します。巣は地上1～2mぐらいの藪の中やササの稈の重なりなどの上に乗せるようにつくります。1巣卵数は3～5個です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と、低地・台地の植林等において4箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	・Bブロック：1箇所（冬季2個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：3箇所（冬季15個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、橋梁部及び土工部は、路面高・幅員が周辺の建物や樹林の高さと比較して突出した高さ・幅員ではなく、橋梁部は桁下空間が確保されることから、飛翔空間は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

③ 両生類

重要な両生類の予測結果は、表 11-7-31 に示すとおりです。

表 11-7-31(1) 重要な両生類の予測結果（ヤマトサンショウウオ）

分布・一般生態	日本固有種で、中部地方（岐阜、愛知）から近畿地方（三重、滋賀、京都、奈良、大阪）に分布します。 丘陵地の林床や草地などに生息します。幼生は水中の昆虫やミミズなど、成体や幼体は陸上の昆虫やダンゴムシ、ミミズ、ナメクジを捕食します。繁殖期（2～4月）になると、湿地、水田、浅い池などの止水域に現れ、水中の水草や泥の中などに卵嚢を産みつけます。孵化した幼生は5～7月に変態して上陸します。成体や幼体は、倒木や石の下、浅い土壌中等に潜んでいることが多いです。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、田園域等において23箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 早春季、R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：13箇所（秋季1個体、早春季62個体） ・Bブロック：10箇所（冬季1個体、早春季35個体、春季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-31 (2) 重要な両生類の予測結果（アカハライモリ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州に分布します。 5～7月上旬に水田や池、小川で繁殖します。一腹卵数は100～400個で、雌は産卵期間中に何回も産卵し、1回ごとの産卵数は40個以下です。卵は1粒ずつ水草や枯れ葉などに産みつけられます。幼生は水生の小動物を捕食し、夏から秋にかけて変態しますが、一部は越冬し翌年変態します。変態後数年間は陸上で生活し、ミミズや昆虫などの小動物を捕食します。成熟後は再び水中で生活することが多いです。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季、R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Cブロック：1箇所（春季3個体） ・Eブロック：1箇所（早春季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-31 (3) 重要な両生類の予測結果（ヒキガエル属）

分布・一般生態	【アズマヒキガエル（ヒキガエル属）】 日本固有種（亜種）で、本州（東北部）に分布します。 3～5月に水溜まり、溝、湿地、池などの止水に、4,500個程度の卵を長いひも状の卵塊として産みます。幼生は6月頃に変態し、極めて速く成長します。変態直後は微小な昆虫、成体はミミズ、地表性甲虫、アリ、サワガニなどを食べます。 【ニホンヒキガエル（ヒキガエル属）】 日本固有種（亜種）で、本州（西南部）、四国、九州に分布します。 繁殖生態はアズマヒキガエルの場合と基本的に同じで、2～4月に山道の水溜まり、湿地、池などの止水で繁殖し、雄は激しく雌を奪い合います。長いひも状の卵塊として7,000個程度の卵を産みます。その後の生活史もアズマヒキガエルの場合と基本的に同じです。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（早春季10,000個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-31 (4) 重要な両生類の予測結果（タゴガエル）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州に分布します。 小型は 3～4 月、大型は 5 月に、小溪流の縁にある岩の隙間や、湿地帯の地下にある伏流水中で繁殖し、雄は巣穴の中で「グッグッ…」と鳴き、見つけるのは困難です。それぞれ約 53 個、約 140 個を含む球形の卵塊を産みます。卵は大きく卵黄に富み、幼生は卵黄を消費するだけで変態できます。7 月頃変態して林床で生活し、水中で冬眠します。			
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林において 1 箇所を確認されました。		
	確認時期	R1 秋季		
	確認位置	対象道路内	—	
対象道路周辺		・B ブロック：1 箇所（秋季 1 個体）		
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林			
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C

表 11-7-31(5) 重要な両生類の予測結果（ニホンアカガエル）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州、隠岐、大隅諸島に分布します。 平地ないし丘陵地性で、山地には少ない種です。産卵は 1～3 月に水の残った水田、湿原、湿地の水溜まりなど、浅い止水で行われます。雄は鳴嚢を持ちませんが、「キョッキョッキョッ…」と鳴きます。卵塊は球形で、卵数は 1,000 個程度です。幼生は藻類や動物の死体などを食べ、5～6 月に変態します。成体や幼体は水辺から離れた林床や草地で生活し、比較的小さな昆虫やクモなどを捕食します。成体は水底で越冬することが多いです。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において 8 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：6 箇所（早春季 522 個体、夏季 2 個体） ・Bブロック：2 箇所（早春季 1,000 個体、春季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-31 (6) 重要な両生類の予測結果（ヤマアカガエル）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州に分布します。 主に丘陵地から山地に生息し、3～4月に水の残った水田、湿原、湿地、道路の水溜まりなど、浅い止水で繁殖します。雄は「キャララ…」と鳴きます。卵塊は球を押しつぶしたような形で、卵数は1,300個程度です。幼生は6～7月に変態します。水中で越冬することが多いです。小昆虫、ミミズやナメクジなどの地表徘徊性の小さな無脊椎動物を捕食します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域等において14箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：6箇所（早春季16,500個体、春季2個体） ・Bブロック：8箇所（早春季13,820個体、夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-31 (7) 重要な両生類の予測結果（アカガエル属）

分布・一般生態	【ニホンアカガエル（アカガエル属）】 日本固有種で、本州、四国、九州、隠岐、大隅諸島に分布します。 平地ないし丘陵地性で、山地には少ない種です。産卵は 1～3 月に水の残った水田、湿原、湿地の水溜まりなど、浅い止水で行われます。雄は鳴嚢を持ちませんが、「キョッキョッキョッ…」と鳴きます。卵塊は球形で、卵数は 1,000 個程度です。幼生は藻類や動物の死体などを食べ、5～6 月に変態します。成体や幼体は水辺から離れた林床や草地で生活し、比較的小さな昆虫やクモなどを捕食します。成体は水底で越冬することが多いです。 【ヤマアカガエル（アカガエル属）】 日本固有種で、本州、四国、九州に分布します。 主に丘陵地から山地に生息し、3～4 月に水の残った水田、湿原、湿地、道路の水溜まりなど、浅い止水で繁殖します。雄は「キャララ…」と鳴きます。卵塊は球を押しつぶしたような形で、卵数は 1,300 個程度です。幼生は 6～7 月に変態します。水中で越冬することが多いです。小昆虫、ミミズやナメクジなどの地表徘徊性の小さな無脊椎動物を捕食します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域等において 8 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 早春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：5 箇所（早春季 22 個体） ・Bブロック：3 箇所（早春季 12 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-31 (8) 重要な両生類の予測結果（トノサマガエル）

分布・一般生態	国内では、本州（仙台平野、福島県、関東地方を除く）、四国、九州に分布します。 低地から丘陵地にかけて広く見られます。4～6月に1回、水田、溝、池などの浅い止水で繁殖し、1,800～3,000個の卵塊を水底に産みます。幼生は6月下旬～9月に変態、上陸し、クモ、昆虫、ムカデなどの他に、カエルをも捕食します。非繁殖期は水田などの周辺の森林や草地で生活し、土中で冬眠します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域、二次林等において31箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Cブロック：1箇所（春季2個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：4箇所（夏季4個体） ・Bブロック：7箇所（秋季1個体、夏季6個体） ・Cブロック：8箇所（春季11個体、夏季2個体） ・Dブロック：7箇所（春季10個体、夏季2個体） ・Eブロック：4箇所（春季9個体、夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-31 (9) 重要な両生類の予測結果（ナゴヤダルマガエル）

分布・一般生態	日本固有種（亜種）で、東海、近畿、山陽、四国の瀬戸内海沿岸に分布します。 主に低地（標高 300m 以下）の湿地や水田に生息します。成体や幼体は産卵場附近の草地、湿地などで生活していて、水辺から遠くには離れません。4～7 月が産卵期で、水田や湿地などで、この間に 2 回行われることが多いです。雄は両頬にある鳴嚢によって「ゲーゲー…」と鳴きます。孵化した幼生は数カ月間、藻類や動物の死体などを食べ水中生活を送り、変態して上陸した後は昆虫、クモなどを捕食します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において 36 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Cブロック：3 箇所（秋季 1 個体、春季 4 個体） ・Dブロック：1 箇所（春季 1 個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：1 箇所（秋季 1 個体） ・Cブロック：21 箇所（秋季 1 個体、春季 20 個体、夏季 9 個体） ・Dブロック：10 箇所（春季 40 個体、夏季 3 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路の明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-31(10) 重要な両生類の予測結果（ツチガエル）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州に分布します。 5～7月に水田、池、沼、用水路、沢、河川のゆるやかな流れで繁殖し、雌の一部は複数回産卵します。卵は10～70個の小さな卵塊として、水草の茎などに産み付けられます。越冬して翌年5～8月に変態する幼生もいます。変態後はアリ、クモ、昆虫などの小動物を捕食します。繁殖期、非繁殖期ともに産卵場所付近で生活します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、市街地等において44箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Cブロック：2箇所（秋季1個体、夏季1個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（春季10個体） ・Bブロック：4箇所（秋季1個体、春季2個体、夏季1個体） ・Cブロック：21箇所（秋季12個体、春季18個体、夏季4個体） ・Dブロック：2箇所（春季11個体） ・Eブロック：14箇所（秋季7個体、春季19個体、夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-31(11) 重要な両生類の予測結果（ヌマガエル）

分布・一般生態	国内では、本州（東海以西：関東の一部に移入）、四国、九州、五島、奄美諸島、沖縄諸島に分布します。 低地の湿地や水田に生息し、産卵場付近の草地で生活します。雄は鳴嚢をもち、「キャキャキャ…」と鳴きます。産卵期は5～8月に及び、卵塊を少しずつ水田や湿地、水溜まりなどに産み付けます。幼生は雑食で、数カ月間水中生活を送った後変態して上陸し、昆虫、クモ、ミミズなどを捕食します。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において10箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 春季、R2 夏季		
	確認位置	対象道路内	－	
対象道路周辺		・Cブロック：1箇所（春季1個体） ・Eブロック：9箇所（春季13個体、夏季3個体）		
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水辺植生			
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C

表 11-7-31 (12) 重要な両生類の予測結果（シュレーゲルアオガエル）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州に分布します。 3～5 月に水田の畦や湿地の地面で繁殖し、雄は浅く掘った穴や草の根ぎわで、「リリリ…」と美しい声で鳴きます。雌は穴や窪みの中に 300 個程の卵をクリーム色の泡状卵塊として産み出します。幼生はくずれた卵塊とともに近くの水中に流れ出てそこで生活し、6～7 月に変態します。変態後は草や低木の上で生活し、昆虫やクモなどを捕食します。冬眠は浅い土中でなされます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において 36 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 早春季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：18 箇所（秋季 1 個体、早春季 27 個体、春季 54 個体、夏季 1 個体） ・Bブロック：8 箇所（早春季 3 個体、春季 54 個体） ・Eブロック：10 箇所（早春季 12 個体、春季 32 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-31(13) 重要な両生類の予測結果（モリアオガエル）

分布・一般生態	日本固有種で、本州（茨城県を除く）に分布します。 4～7月に池、沼、水田などの周辺で繁殖し、300～800個の卵を含む泡状の塊を木の枝や草の根ぎわに産卵します。幼生は7～9月に変態、上陸しますが、晩秋にも未変態の個体が見られることがあります。変態後はもっぱら樹上で生活し、クモ、双翅類昆虫などを捕食します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域、二次林等において7箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（春季10個体） ・Bブロック：4箇所（春季12個体、夏季1個体） ・Eブロック：2箇所（春季4個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

④ 爬虫類

重要な爬虫類の予測結果は、表 11-7-32 に示すとおりです。

表 11-7-32(1) 重要な爬虫類の予測結果（ニホンイシガメ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、佐渡、四国、九州、五島、種子島に分布します。 河川、湖沼、水田、水路などに生息します。水辺に生息していることが多いですが、陸上をかなりの距離移動することがあります。雑食性で、魚類、甲殻類、ミミズ、水生植物などを食べます。秋から春にかけて水中で交尾し、5～8月頃、地中に1～12個の卵を産卵します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域と、低地・台地の田園域等において21箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 早春季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：4箇所（秋季5個体、春季2個体） ・Bブロック：4箇所（春季3個体、夏季1個体） ・Cブロック：7箇所（秋季3個体、早春季1個体、春季7個体） ・Dブロック：3箇所（秋季1個体、春季2個体） ・Eブロック：3箇所（早春季1個体、春季5個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-32 (2) 重要な爬虫類の予測結果（ニホンスッポン）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 流れの緩やかな河川中・下流域の泥底や湖沼に生息し、魚類、甲殻類、カワニナなどを食べます。4～5月に水中で交尾し、雌は5～8月に陸上の砂地に穴を掘り、一度に10～20個の卵を産みます。卵はネコやイタチ、カラスに掘り起こされ捕食されます。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生等において12箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Eブロック：1箇所（夏季1個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季6個体） ・Cブロック：5箇所（春季16個体） ・Dブロック：4箇所（春季4個体） ・Eブロック：1箇所（冬季1個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路の明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-32 (3) 重要な爬虫類の予測結果（ニホントカゲ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州西部、四国、九州、隠岐、五島、大隅諸島に分布します。 低地から山地のさまざまな環境に生息し、昆虫、クモ、ミミズなどを捕食します。 4～5月にかけて交尾し、6月頃、地中に5～16個の卵を産みます。雌は孵化するまでの間卵の世話をします。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、植林と、市街地において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：3箇所（春季2個体、夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生／市街地他		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地、市街地他が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地、市街地他が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-32(4) 重要な爬虫類の予測結果（トカゲ属）

分布・一般生態	【ニホントカゲ（トカゲ属）】 日本固有種で、本州西部、四国、九州、隠岐、五島、大隅諸島に分布します。 低地から山地のさまざまな環境に生息し、昆虫、クモ、ミミズなどを捕食します。4～5月にかけて交尾し、6月頃、地中に5～16個の卵を産みます。雌は孵化するまでの間卵の世話をします。 【ヒガシニホントカゲ（トカゲ属）】 国内では、北海道、本州東部、佐渡に分布します。 低地から山地の森林、林縁、草地、荒地、人家の庭などさまざまな環境に生息し、繁殖生態、食性もニホントカゲと大差はないと考えられます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と、低地・台地の二次林、田園域において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2箇所（春季2個体） ・Eブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生／市街地他		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地、市街地他が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地、市街地他が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-32(5) 重要な爬虫類の予測結果（シロマダラ）

分布・一般生態	日本固有種で、北海道、本州、四国、九州及び周辺の島嶼に分布します。石垣の中や、瓦礫の間などで生活し、夜行性で、トカゲ、カナヘビを捕食します。6月下旬に9個程度を産卵します。樹皮下や木の根の間などで冬眠すると言われています。		
予測地域における確認状況	確認状況	1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-32(6) 重要な爬虫類の予測結果（ヒバカリ）

分布・一般生態	日本固有亜種で、本州、四国、九州、佐渡、隠岐、壱岐、五島列島、大隅諸島に分布します。 低地から山地の水辺に生息します。夕方や曇りの日に特によく活動しますが、小型で物陰に潜んでいる事が多いため、人目に触れる機会は少ないです。水によく入ってカエルやオタマジャクシ、小魚、ミミズなどを好食します。5～6月にかけて交尾し、6～8月にコケや草の中に2～10卵を産卵します。他のヘビよりも乾燥に弱いです。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域等において5箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季1個体） ・Cブロック：3箇所（春季2個体、夏季2個体） ・Dブロック：1箇所（秋季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-32 (7) 重要な爬虫類の予測結果（ニホンマムシ）

分布・一般生態	日本固有種で、北海道、本州、四国、九州と属島に分布します。 山林や周辺の田畑・水辺や湿地に生息し、特に山地のガレ場、田畑の畦や草むらに多く、カエル、ネズミ、トカゲなどを捕食します。夜行性ですが、日中に日光浴する姿を見かけることがあります。交尾期は 8～9 月、卵胎生で、翌年 8～10 月に幼体を 2～13 匹産みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	台地・低地の田園域等において 2 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Cブロック：1 箇所（夏季 2 個体） ・Eブロック：1 箇所（春季 3 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、対象道路は、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分をトンネル構造で通過するとともに、明かり部の大部分及び河川域は橋梁構造又は盛土構造（暗渠）による横断により連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

⑤ 魚類

重要な魚類の予測結果は、表 11-7-33 に示すとおりです。

表 11-7-33(1) 重要な魚類の予測結果（スナヤツメ類）

分布・一般生態	【スナヤツメ北方種（スナヤツメ類）】 国内では、北海道から滋賀県以北の本州に分布します。 主に湧水域が存在する河川や水路に生息します。 【スナヤツメ南方種（スナヤツメ類）】 国内では、山形県以南の本州、四国、九州に分布します。 主に湧水や伏流水の存在する河川や水路に生息します。 【共通】 幼生は緩やかな流れの泥底で、泥中の有機物や珪藻類を食べて 3～4 年過ごします。秋に成体に変態した後は摂食せず、翌春から初夏にかけて砂礫底に産卵します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(2) 重要な魚類の予測結果（フナ属）

分布・一般生態	【ニゴロブナ（フナ属）】 琵琶湖水系固有亜種で、琵琶湖水系に分布します。 秋から冬にかけて琵琶湖沖合の深湖付近に生息し、4～6月には沿岸の内湖などのヨシ群落内や水田・クリークにやって来て産卵します。稚魚は孵化後 20～30 日頃までは水田やヨシ群落内で過ごし、それ以降は沖合での生活に移行します。 【ギンブナ（フナ属）】 国内では、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 琵琶湖、内湖、河川に生息します。産卵期は3月中旬～7月で、この時期に琵琶湖湖岸の植生帯、内湖、水田地帯、河川の氾濫原で産卵します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域と、山地・丘陵地の田園域において 6 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-1：1 箇所（夏季 38 個体） ・Wp-6：2 箇所（夏季 5 個体） ・Wp-8：1 箇所（秋季 2 個体） ・Wp-9：1 箇所（夏季 2 個体） ・Wp-10：1 箇所（夏季 2 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(3) 重要な魚類の予測結果（ヤリタナゴ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州（南九州を除く）に分布します。 河川や水路に生息します。繁殖期は 5～8 月で、イシガイ科に属す二枚貝の鰓葉内に卵を産み込みます。地域により体色の色彩変異が認められます。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-8：1 箇所（秋季 1 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(4) 重要な魚類の予測結果（アブラボテ）

分布・一般生態	国内では、本州（濃尾平野以西）、淡路島、四国、九州に広く分布します。 滋賀県では湧水を起源とする小川やため池などに生息します。産卵期は 3～7 月で、イシガイ科に属す二枚貝の鰓葉内に卵を産み付けます。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において 10 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-8：4 箇所（秋季 31 個体、夏季 7 個体） ・Wp-9：3 箇所（秋季 2 個体、夏季 1 個体） ・Wp-10：3 箇所（秋季 5 個体、夏季 2 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(5) 重要な魚類の予測結果（ハス）

分布・一般生態	琵琶湖産アユ苗の放流とともに全国に広がり、現在北海道を除く各地の河川や湖沼で確認されています。 日本産コイ科魚類の中では唯一の魚食性で、アユやヨシノボリなどを捕食します。琵琶湖の砂礫底沿岸や沖合で2～3年を過ごし、5月下旬～8月中旬に成魚は産卵のため湖岸に接岸又は流入河川に遡上し、流れの緩やかな砂底又は砂礫底で産卵します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-6：1箇所（夏季2個体）
本種の主な生息環境	河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-33(6) 重要な魚類の予測結果（ヌマムツ）

分布・一般生態	国内では、本州中部地方以西から瀬戸内海沿岸、九州北部に分布します。 詳しい生態は不明ですが、カワムツと類似した生活史を持っていると考えられます。カワムツと共存する河川ではより下流側に分布しますが、混棲する場合もあります。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域と、山地・丘陵地の田園域において 6 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-4 : 1 箇所（夏季 4 個体） ・ Wp-8 : 3 箇所（秋季 5 個体、夏季 3 個体） ・ Wp-9 : 1 箇所（秋季 4 個体） ・ Wp-10 : 1 箇所（夏季 2 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(7) 重要な魚類の予測結果（アブラハヤ）

分布・一般生態	国内では、本州（青森～福井県の日本海側、青森～岡山の太平洋側）に分布します。 河川の中上流部や山間部の池沼に生息します。雑食性で、流下する水生昆虫、底生動物や付着藻類を食べます。タカハヤと共存する川では、一般に本種が下流側に生息しますが、混棲している場合もあります。湧水のある河川では、下流部にも生息します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において 14 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-5：7 箇所（秋季 161 個体、夏季 80 個体） ・ Wp-6：2 箇所（秋季 4 個体、夏季 4 個体） ・ Wp-7：2 箇所（夏季 12 個体） ・ Wp-8：1 箇所（秋季 2 個体） ・ Wp-12：2 箇所（夏季 4 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(8) 重要な魚類の予測結果（タカハヤ）

分布・一般生態	国内では、本州（富山県以西の日本海側、静岡県以西の太平洋側）、四国、九州に分布します。 河川の中上流部や山間部の池沼に生息します。雑食性で、流下する水生昆虫、底生動物や付着藻類を食べます。アブラハヤやカワムツより上流域に生息し、イワナやアマゴの生息域にもすみまます。ただし、アブラハヤと共存する河川では、混棲している場所もあります。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において2箇所で確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-5：2箇所（夏季10個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(9) 重要な魚類の予測結果（モツゴ）

分布・一般生態	国内では、本州（関東以西）、四国、九州に分布します。 比較的大きな河川から農業水路、池沼など多様な環境に生息し、特に泥底の淀みを好みます。水質の悪化に強く、長年放棄されたため池や淀んだ水路、都市部の水域環境にあつては、本種のみが生存することも少なくありません。湖東や湖南地域に多く点在するため池には、本種のみが繁殖している場所も見られます。コンクリート護岸の池や学校のプールなどでも繁殖します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、河川の水域、水辺植生において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-9：1箇所（秋季1個体） ・Wp-11：1箇所（夏季15個体） ・Wp-13：1箇所（夏季3個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(10) 重要な魚類の予測結果（ビワヒガイ）

分布・一般生態	琵琶湖水系固有亜種で、琵琶湖を中心として流入河川下流部、瀬田川に多く分布します。 水底付近を泳ぎながら小動物、小型巻貝類、付着藻類などを食べます。外来種ブルーギルの産卵期には産卵床に群れで近づき卵を捕食します。産卵期は4～6月で、雌は2～3 cmの産卵管を伸長させ、イシガイ科二枚貝の外套腔内に卵を産み込みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-6：1箇所（秋季3個体）
本種の主な生息環境	河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(11) 重要な魚類の予測結果（ムギツク）

分布・一般生態	国内では、福井県、滋賀県、三重県以西の本州、四国（香川県、徳島県）、九州北部に分布します。 比較的大きな河川の中・下流域やこれに連絡する農業水路などに生息し、淵や平瀬の岩の隙間や沈水植物群落の中などにすみす。雑食性です。産卵期は 5～6 月で、ギギやドンコなどの基質産卵型の営巣習性のある魚種が生息する河川では、これらに托卵します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において 4 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-7：2 箇所（夏季 23 個体） ・ Wp-8：1 箇所（夏季 2 個体） ・ Wp-9：1 箇所（夏季 3 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(12) 重要な魚類の予測結果（ホンモロコ）

分布・一般生態	琵琶湖水系固有種で、秋から冬にかけて琵琶湖沖合の深湖底付近に生息します。産卵期の 3～7 月には湖岸にやって来て水草や波打ち際のヨシやヤナギの根等に産卵します。稚魚は 8 月頃までは沿岸で過ごし、それ以降はしだいに沖合での生活に移行します。比較的強い産卵回帰が認められます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-11 : 1 箇所（夏季 1 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(13) 重要な魚類の予測結果（スゴモロコ類）

分布・一般生態	【スゴモロコ（スゴモロコ類）】 琵琶湖水系固有亜種で、琵琶湖と一部の内湖に分布します。 琵琶湖では、水深 10～40m の砂底、砂泥底などの底近くに群をなして遊泳します。産卵期は 5～8 月で、卵には粘着性があります。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-11 : 1 箇所（夏季 1 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(14) 重要な魚類の予測結果（ドジョウ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 平野部の水田周辺の流れが緩やかな水路や河川、浅い池沼、水田などの泥底部、砂泥底部に生息します。また川筋に沿って水田があれば中山間地域にも生息しますが、密度は低です。泥中の有機物や底生生物を食べ、冬は泥に潜って冬眠します。産卵期は春～夏で、水田などに遡上し産卵します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域と、河川の水辺植生等において5箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-2：1箇所（夏季9個体） ・Wp-3：1箇所（夏季11個体） ・Wp-7：1箇所（夏季1個体） ・Wp-10：1箇所（夏季3個体） ・Wp-13：1箇所（夏季11個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(15) 重要な魚類の予測結果（シマドジョウ種群）

分布・一般生態	【オオシマドジョウ（シマドジョウ種群）】 国内では、本州、四国の瀬戸内海流入河川、本州の日本海側流入河川の一部、九州の一部に分布します。 【ニシシマドジョウ（シマドジョウ種群）】 国内では、中部地方以西の本州に分布します。シマドジョウ種群は県内河川の中下流部や水路に広く分布しますが、ニシシマドジョウとオオシマドジョウの分布の重複などの詳細は不明です。 【共通】 河川上流域下部から下流域の砂又は砂礫底にすみ、小動物やデトリタスを食べます。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において8箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-5：4箇所（秋季12個体、夏季30個体） ・Wp-6：2箇所（秋季3個体、夏季5個体） ・Wp-12：2箇所（秋季6個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-33(16) 重要な魚類の予測結果（アジメドジョウ）

分布・一般生態	国内では、本州（中部地方、近畿地方）に分布します。 河川の上・中流域の水の清冽な早瀬の礫底にすみ、石の上に生える付着藻類を食べます。秋になると、河川内の伏流水中に潜入して越冬します。翌年 5～6 月になると稚魚が出現することから、越冬期間中に伏流水中において産卵すると推定されています		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-6：1 箇所（秋季 1 個体）
本種の主な生息環境	河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(17) 重要な魚類の予測結果（ホトケドジョウ）

分布・一般生態	国内では、本州（青森県と中国地方西部を除く）、四国（東部）に分布します。 中山間部の水路や水田地帯、小さな溜め池や湿地といったいわゆる里山的環境が主とした生息地となっています。また、特に湧き水を起源とする水域に多く、琵琶湖沿岸の水路にも生息することがあります。他のドジョウ類と異なり、植生が多い環境を好み、中層を遊泳することが多いです。高水温に弱く、飼育下では30℃を超えると死亡する率が上がります。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-2：1箇所（夏季12個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-33(18) 重要な魚類の予測結果（ギギ）

分布・一般生態	日本固有種で、淀川水系以西の本州、四国（吉野川、仁淀川）に分布します。 日中は石垣の間や水草地帯に潜み、夜間や増水時にエビ類や水生昆虫類、小魚などを食べます。産卵期は 5～8 月で、雄が石の下やその隙間に雌を誘い込んで産卵します。本種の卵は産卵巣内にある木やヨシの根に産みつけられます。雄親は巢内で卵や仔稚魚を保護します。コイ科のムギツクは、本種の巢に托卵を行います。一方で、ギギも繁殖親やふ化後の稚魚がムギツクの産着卵を捕食します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において 4 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-7：1 箇所（夏季 1 個体） ・ Wp-8：1 箇所（夏季 2 個体） ・ Wp-9：1 箇所（夏季 1 個体） ・ Wp-10：1 箇所（夏季 1 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-33(19) 重要な魚類の予測結果（ナマズ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 岸辺の水草地帯や石垣の中に潜み、夜間に泳ぎ出て小魚、エビ類を食べます。産卵期は4月下旬～8月下旬で、降雨後の夜間に湖岸の水草地帯や水田、小溝などの一時的水域に入り込んで産卵します。かつては水田や小溝などが本種の繁殖場として重要な役割を果たしていました。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-8：1箇所（秋季1個体） ・Wp-12：1箇所（秋季1個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(20) 重要な魚類の予測結果（アカザ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州（宮城県、秋田県以南）、九州に分布します。 河川上・中流域の浮き石の多い場所に生息します。夜間に石の隙間を伝うようにして泳ぎまわり、水生昆虫などの底生動物を捕食します。産卵期は5～6月で、卵を瀬の石の下にゼリー状の物質で包まれた塊として産みつけます。産卵後は雄親が保護を行います。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において2箇所で確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-6：2箇所（秋季2個体、夏季3個体）
本種の主な生息環境	河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(21) 重要な魚類の予測結果（アユ）

分布・一般生態	国内では、天塩川から屋久島まで分布します。 河川の上・中流域や清澄な湖やダム湖に生息します。仔稚魚はシラスと呼ばれ、円錐歯を備えた動物プランクトン食性ですが、変態すると櫛状歯に変わり付着藻類食性となってなわばりを持ちはじめます。アユの寿命は1年で、秋に生まれた仔稚魚は海まで流された後越冬し、翌春再び母川へ遡上し、これは両側回遊と呼ばれます。卵を覆っていた付着膜が杯状に反転することで砂礫に産みつけられます。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において17箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Wp-5：1箇所（夏季11個体） ・Wp-8：1箇所（夏季16個体）
		対象道路周辺	・Wp-5：2箇所（秋季1個体、夏季11個体） ・Wp-6：3箇所（夏季370個体） ・Wp-7：2箇所（夏季26個体） ・Wp-8：1箇所（夏季10個体） ・Wp-9：3箇所（夏季137個体） ・Wp-10：2箇所（夏季13個体） ・Wp-12：2箇所（夏季36個体）
本種の主な生息環境	河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(22) 重要な魚類の予測結果（ビワマス）

分布・一般生態	琵琶湖水系固有亜種で、琵琶湖と琵琶湖の北湖の流入河川に分布します。 稚魚は体長 7 cm 頃まで河川で生活し、6 月頃に雨による増水に乗ってほとんどの個体が琵琶湖へ降下します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において 8 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-5 : 4 箇所（秋季 5 個体、夏季 1 個体） ・ Wp-6 : 1 箇所（秋季 1 個体） ・ Wp-7 : 1 箇所（秋季 1 個体） ・ Wp-8 : 1 箇所（秋季 1 個体） ・ Wp-9 : 1 箇所（秋季 1 個体）
本種の主な生息環境	河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-33(23) 重要な魚類の予測結果（ミナミメダカ）

分布・一般生態	日本固有種で、岩手県以南の本州太平洋側、京都府以西、四国、九州、琉球列島に分布します。 平野部の池沼、流れの緩やかな水路、水田などの水面に群れ、動物プランクトンや小型の落下昆虫などを食べます。産卵期は4月中旬～8月で、雌は受精卵を腹に付けたまま泳いだ後、水草などに産みつけます。5～6月に生まれた個体の一部は、夏の終わりまでに成熟しますが、多くは翌春に成熟し産卵後に死亡します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-7：1箇所（夏季3個体） ・Wp-9：1箇所（夏季1個体） ・Wp-10：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(24) 重要な魚類の予測結果（カジカ）

分布・一般生態	国内では、本州、九州に分布します。 河川の上・中流域で河床に中礫、小礫の多い場所に生息しています。産卵期は 2～5 月で、雄が大型の石の下に巣をかまえ雌を誘って石の底面に産卵させます。雄は卵が孵化するまで保護を行います。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において 3 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-5 : 3 箇所（秋季 6 個体、夏季 12 個体）
本種の主な生息環境	河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(25) 重要な魚類の予測結果（ドンコ）

分布・一般生態	国内では、富山県・愛知県以西の本州、四国、九州に分布します。 河川の上流域下部から下流域まで、広い範囲に生息します。昼は石の下や水生植物の陰などに潜んでいますが、夜間に出てきて、底生動物や魚類を食べます。産卵期は 4～7 月で、雄が石の下などに産卵室をつくり卵を守ります。孵化した仔魚たちはただちに底生生活をします。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において 20 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-5：1 箇所（秋季 1 個体） ・ Wp-6：2 箇所（秋季 1 個体、夏季 1 個体） ・ Wp-7：3 箇所（秋季 2 個体、夏季 3 個体） ・ Wp-8：5 箇所（秋季 24 個体、夏季 18 個体） ・ Wp-9：3 箇所（秋季 6 個体、夏季 3 個体） ・ Wp-10：6 箇所（秋季 20 個体、夏季 10 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-33(26) 重要な魚類の予測結果（シマヒレヨシノボリ）

分布・一般生態	和歌山県北部から広島県及び徳島県から愛媛県の瀬戸内海側に分布します。 陸封型のヨシノボリで、河川下流域やワンド、また池沼や水路などの流れの緩やかな場所に生息し、比較的泥底を好みます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-11:1 箇所（夏季7個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 さらに、河川等の水域は、橋梁構造による横断、カルバート等の設置又は河川・水路の付け替えにより連続性が確保されることから、移動経路は確保されるものと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

⑥ 昆虫類

重要な昆虫類の予測結果は、表 11-7-34 に示すとおりです。

表 11-7-34(1) 重要な昆虫類の予測結果（モートンイトトンボ）

分布・一般生態	国内では、北海道（南部）、本州、四国、九州に分布します。 主に丘陵地や山麓の背丈の低い植生がある湧水湿地や山際の休耕田、水田周縁の溝などに生息します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において 2 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・A ブロック：2 箇所（春季 10 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (2) 重要な昆虫類の予測結果（タベサナエ）

分布・一般生態	国内では、本州（中部以西）、四国、九州に分布します。 丘陵地や山麓の樹林に囲まれた、池沼や湿地・緩やかな水路に生息します。2 年 1 世代で、成虫は 4～6 月に出現します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域と、低地・台地の植林において 10 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ A ブロック：1 箇所（春季 1 個体） ・ B ブロック：1 箇所（春季 1 個体） ・ Wp-1：2 箇所（冬季 2 個体、夏季 3 個体） ・ Wp-2：2 箇所（冬季 3 個体、夏季 6 個体） ・ Wp-3：2 箇所（冬季 1 個体、夏季 1 個体） ・ Wp-4：2 箇所（冬季 1 個体、夏季 3 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (3) 重要な昆虫類の予測結果（フタスジサナエ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州（中部以西）、四国、九州に分布します。 2年1世代で、成虫は4～6月頃に出現します。主に平地から丘陵地にかけての古い池沼に見られ、同属のオグマサナエと共存することもあります。本種の方が山側に分布する傾向があります。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において5箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（春季1個体） ・Wp-1：1箇所（冬季1個体） ・Wp-2：1箇所（冬季3個体） ・Wp-3：1箇所（冬季7個体） ・Wp-4：1箇所（夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (4) 重要な昆虫類の予測結果（ナツアカネ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、種子島、奄美大島に分布します。 平地から低山地の岸辺に草原のある池沼、水田、湿地に生息します。1 年 1 世代で、水田における初夏の羽化時期はアキアカネより遅いことが多いです。夏は低山地の樹林内などで過ごし、秋に雌雄が連結して水田で打空産卵する姿が確認されます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域、二次林等において 14 箇所で確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R3 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：3 箇所（R3 秋季 4 個体） ・Bブロック：6 箇所（R1 秋季 1 個体、R3 秋季 8 個体） ・Dブロック：4 箇所（R1 秋季 3 個体、R3 秋季 7 個体） ・Eブロック：1 箇所（R1 秋季 3 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (5) 重要な昆虫類の予測結果（カワラバッタ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州に分布します。 生息環境は比較的大きな河川の中流域で、洪水で生じるような礫や岩の多い場所に限って見られます。成虫は7～10月に現れます。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において4箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Dブロック：4箇所（秋季2個体、春季1個体、夏季3個体）
本種の主な生息環境	河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (6) 重要な昆虫類の予測結果（ハルゼミ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 平地から低山地のアカマツ林に4月下旬から6月上旬に発生し、「ギーギーギー」とも「ムゼームゼー」ともとれる鳴き声で鳴きます。1匹の雄が鳴き出すと、つられて周辺の雌が鳴き出す合唱性があります。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、植林等において4箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：2箇所（春季2個体） ・Bブロック：2箇所（春季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34(7) 重要な昆虫類の予測結果（エノキカイガラキジラミ）

分布・一般生態	国内では、本州（栃木～島根）と九州に分布します。 丘陵地から低山地に生息します。エノキに寄生し、幼虫は葉裏で白い貝殻状の分泌膜の中で吸汁し、葉表にはツノ状の虫えいが形成されます。年2化で、夏型は6月上旬～7月上旬に、秋型は10月下旬～11月下旬に現れます。秋型では、葉表に虫えいが形成されません。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域、植林において5箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Dブロック：1箇所（夏季1個体） ・Eブロック：1箇所（春季1個体）
		対象道路周辺	・Dブロック：2箇所（春季1個体、夏季1個体） ・Eブロック：1箇所（春季2個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の二次林／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の二次林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の二次林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34(8) 重要な昆虫類の予測結果（ハラグロコムズムシ）

分布・一般生態	国内では、北海道、利尻島、本州、淡路島、四国、九州、対馬、琉球列島に分布します。 平地から山地の池沼や水田に生息します。水温の低い場所を好むとされ、北日本の高層湿原などに多産します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：3箇所（春季3個体、夏季5個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (9) 重要な昆虫類の予測結果（コオイムシ）

分布・一般生態	国内では、本州から九州に分布します。 水深の浅い開放的な止水域に生息し、オタマジャクシ、小魚、ヤゴ、巻貝などを捕食します。雄が背中で卵塊を保護する有名な昆虫です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、河川の水域等において 35 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Dブロック：1 箇所（秋季 1 個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：4 箇所（秋季 3 個体、春季 2 個体、夏季 4 個体） ・Bブロック：2 箇所（秋季 1 個体、夏季 1 個体） ・Cブロック：12 箇所（秋季 7 個体、夏季 49 個体） ・Dブロック：7 箇所（秋季 26 個体） ・Eブロック：2 箇所（秋季 3 個体、夏季 1 個体） ・Wp-7：1 箇所（夏季 3 個体） ・Wp-8：1 箇所（夏季 3 個体） ・Wp-10：1 箇所（夏季 1 個体） ・Wp-12：3 箇所（冬季 2 個体、夏季 4 個体） ・Wp-13：1 箇所（夏季 2 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (10) 重要な昆虫類の予測結果（カクレクロスジヘビトンボ）

分布・一般生態	国内では、福井県、滋賀県に分布します。 里山の小川や水路に幼虫が生息し、6月頃に生成虫が羽化します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、山地・丘陵地の二次林等において8箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R4 初夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：8箇所（R2 春季1個体、R4 初夏季12個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34(11) 重要な昆虫類の予測結果（ミドリシジミ）

分布・一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布します。全国的に分布は広いですが、西南部の暖地では局所的です。 ハンノキのある田園の周辺や山裾にある湿地やハンノキ・ヤマハンノキのある山地で発生します。成虫は年1回、6月中下旬に発生します。卵は食樹の枝や幹にかためて産卵することが多く、卵で越冬し、4月に孵化した幼虫はハンノキの新芽を食べます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、田園域／低地・台地の二次林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、田園域、低地・台地の二次林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、田園域、低地・台地の二次林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (12) 重要な昆虫類の予測結果（ジャコウアゲハ本土亜種）

分布・一般生態	青森県より鹿児島県に至る全土に分布し、対馬北部、種子島、屋久島、奄美大島、徳之島、沖永良部島および沖縄各島嶼にも分布しますが、トカラ列島には分布しません。 河川の堤防や石垣のある草原など、食草ウマノスズクサが見られ、アザミ等の訪花植物も見られる日当たりの良い草地に生息します。墓地に見られることも多く、成虫は年2回、5～6月と7～8月に発生します。幼虫はウマノスズクサを食べます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34(13) 重要な昆虫類の予測結果（マドガ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、対馬に分布します。 幼虫の寄主はボタンヅル（キンポウゲ科）で、葉の一部に切れ込みをいれてその部分を丸く巻いて巣をつくって中にいて、葉を摂食します。成虫は本州では5～9月に現れ、昼間にも吸蜜行動をとります。詳細な調査報告はありませんが、年2化と推定されています。		
予測地域における確認状況	確認状況	市街地において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、草地／低地・台地の二次林、草地		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、低地・台地の二次林、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、低地・台地の二次林、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (14) 重要な昆虫類の予測結果（コキベリアオゴミムシ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 常に水分が供給されている湿地に限って生息しています。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、植林において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2箇所（春季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34(15) 重要な昆虫類の予測結果（シマゲンゴロウ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布します。 水田や休耕田、水生植物が豊富なため池などに生息し、肉食です。5～8月に水草の茎や葉の表面に産卵し、幼虫は2週程で岸辺で蛹化します。成虫は灯火に飛来し、上陸して越冬する様です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用するため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (16) 重要な昆虫類の予測結果（マルケシゲンゴロウ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、対馬、南西諸島に分布します。 植生の豊富な池沼・湿地・放棄水田などに生息します。全国的に生息地は局所的 です。成虫は6～9月に確認され、灯火に飛来します。		
予測地域における確 認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影 響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影 響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (17) 重要な昆虫類の予測結果（ヒメシマチビゲンゴロウ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国に分布します。 主に河川上流から中流域に生息し、河川敷の水たまりでも見られます。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：1箇所（秋季1個体） ・Wp-12：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域、水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域、水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (18) 重要な昆虫類の予測結果（ゴマダラチビゲンゴロウ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国に分布します。 水質の良い河川の石の多い所に見られます。県内の生息地では、本種は比較的流れの速い岸辺においてツルヨシの根際などから多数採集されることがあります。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において6箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：1箇所（秋季1個体） ・Wp-5：4箇所（冬季2個体、夏季7個体） ・Wp-6：1箇所（冬季3個体）
本種の主な生息環境	河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域、水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域、水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (19) 重要な昆虫類の予測結果（マダラコガシラミズムシ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 水生植物が豊富な池沼や水田に生息します。幼虫はシャジクモ科藻類を食べることが知られています。成虫は雑食性とされ、飼育下では動物質のものをよく食べます。本種の新成虫は羽化後翌年まで蛹室に留まることが確認されています。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、河川の水域において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Cブロック：1箇所（夏季1個体） ・Wp-12：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (20) 重要な昆虫類の予測結果（エグリゴミムシ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 平地や低山地の自然林下の朽木の下面など、アリの巣がある周辺で見つかっています。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (21) 重要な昆虫類の予測結果（スジヒラタガムシ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布します。 丘陵地や山間部のため池や水田、湿地に生息します。雌は腹部に卵を付着させて保護し、繁殖期も長く、生息地での個体数は多いです。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域と、低地・台地の田園域等において4箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：2箇所（秋季3個体、春季8個体） ・Bブロック：2箇所（秋季4個体、春季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34(22) 重要な昆虫類の予測結果（コガムシ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、対馬に分布します。 かつては平野部の水田に生息する代表的な水性甲虫であり、夏には多くの成虫が灯火に飛来していましたが、近年は減少傾向にあります。成虫は水草を食べ、幼虫は肉食性です。水田や河川敷の水たまりなど不安定な止水域で繁殖をしますが、ため池など安定した水域では繁殖しません。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域と、河川の水域において 27 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	・Dブロック：1 箇所（秋季 2 個体）
		対象道路周辺	・Aブロック：1 箇所（夏季 2 個体） ・Bブロック：3 箇所（秋季 2 個体、夏季 8 個体） ・Cブロック：11 箇所（秋季 2 個体、夏季 103 個体） ・Dブロック：4 箇所（秋季 13 個体） ・Eブロック：6 箇所（秋季 2 個体、春季 1 個体、夏季 4 個体） ・Wp-5：1 箇所（夏季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (23) 重要な昆虫類の予測結果（ガムシ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島に分布します。 植生の豊富な池沼、水田などに生息します。幼虫はモノアラガイなどの水生動物を捕食しますが、成虫は雑食性で、主に水生植物を食べます。外来種のアメリカザリガニの生息地では繁殖しません。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（秋季1個体） ・Cブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (24) 重要な昆虫類の予測結果（オオセンチコガネ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州、屋久島に分布します。 成虫・幼虫はシカやウシなど大型哺乳類の糞を食餌としています。雌成虫は地下約 20cm の縦穴内にシカの糞を運び入れ、そこからさらに 20 cm 程度の縦穴を掘り、幼虫の餌としてソーセージ状（直径 2.4cm、長さ 5cm）に整えた糞を運び入れ、底部に産卵します。飛翔スピードは速く、その様子は日光が当たる場所ではまるで光の弾丸のようです。体色に地理的な変異があります。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域と、低地・台地の二次林において 4 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1 箇所（春季 1 個体） ・Bブロック：3 箇所（春季 1 個体、夏季 2 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、草地／低地・台地の二次林、植林、草地		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (25) 重要な昆虫類の予測結果（コケシマグソコガネ）

分布・一般生態	国内では、本州に分布します。 春～夏期に芝地で見いだされることが多いです。飼育下では腐葉片や小昆虫の遺したものを食し、野外では河川岸においてギンギシの腐葉を食べているところが観察されています。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域、草地／低地・台地の田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (26) 重要な昆虫類の予測結果（セマルケシマグソコガネ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 海辺から中・下流域の河川敷の細かな粒度の砂地に生息し、灯火にも飛来します。 イネ科植物の根際から得られることが多いです。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（夏季6個体）
本種の主な生息環境	河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		

表 11-7-34 (27) 重要な昆虫類の予測結果（マクガタテントウ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州に分布します。 基本的には幼虫・成虫ともに動物食ですが、花にも集まります。主に河川敷で見つかることが多いですが、琵琶湖畔や空き地などの草地でも得られています。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において 14 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1 箇所（秋季 1 個体） ・Bブロック：4 箇所（夏季 6 個体） ・Dブロック：4 箇所（秋季 7 個体、春季 1 個体） ・Eブロック：5 箇所（秋季 18 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (28) 重要な昆虫類の予測結果（ムナグロチャイロテントウ）

分布・一般生態	国内では、本州に分布します。 琵琶湖のヨシ帯に生息し、アブラムシ類を捕食しています。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（秋季1個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (29) 重要な昆虫類の予測結果（トゲアリ）

分布・一般生態	国内では、本州から九州の日本本土に分布します。 広葉樹林を好み、山地の森林にも生息しますが、低山地の里山に特に多く見られます。小型の昆虫を狩ったり、アブラムシなどの甘露をおもな餌とします。社会寄生種で、脱翅雌がクロオオアリやムネアカオオアリの巣に侵入し、寄主の女王を殺し、自分が女王に成り代わり、自分の子供を寄主のアリに育てさせます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林、二次林等において7箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：4箇所（秋季1個体、春季40個体） ・Bブロック：3箇所（春季40個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (30) 重要な昆虫類の予測結果（ヤマトアシナガバチ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、南西諸島に広く分布します。 平地、低山地に生息し、草本の葉裏や樹木の細枝、時には人家の軒下、壁にも営巣します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林等において6箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：5箇所（秋季3個体、夏季2個体） ・Cブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34(31) 重要な昆虫類の予測結果（モンスズメバチ）

分布・一般生態	日本固有亜種で、北海道、本州、佐渡島、四国、九州まで広く分布します。 主にセミを狩り、樹洞、天井裏、壁間、戸袋などの閉鎖的な場所に営巣します。 他種と違い夜間にも活動する習性があります。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の植林等において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（春季1個体） ・Cブロック：1箇所（夏季1個体） ・Dブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34(32) 重要な昆虫類の予測結果（チャイロスズメバチ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州に分布します。 本種の女王は自力で巣をつくることはなく、近縁のモンスズメバチ <i>V. crabro</i> 又はキイロスズメバチ <i>V. simillima</i> の働きバチが羽化した巣に押し入って相手の女王だけを殺し、その働きバチに自分の産んだ卵を育てさせる、いわゆる労働寄生をします。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（春季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-34 (33) 重要な昆虫類の予測結果（アオスジクモバチ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州に分布します。 海岸から丘陵地帯の河川などの砂地に営巢し、イソコモリグモなど徘徊性クモ類を狩ります。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林において2箇所で確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Cブロック：1箇所（夏季1個体） ・Eブロック：1箇所（秋季1個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の草地／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

⑦ 底生動物

重要な底生動物の予測結果は、表 11-7-35 に示すとおりです。

表 11-7-35(1) 重要な底生動物の予測結果（マルタニシ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 水田では冬季を含む非灌漑期には水がなくなるため、泥中に潜って越冬します。食性は雑食で、泥の表面などの藻類を主に食べる他、水中の有機物なども利用すると考えられます。雌雄異体の卵胎生で、雌の胎児数はふつう 30～40 個体です。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において 4 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-8：1 箇所（夏季 1 個体） ・ Wp-10：3 箇所（冬季 1 個体、夏季 3 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35 (2) 重要な底生動物の予測結果（オオタニシ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 食性は雑食で、泥の表面を匍匐しながら藻類などを主に食べ、水中の有機物なども食べると考えられます。雌雄異体の卵胎生で、交尾は冬期を除く時期に行われ、雌の育児嚢内で胎貝を育てます。成育した胎貝は 6～8 月に親の体外へ放出されます。冬期には泥中に潜って越冬します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において 3 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-1 : 3 箇所（冬季 2 個体、夏季 9 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35(3) 重要な底生動物の予測結果（モノアラガイ）

分布・一般生態	国内では日本全国に分布します。 池沼や流れの緩い河川で、水草が繁茂している所に多く生息します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-5：1箇所（夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35(4) 重要な底生動物の予測結果（ヒラマキガイモドキ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 水田地帯の他、河川にも生息しますが、生活史に関する情報はありません。水田では、灌漑期に水を導いてからしばらくすると成貝が見られるようになることから、水田の泥の中か、もしくは田に導水する水路で越冬していると考えられます。			
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の草地と、河川の水辺植生において 2 箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 夏季		
	確認位置	対象道路内	—	
対象道路周辺		・ Wp-7：1 箇所（夏季 1 個体） ・ Wp-12：1 箇所（夏季 3 個体）		
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生			
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C

表 11-7-35 (5) 重要な底生動物の予測結果（ドブシジミ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、沖縄に分布します。 琵琶湖集水域では、水路やクリークなどの砂礫底ないし泥底で確認されています。多数の個体が生息する水路においても、翌年には確認できなくなるなど、個体数が著しく変動する事例もありますが、詳しい一般生態はよくわかっていません。雌雄同体で、卵胎生です。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水辺植生において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-7 : 1 箇所（夏季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35 (6) 重要な底生動物の予測結果（ミドリビル）

分布・一般生態	国内では、これまで関東（東京都）から中部、四国、九州にかけて報告がありますが、近年は高知県と琵琶湖水系から報告があるのみで、現状は不明です。 流れの緩やかな川底の石の表面や二枚貝の殻上に付着生活します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-8：1箇所（冬季1個体） ・Wp-9：1箇所（夏季1個体） ・Wp-10：1箇所（冬季1個体）
本種の主な生息環境	河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35 (7) 重要な底生動物の予測結果（イボビル）

分布・一般生態	文献情報では、東京都（井の頭）と北海道（札幌市）から報告されているのみですが、日本全国での分布や生息密度については未だ十分な情報がありません。 止水性の池に生息し落ち葉や底石の表面に付着生活します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-1：2箇所（冬季1個体、夏季1個体） ・Wp-3：1箇所（冬季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的変化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35 (8) 重要な底生動物の予測結果（サワガニ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州に分布します。 湧水池などの清流に多く見られます。雌は腹部に卵を抱いて、孵化するまで保護します。卵は大型で、稚ガニで孵化するため、生涯海に下ることはありません。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において8箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-5：4箇所（冬季9個体、夏季5個体） ・Wp-6：1箇所（夏季1個体） ・Wp-12：2箇所（冬季2個体、夏季1個体） ・Wp-13：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35(9) 重要な底生動物の予測結果（アオイトトンボ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 成虫は夏季、林内や林近くの茂った草地で見られ、9～10 月頃に平地から山地の水生植物が豊富な池沼・湿地で観察されます。1 年 1 世代で、秋に産卵し、卵越冬で翌春に孵化し、初夏に羽化します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水辺植生において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
対象道路周辺		・ Wp-13 : 1 箇所（夏季 2 個体）	
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、田園域、草地／低地・台地の二次林、田園域／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、田園域、低地・台地の二次林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、田園域、低地・台地の二次林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35(10) 重要な底生動物の予測結果（アオサナエ）

分布・一般生態	国内では、本州（東北や中部では限定）、四国、九州に分布します。 平野～丘陵部の砂底のある河川中流域や小河川、湖に生息します。2～3年1世代で幼虫越冬し、成虫は5～7月によく見られます。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域、水辺植生において5箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-6：1箇所（夏季3個体） ・Wp-7：2箇所（冬季1個体、夏季2個体） ・Wp-8：1箇所（冬季1個体） ・Wp-9：1箇所（夏季2個体）
本種の主な生息環境	河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域、水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域、水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35(11) 重要な底生動物の予測結果（オグマサナエ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州（中部以西）、四国（徳島県）、九州に分布します。 主に平地から丘陵地にかけての泥底のある古い池沼や、それにつながる緩流に見られます。2年1世代で、成虫は4～6月に出現します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において6箇所で確認されました。	
	確認時期	R2 冬季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-1：1箇所（夏季2個体） ・Wp-2：2箇所（冬季1個体、夏季2個体） ・Wp-3：2箇所（冬季1個体、夏季6個体） ・Wp-4：1箇所（冬季3個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35 (12) 重要な底生動物の予測結果（トラフトンボ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 ヒシやジュンサイなどの浮葉植物やヨシなど抽水植物のある比較的大きな池沼に生息することが多く、水域の周囲に木立があるなど、比較的自然度の高い環境を好む傾向が強いので、里山にある自然豊かなため池を代表するトンボです。1 年 1 世代で、成虫は 4～6 月に出現します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 冬季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-1 : 1 箇所（冬季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35 (13) 重要な底生動物の予測結果（ミズカマキリ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、隠岐、淡路島、四国、九州、対馬、沖縄島に分布します。 抽水植物や浮葉植物が多い池沼や水田などに生息します。前脚で水生昆虫などを捕獲し、体液を吸います。よく飛翔し、水泳プールや貯水池などにも飛来します。			
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において1箇所を確認されました。		
	確認時期	R2 冬季		
	確認位置	対象道路内	—	
		対象道路周辺	・Wp-1：1箇所（冬季1個体）	
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水辺植生			
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			C

表 11-7-35(14) 重要な底生動物の予測結果（コクロマメゲンゴロウ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 山地の小規模な流水域や浸み出した水で出来た浅い水域に生息します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-1：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35 (15) 重要な底生動物の予測結果（コミズスマシ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 止水域や水路、河川の淀みなどに生息します。水面を群泳し、水面に落ちた小昆虫などを捕食します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-10：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35(16) 重要な底生動物の予測結果（ミズスマシ）

分布・一般生態	国内では、北海道、本州、四国、九州に分布します。 ため池や水田などの止水域に生息し、水面を泳ぎ回ります。流れの緩やかな小水路や水たまりなどの小規模な水域でも見られます。水面を群泳し、水面に落ちた小昆虫などを捕食します。孵化した幼虫は水中の小動物を捕食して成長し、十分に成長すると上陸し水際に泥で繭を作り蛹化します。繁殖期は 5～8 月と考えられ、植物の茎などに産卵します。成虫は冬季には水域では見られず陸上で越冬します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-1 : 1 箇所（夏季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35 (17) 重要な底生動物の予測結果（コオナガミズスマシ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 河川の中流から下流域に生息し、水際の水面を遊泳します。昼間は水際の植物帯や流木の下に潜んでいることが多く、主に夜間活動し、水面に落ちた小昆虫などを捕食すると考えられます。成虫は夏季に多く見られ、灯火にも飛来します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-5：1箇所（夏季1個体） ・Wp-6：1箇所（夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35(18) 重要な底生動物の予測結果（オナガミズスマシ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 溪流に生息し、夜間に水際の水面を遊泳します。灯火にも飛来します。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-5：1箇所（夏季1個体） ・Wp-6：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	河川の水域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水域が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35(19) 重要な底生動物の予測結果（ヒメコガシラミズムシ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州、対馬、南西諸島に分布します。 植物が豊富で水質の良い止水域に生息します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の田園域において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Wp-1：1箇所（夏季3個体） ・Wp-3：1箇所（夏季3個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-35 (20) 重要な底生動物の予測結果（ヨコミゾドロムシ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州、四国、九州、南西諸島に分布します。 河川の中流～下流の植生帯や流木上、ため池に生息しています。成虫は 5～11 月に確認されています。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・ Wp-10 : 1 箇所（夏季 1 個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の田園域／河川の水域、水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水域、水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、本種は光に誘引される生態を持ちますが、道路照明の構造については、周辺環境への影響に配慮することから、生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

⑧ その他の動物（クモ類）

重要なその他の動物（クモ類）の予測結果は、表 11-7-36 に示すとおりです。

表 11-7-36 (1) 重要なその他の動物（クモ類）の予測結果（キノボリトタテグモ）

分布・一般生態	日本固有種で、本州（関東以南）、四国、九州、南西諸島に分布します。 岩や木の幹に袋状の住居をつくり、片開きの扉を付けます。住居や扉の表面は樹皮やコケで偽装されています。神社、仏閣、城址などで多く見られます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林等において 11 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・A ブロック：8 箇所（夏季 8 個体） ・E ブロック：3 箇所（夏季 3 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林／市街地他		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林、市街地他が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林、市街地他が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-36 (2) 重要なその他の動物（クモ類）の予測結果（ヒメヤマヤチグモ）

分布・一般生態	国内では、本州と四国に分布します。 採集記録が少なく、生息地が局限され、生息密度が低く、存続基盤が脆弱な種です。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において 1 箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 春季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・B ブロック：1 箇所（春季 1 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域／低地・台地の二次林、植林、田園域		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

⑩ その他の動物（ヤスデ類等）

重要なその他の動物（ヤスデ類等）の予測結果は、表 11-7-37 に示すとおりです。

表 11-7-37 重要なその他の動物（ヤスデ類等）の予測結果（アカサビザトウムシ）

分布・一般生態	青森以南の本州、四国に分布します。 卵越冬で成体は7月上旬から9月にかけて森林内の草本や樹幹上で見られます。 県内で染色体数と色斑の双方に集団間分化が顕著です。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林等において2箇所で確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季2個体） ・Bブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

⑪ その他の動物（陸産貝類）

重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果は、表 11-7-38 に示すとおりです。

表 11-7-38(1) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（ナガオカモノアラガイ）

分布・一般生態	国内では、本州（関東地方以西）、四国、九州に分布します。 湖沼やため池に生育する抽水植物群落のほか、水田地帯の用水路や側溝といった陸域環境と水域環境とをつなぐ水際の移行環境に生息しますが、水中に入ることはほとんどありません。厳冬期に側溝のコンクリート壁に付着した個体も確認されています。		
予測地域における確認状況	確認状況	市街地と、河川の水辺植生等において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（秋季1個体） ・Cブロック：1箇所（秋季1個体） ・Eブロック：1箇所（夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の田園域／低地・台地の田園域／河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 なお、橋脚設置予定の河川では、仮締切工法による直接流水に接しない施工を行い、必要に応じて仮設材料による一時的な流路の切り回し等を実施し、濁水の発生に留意した工法及び濁水を河川等に流さない方法を検討することから、水環境の変化による生息環境の質的变化はほとんど生じないと考えられます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の田園域、低地・台地の田園域が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 また、河川の水辺植生では、対象道路は、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38 (2) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（ヒラベッコウ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 自然度の高い森林の林床に生息し、朽ちた木の裏側や瓦礫の間に見られます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38 (3) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（ウメムラシタラガイ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 自然度の高い森林の林床の落葉枝層に生息します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林等において5箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2箇所（秋季1個体、夏季1個体） ・Cブロック：2箇所（秋季1個体、夏季1個体） ・Dブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38 (4) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（ヒメカサキビ）

分布・一般生態	国内では、福島・山形両県の県境周辺以南の本州、四国、九州に広く分布します。 低地や山麓など広範囲の常緑広葉樹林林床落葉間に産し、適度に保湿された場所に見られます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と、低地・台地の植林、田園域において3箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：3箇所（秋季2個体、夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38 (5) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（エチゼンビロウドマイマイ）

分布・一般生態	国内では、富山県、石川県、福井県に分布します。 乾燥に弱く、山地の湿潤な所に生息します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：2箇所（秋季5個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38 (6) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（ニッポンマイマイ）

分布・一般生態	国内では、本州（東北地方から近畿地方）に分布します。 比較的開けた林床に草本が生い茂る場所に生息します。草本の上をはい回り、草の裏で休眠することがあります。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林等において 9 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：3 箇所（秋季 3 個体、夏季 1 個体） ・Bブロック：1 箇所（秋季 1 個体） ・Dブロック：2 箇所（秋季 1 個体、夏季 1 個体） ・Eブロック：3 箇所（秋季 1 個体、夏季 2 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、田園域、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38 (7) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（コベソマイマイ）

分布・一般生態	基準産地は日本で、本州（関東地方以西）、四国、九州に分布します。 森林の林縁部で草本や低木が生い茂った環境に見られ、低山から平野部の山裾に生息することが多く、地上棲で、草本上をはうこともあります。樹上に登ることはありません。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林等において 5 箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：2 箇所（秋季 1 個体、夏季 1 個体） ・Dブロック：3 箇所（秋季 3 個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38 (8) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（オオミケマイマイ）

分布・一般生態	基準産地は滋賀県伊吹町板並で、北陸地方に分布します。 山岳地帯の原生林にも低密度に生息する一方で、市街地周辺の公園で一時的に高密度に発生した例も知られています。完全に地上棲で、樹木や草の上に登ることはありません。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38 (9) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果
（ギュウリキマイマイ（イセノナミマイマイ））

分布・一般生態	国内では、中部、福井県、近畿に分布します。 人為色の強い雑木林、社寺林、古い民家の生垣の樹幹に生息します。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の二次林、田園域等において12箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：6箇所（秋季13個体、夏季3個体） ・Cブロック：5箇所（秋季5個体、夏季3個体） ・Eブロック：1箇所（秋季1個体）
本種の主な生息環境	低地・台地の二次林、植林、田園域／市街地他		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の二次林、植林、田園域、市街地他が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である低地・台地の二次林、植林、田園域、市街地他が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38(10) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（イブキクロイワマイマイ）

分布・一般生態	クロイワマイマイの地方亜種で、伊吹山地（岐阜県、滋賀県境）から鈴鹿山脈（三重県、滋賀県境）を経て京都府南部にかけて分布します。 主として低山の森林に生息し、集落周辺の社寺や樹林にも見られます。通常は地上棲ですが、活動期にはしばしば樹上に登り、樹幹で休眠する個体も見られます。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の植林と、低地・台地の二次林において2箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Eブロック：2箇所（夏季2個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林／市街地他		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林、市街地他が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林、市街地他が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38(11) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（カタママイマイ）

分布・一般生態	国内では、本州（関東地方以西）、九州地方北部に分布します。 生息地は局所的で、生息地内でしばしば個体密度が高くなることもありながら、いつの間にか消失してしまった事例もあり、不安定な個体群動態を示すことが知られています。		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の水辺植生において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：1箇所（夏季10個体）
本種の主な生息環境	河川の水辺植生		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である河川の水辺植生が存在し、橋梁構造又は盛土構造で通過します。橋梁構造で通過する河川のうち橋脚設置予定の河川では、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、水辺には同様の環境が広く残されます。盛土構造で通過する河川では水域の一部が暗渠の設置又は付替えが必要となり、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、改変箇所の上下流には同様の環境が広く残されます。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38(12) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（マメマイマイ）

分布・一般生態	国内では、本州（東海地方から近畿地方中部）に分布します。 比較的開けた草本が茂る森林で確認されます。草本上や樹幹、木や草の葉裏に見られます。		
予測地域における確認状況	確認状況	低地・台地の田園域において1箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Aブロック：1箇所（秋季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林、草地／低地・台地の二次林、植林、田園域、草地		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林、田園域、草地が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

表 11-7-38(13) 重要なその他の動物（陸産貝類）の予測結果（タワラガイ）

分布・一般生態	国内では、本州、四国、九州に分布します。 自然林やスギ植林の林床に生息します。		
予測地域における確認状況	確認状況	山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、田園域と、市街地において5箇所を確認されました。	
	確認時期	R1 秋季、R2 夏季	
	確認位置	対象道路内	—
		対象道路周辺	・Bブロック：4箇所（秋季2個体、夏季2個体） ・Eブロック：1箇所（夏季1個体）
本種の主な生息環境	山地・丘陵地の二次林、植林／低地・台地の二次林、植林		
工事の実施による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、工事の実施により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、工事施工ヤードは対象道路上を利用し、工事用道路は既存道路を極力利用する計画であるため土地の改変は最小限に抑えられ、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C
道路の存在による影響の予測	対象道路には、本種の主な生息環境である山地・丘陵地の二次林、植林、低地・台地の二次林、植林が存在し、道路の存在により一部の生息環境が消失・縮小しますが、山地・丘陵地の二次林、植林の大部分はトンネル構造で通過するとともに、周辺には同様の環境が広く分布しています。 よって、本種の生息環境は保全されると予測されます。		C

(3) 環境保全措置の検討

1) 環境保全措置の検討

予測の結果より、工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る動物への影響について、事業者の実行可能な範囲内で環境影響をできる限り回避又は低減することを目的として、6案の環境保全措置を検討しました。

検討の結果、「移動経路の確保」、「使用重機の配慮」、「濁水処理施設の設置」、「河川への影響に配慮した施工」、「道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘因性の低い照明の採用」及び「工事関係者の教育」を採用します。

検討した環境保全措置は、表 11-7-39 に示すとおりです。

表 11-7-39 環境保全措置の検討

環境保全措置	実施の適否	適否の理由
移動経路の確保	適	ボックスカルバート等の設置により、動物の移動経路の分断を低減できることから、本環境保全措置を採用する。
使用重機の配慮	適	低騒音・低振動型建設機械の採用により、騒音・振動の発生の低減が見込まれ、猛禽類の繁殖への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用する。
濁水処理施設の設置	適	濁水処理施設からの放流水は、排水基準を遵守して排水することにより、汚濁負荷量の低減効果が確実に見込めるとともに、メンテナンスを行うことにより、低減効果の持続性も十分に見込め、水の濁りに係る影響を低減でき、河川等の水域の動物の生息環境への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用する。
河川への影響に配慮した施工	適	河川内における基礎工事等において、濁水処理施設の設置及び仮締切工法による直接流水に接しない施工や仮設材料による一時的な流路の切り回し等を行うことにより水の濁りに係る影響を低減でき、河川等の水域の動物の生息環境への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用する。
道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘因性の低い照明の採用	適	道路照明はルーバー等の設置により光の漏れ出しを防止した構造にするとともに、誘引性の低い照明を採用することにより、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類の生息環境への影響を低減できることから、本環境保全措置を採用する。
工事関係者の教育	適	工事関係者に環境配慮の方針や方法を説明し、工事中の影響を回避又は低減できることから、本環境保全措置を採用する。

2) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断されます。

3) 検討結果の整理

環境保全措置に採用した「移動経路の確保」、「使用重機の配慮」、「濁水処理施設の設置」、「河川への影響に配慮した施工」、「道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘因性の低い照明の採用」及び「工事関係者の教育」の効果、実施位置、他の環境への影響について整理した結果は、表 11-7-40 に示すとおりです。

表 11-7-40 (1) 環境保全措置の検討結果の整理

実施主体	国土交通省 近畿地方整備局	
実施内容	種類	移動経路の確保
	位置	移動経路の分断が生じる箇所
環境保全措置の効果	ボックスカルバート等の設置により、動物の移動経路の分断を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	生態系への影響が低減される。	

注) 環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針や保全対象種の特性を踏まえて決定する。

表 11-7-40 (2) 環境保全措置の検討結果の整理

実施主体	国土交通省 近畿地方整備局	
実施内容	種類	使用重機の配慮
	位置	建設機械が稼働する場所
環境保全措置の効果	低騒音・低振動型建設機械の採用により、騒音・振動の発生の低減が見込まれ、猛禽類の繁殖活動への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	騒音、振動、生態系への影響が低減される。	

注) 環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針や保全対象種の特性を踏まえて決定する。

表 11-7-40 (3) 環境保全措置の検討結果の整理

実施主体	国土交通省 近畿地方整備局	
実施内容	種類	濁水処理施設の設置
	位置	工事の実施区域全体
環境保全措置の効果	濁水処理施設からの放流水は、排水基準を遵守して排水することにより、汚濁負荷量の低減効果が確実に見込めるとともに、メンテナンスを行うことにより、低減効果の持続性も十分に見込め、水の濁りに係る影響を低減でき、河川等の水域の動物の生息環境への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	水質、植物、生態系への影響が低減される。	

注) 環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針や保全対象種の特性を踏まえて決定する。

表 11-7-40 (4) 環境保全措置の検討結果の整理

実施主体	国土交通省 近畿地方整備局	
実施内容	種類	河川への影響に配慮した施工
	位置	河川の改変及び水底の掘削を行う箇所
環境保全措置の効果	河川内における基礎工事等において、濁水処理施設の設置及び仮締切工法による直接流水に接しない施工や仮設材料による一時的な流路の切り回し等を行うことにより水の濁りに係る影響を低減でき、河川等の水域の動物の生息環境への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	水質、植物、生態系への影響が低減される。	

注) 環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針や保全対象種の特性を踏まえて決定する。

表 11-7-40 (5) 環境保全措置の検討結果の整理

実施主体	国土交通省 近畿地方整備局	
実施内容	種類	道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘因性の低い照明の採用
	位置	道路照明の設置個所
環境保全措置の効果	道路照明はルーバー等の設置により光の漏れ出しを防止した構造にするとともに、誘引性の低い照明を採用することにより、夜行性の動物、光に誘引される性質を持つ昆虫類の生息環境への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	生態系への影響が低減される。	

注) 環境保全措置の具体化の検討時期は、道路の詳細設計段階とし、最新の技術指針や保全対象種の特性を踏まえて決定する。

表 11-7-40 (6) 環境保全措置の検討結果の整理

実施主体		国土交通省 近畿地方整備局
実施内容	種類	工事関係者の教育
	位置	工事の実施区域全体
環境保全措置の効果		工事関係者に環境配慮の方針や方法を説明し、工事中の影響を回避又は低減できる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		植物、生態系への影響が低減される。

注) 環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針や保全対象種の特性等を踏まえて決定する。

2.2 評価

(1) 評価の手法

1) 回避又は低減に係る評価

工事の実施（建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置）及び道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在に係る動物への影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行いました。

(2) 評価の結果

1) 回避又は低減に係る評価

対象道路は、道路の計画段階において、注目すべき生息地の通過をできる限り避けるとともに、自然環境及び土地の改変量を極力抑えた計画としています。また、工事施工ヤードは対象道路上を、工事用道路は既存道路を極力利用して、工事の実施による土地の改変を最小限に抑えた計画としており、重要な動物の生息環境への影響に配慮し、環境負荷の回避・低減を図っています。

加えて、環境保全措置として「移動経路の確保」、「使用重機の配慮」、「濁水処理施設の設置」、「河川への影響に配慮した施工」、「道路照明の漏れ出しを防止した構造及び誘因性の低い照明の採用」及び「工事関係者の教育」を実施することで、環境負荷を回避・低減します。

なお、予測し得ない環境上の著しい影響が生じたことが判明した場合は、事業者が関係機関と協議し、専門家の意見及び指導を得ながら、必要に応じて適切な措置を講じます。

このことから、環境影響は事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価します。